

札幌市子どもの生活実態調査報告書

令和 4 年 7 月

札幌市

目次

実態調査の概要	1
市民アンケート分析結果	7
集計方法等について	10
1 所得階層について	10
2 世帯類型について	11
3 集計結果の示し方について	11
第一部 保護者回答結果より	13
1 調査回答世帯について	14
・学年 ・世帯類型 ・所得階層 ・回答者と子どもとの関係	
・回答者の年齢 ・家族に含まれる人の組み合わせ	
2 働き方について	20
・母親の就業状況 ・母親の就業形態 ・父親の就業状況	
3 家計・生活不安について	26
・家計の状況 ・経済的な理由で家族が必要とする衣服を買えなかった経験	
・経済的な理由で家族が必要とする食料を買えなかった経験	
・経済的な理由で冬に暖房が使えなかった経験	
・電気、ガス、水道の支払い滞納状況 ・現在の貯金額 ・今後の生活への不安	
4 健康について	41
・保護者の健康状態 ・保護者の心の健康状態 ・子どもの健康状態	
・子どもに必要な病院受診をさせなかった経験	
・子どもに必要な病院受診をさせなかった理由	
・自身が必要な病院受診をしなかった経験	
5 進学について	53
・子どもにどの段階まで教育を受けさせたいか（小5・中2保護者）	
・高校卒業後の進路についてどのように考えているか（高2の保護者）	
・教育を受けさせるためのお金の準備（小5・中2保護者）	
・子どもが高校卒業後に進学する場合のお金の用意の方法（高2の保護者）	
6 子育てについて	62
・子ども部屋はあるか ・子ども専用の勉強机はあるか	

- ・子どもを習い事に通わせているか ・子どもを学習塾に通わせているか
- ・子ども、子育てについての悩みを相談する相手
- ・子どもの面倒を見られなくなったときに代わって子どもの面倒を見てくれる人

7 制度の利用について.....74

- ・子育てに関する制度やサービスの利用状況（放課後児童クラブ）
- ・子育てに関する制度やサービスの利用状況（児童会館・ミニ児童会館）
- ・子育てに関する制度やサービスの利用状況（子ども食堂）
- ・子育てに関する制度やサービスの利用状況（無料の学習支援）
- ・子育てに関する機関や相談窓口を知らなかったと回答した人の割合
- ・手当等の制度利用（児童扶養手当） ・手当等の制度利用（生活保護）
- ・手当等の制度利用（就学援助）

8 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響について.....89

- ・母親の仕事への影響 ・父親の仕事への影響 ・回答者自身への影響
- ・子どもへの影響 ・家庭の家計への影響

第二部 子ども回答結果より.....105

1 自分の家の暮らし向き.....106

- ・自分の家の暮らし向き

2 居場所・相談相手・食事等について.....109

- ・平日の放課後一緒に過ごす相手（一人である） ・放課後過ごす場所（自分の家）
- ・放課後過ごす場所（同じ学校の友達の家） ・放課後過ごす場所（同じ学校ではない友達の家）
- ・放課後過ごす場所（児童会館・ミニ児童会館） ・放課後過ごす場所（塾や習い事）
- ・ほっとできる場所 ・あれば使ってみたい場所（平日の放課後に夜までいることができる場所）
- ・あれば使ってみたい場所（休日にいることができる場所）
- ・あれば使ってみたい場所（家の人がいないとき夕ご飯をみんなで食べることができる場所）
- ・あれば使ってみたい場所（大学生のお兄さんやお姉さんが勉強を無料で見てくれる場所）
- ・あれば使ってみたい場所（なんでも相談できる場所）
- ・悩みごとの相談相手 ・平日に夕食をだれと食べるか

3 進学・勉強時間・成績について.....136

- ・どの段階まで進学したいか
- ・どの段階まで進学したかという間に「高校まで」と答えた理由
- ・授業以外の日あたりの勉強時間（学校がある日）
- ・成績がクラス、学年の中でどのくらいだと思うか

4 健康(精神衛生)について	144
・抑うつ尺度 ・自分の家の暮らし向きと抑うつ尺度のクロス集計	
5 家族のお世話について	149
・家族の中のお世話が必要な人のお世話は誰がしているか	
・お世話により自身の生活に問題が生じているか	
自由記載欄について	153
支援者ヒアリング実施結果	157
座談会実施結果	167

調査の概要

札幌市の子どもの貧困に関する実態を把握したうえで、困難を抱える子ども及び世帯の状況から子どもの貧困に関する現状や課題を分析し、「札幌市子どもの貧困対策計画」の改定のための基礎資料とすることを目的に、

①市民アンケート、②支援者ヒアリング、③座談会

の3つの方法により、それぞれ以下の概要によって実施した。

1 市民アンケート

(1) 目的

子どもやその世帯の家庭生活・教育・就労等に関する実態をライフステージに分けて把握することで、本市における子どもの現状をより詳細に把握する。

(2) 調査対象

2歳・5歳・小学2年生・5年生・中学2年生・高校2年生の保護者及び子ども（2歳・5歳・小2は保護者のみ、小5・中2・高2は保護者・子ども双方）

【調査対象年齢の考え方】

各成長段階を6区分〔乳児、幼児、小学生（低・高学年）、中学生、高校生〕に分け、概ね3歳ごとの6区分のうち各中間の年齢（学年）を各区分の代表年齢とした。

(3) 調査方法

- ・無記名によるアンケート方式。
- ・2歳は、郵送（回答のみWEB可）。
- ・5歳、小2、小5、中2、高2は、幼稚園や保育園、学校を通じて調査票を配布・回収する機関配布。
- ・配布、回収、集計は委託業者にて行った。

(4) 実施時期

- ・郵送（2歳） 令和3年10月20日（水）～11月12日（金）
- ・機関配布（5歳、小2、小5、中2、高2） 令和3年10月20日（水）以降、順次調査対象施設（幼稚園・保育所、学校）を通じ配布。同年11月19日（金）回収〆切。

(5) 主な調査項目

- ・保護者：就労状況、健康状況、子育ての状況、暮らし向き、収入の内訳、制度の利用や意見、新型コロナウイルス感染症の影響等
- ・子ども：生活、食事・健康・暮らしの状況、学校・勉強、自身のこと、新型コロナウイルス感染症の影響等

【機関配布について】

○施設選定の考え方（共通）

- ・各区の配布数：対象年齢ごとの人口比
- ・各年齢段階の施設種別の配布数：在籍児童生徒数の割合
- ・その他：概ね中規模施設とし、施設種別による個々の状況を考慮

○配布施設種別

< 5 歳 >

市内の幼稚園（12 園）、保育所（21 園、うち市立 3 園）

※地域型保育事業や無認可保育所、在宅児童は、機関配布が困難なため除く。

< 小 2、小 5 >

市立小学校 19 校（区の規模により選定数を調整）

< 中 2 >

市立中学区 10 校（各区 1 校）

< 高 2 >

道立 9 校、市立 4 校、私立 2 校の計 15 校（偏差値を考慮）

(6) 回収状況

（単位：件、％）

調査対象	配布・回収方法		配布対象者		回収数/回収率			
			保護者	子ども	保護者		子ども	
2歳	郵送・WEB		2,500	—	1,398	55.9%	—	—
5歳	機関 配布	保育所・幼稚園	1,553	—	1,131	72.8%	—	—
小2		学校	1,473	—	1,249	84.8%	—	—
小5			1,500	1,500	1,263	84.2%	1,262	84.1%
中2			1,476	1,476	1,133	76.8%	1,132	76.7%
高2			1,449	1,449	1,108	76.5%	1,119	77.2%
合計			9,951	4,425	7,282	73.2%	3,513	79.4%
合計(保護者＋子ども)			配布数	14,376	回収数	10,795	回収率	75.1%

(7) 調査の実施について

アンケート調査は、札幌市子ども未来局子ども育成部と北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターが共同で実施。

調査票の設計、分析及び報告書の作成は、札幌市と共同で下記の9名が行った。

- ・松本 伊智朗（北海道大学大学院教育学研究院教授）
- ・関 あゆみ（同上）
- ・加藤 弘通（北海道大学大学院教育学研究院准教授）
- ・川田 学（同上）
- ・鳥山まどか（同上）
- ・上山浩次郎（北海道大学大学院教育学研究院講師）
- ・大谷 和大（同上）
- ・大澤 真平（子ども発達臨床研究センター学外研究員・札幌学院大学人文学部准教授）
- ・佐藤 奈月（北海道大学大学院教育学院博士後期課程）

2 支援者ヒアリング

(1) 目的

支援を必要とする状態にある子どもやその家庭の生活像等について、支援する側からの意見を把握することで、計画策定のための基礎資料とする他、必要な支援等の検討資料とする。

(2) 実施方法

担当職員が施設（担当部署）を訪問し、実際に支援に携る方からインタビュー形式で聞き取りを行った。所要時間は概ね1時間～1時間30分。

(3) 実施時期

令和3年7月～11月

(4) 主な調査項目

支援機関等を下記の2区分に区別し、主な調査項目を変えて聞き取りを行った。

- ① 経済状況等の家庭状況を把握したうえで、子どもや保護者を支援することが標準的な業務である関係機関・団体
 - ア 経済的に困窮する家庭の子どもや保護者への支援について
 - イ 困難を抱える世帯との関わりについて
 - ウ 支援する際に気をつけていること
 - エ 関係機関との情報共有や連携について
 - オ 必要な支援や制度について
 - カ 新型コロナウイルス感染症による影響について
- ② 経済状況等の家庭状況を把握したうえで、子どもや保護者を支援することが標準的な業務ではない関係機関・団体
 - ア 支援対象となる家庭の子どもや保護者の状況や課題について
 - イ 支援方法及び支援する際に気をつけていること
 - ウ 経済的に困窮する世帯との関わりについて
 - エ 関係機関との情報共有や連携について
 - オ 必要な支援や制度について
 - カ 新型コロナウイルス感染症の影響について

(5) 調査対象

対象		施設・団体名		区分
1	乳児院	1	札幌乳児院	①
2	保育所	2	まこと保育所	②
3	民間の支援団体(子育て支援)	3	ねっこぼっこのいえ	②
4	ファミリーホーム	4	恵みの家	①
5	学校関係	5	札幌市教育センター(教育相談室) /幼児教育センター	②
		6	スクールソーシャルワーカー	②
		7	養護教諭	②
		8	市立札幌大通高等学校	②
6	民間の支援団体(学習支援)	9	NPO 法人Kacotam	②
7	民間の支援団体(子ども食堂)	10	ぴらけし・みんな食堂	②
8	フリースクール	11	星の教室	②
9	自立援助ホーム	12	トライアングル	①
10	若者支援施設	13	若者支援総合センター	②
11	児童相談所	14	児童相談所(相談判定一課)	①
12	児童養護施設	15	興正学園	①
13	児童家庭支援センター	16	興正こども家庭支援センター	①
		17	札幌乳児院児童家庭支援センター	①
14	ひとり親支援団体	18	札幌市母子寡婦福祉連合会 (ひとり親家庭支援センター)	①
15	母子生活支援施設	19	すずらん	①
16	区)保護課・保護自立支援課	20	保護自立支援課	①
		21	学びのサポート事業(まなべえ)	①
		22	保護課(中央区)	①
17	区)健康・子ども課	23	母子・婦人相談(西区)	①
		24	母子保健(西区)	①
		25	家庭児童相談担当係(白石区)	①
18	障がい児支援	26	麦の子会	②
19	外国籍関係	27	国際プラザ	②
20	アイヌ民族関係	28	アイヌ市民交流会館	①

3 座談会

(1) 目的

市民アンケートや支援者ヒアリングだけでは把握しにくい、若者が抱えている困難な状況や今後必要と考えられる支援を、直接把握する。

(2) 実施対象

児童養護施設退所者、生活保護受給世帯・ひとり親世帯で成育した 10 代後半～30 代前半の若者（不登校、引きこもり、ヤングケアラー等の経験もあり。）

(3) 実施方法

ファシリテーター役 1 名と記録者と担当職員が施設等を訪問し、調査対象のグループごとに座談会形式にて実施。1 回あたり 1 ～ 2 時間程度で下記の概要で 2 回実施した。

(4) 実施時期

令和 4 年 4 月

(5) 実施概要

	第 1 回	第 2 回
参加者	10 代後半～20 代前半若者	20 代前半～30 代前半若者
実施日	令和 4 年 4 月 6 日	令和 4 年 4 月 22 日
参加者数	4 名	5 名
主な状況	児童養護施設退所者	生活保護受給世帯・ひとり親世帯出身者（過去に不登校、ひきこもり、ヤングケアラー等の経験もあり。）

● 留意点

支援者ヒアリング実施結果及び座談会実施結果に掲載した内容については、支援者ヒアリング、座談会の実施時の発言をそのまま掲載しているものではなく、適宜要約して掲載している。

また、掲載した内容は、調査に協力をいただいた方それぞれの立場や視点からの意見等に基づくものであり、統計的な裏付け等がなされているわけではない。

市民アンケート分析結果

調査概要

集計方法等について

1 所得階層について

【所得階層（表3）の算出方法】

本報告書で用いられる5区分の所得階層は、2019年の国民生活基礎調査における貧困率の推計に用いられる「相対的貧困線」を基準線として用い、その倍率に準じて設定している。該当する倍率は、「低所得層Ⅰ」：1.0倍未満、「低所得層Ⅱ」：1.0～1.4倍未満、「中間所得層Ⅰ」：1.4～1.8倍未満、「中間所得層Ⅱ」：1.8～2.5倍未満、「上位所得層」2.5倍以上である。基準線（相対的貧困線）は、一人当たり等価可処分所得の中央値の50%であり、2019年国民生活基礎調査では127万円である。これに世帯人数の平方根を掛けて、世帯人数ごとの基準線を設定した。

調査では、50万刻みの選択肢（800万以上は100万刻み）で年間所得の回答を求めている。これは当初所得なので、可処分所得に変換する必要がある。国民生活基礎調査では、所得5分位階層ごとに、所得範囲と平均所得（a）、平均可処分所得（b）を示している。これによって、それぞれの所得分位（所得範囲）ごとの平均所得と平均可処分所得の比を求めることができる。この比を係数として用い、当該世帯の可処分所得の推計値を算出し、該当する上記の所得階層区分を当てはめた。

本調査では、基本的に50万刻みの選択肢で「所得の幅」を把握しているので、選択肢の区分線と所得階層区分線が一致しない場合が生ずる。これについては、ずれの幅の小さいほうの所得階層に区分することとした。

※ 国の子どもの貧困率等の基となる国民生活基礎調査では、税や社会保険料などの詳細な調査により可処分所得を把握しているが、本アンケート調査では、年間収入から可処分所得を推計しており、調査・集計方法が異なるため単純な比較はできない。

所得階層区分の名称	所得が相対的貧困線の 何倍であるか	所得
低所得層Ⅰ	1.0倍未満の世帯	低
低所得層Ⅱ	1.0～1.4倍未満の世帯	
中間所得層Ⅰ	1.4～1.8倍未満の世帯	
中間所得層Ⅱ	1.8～2.5倍未満の世帯	
上位所得層	2.5倍以上の世帯	高

2 世帯類型について

世帯類型は、「父＋母＋子」と「父＋母＋子＋祖父母」（祖父のみ、祖母のみの場合を含む。以下同様）を「ふたり親世帯」とし、「母＋子」、「母＋子＋祖父母」、「父＋子」、「父＋子＋祖父母」を「ひとり親世帯」として、調査結果を示している。

3 集計結果の示し方について

- ・この集計では、一部を除き、各設問ごとに、学年、世帯類型、所得階層とのクロス集計を示している。
- ・集計は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・回答割合（％）は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問は全ての比率を合計すると100.0%を超える場合がある。
- ・文章中及び図表内の「n=〇〇」はその設問についての回答者数を示している。
- ・集計した表には「不明」（無回答・無効回答を合わせたもの）を記載しているが、グラフには「不明」を表記していない。このため、グラフ内の数値を合計しても100.0%とならない。

第一部

保護者回答結果より

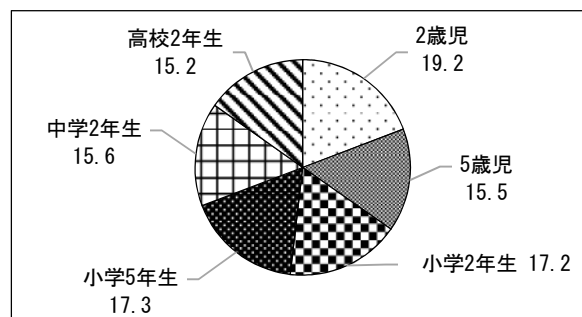
第一部 保護者回答結果より

1 調査回答世帯について

表 1 学年

No.	カテゴリー名	n	%
1	2 歳児	1398	19.2%
2	5 歳児	1131	15.5%
3	小学 2 年生	1249	17.2%
4	小学 5 年生	1263	17.3%
5	中学 2 年生	1133	15.6%
6	高校 2 年生	1108	15.2%
	全体	7282	100.0%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

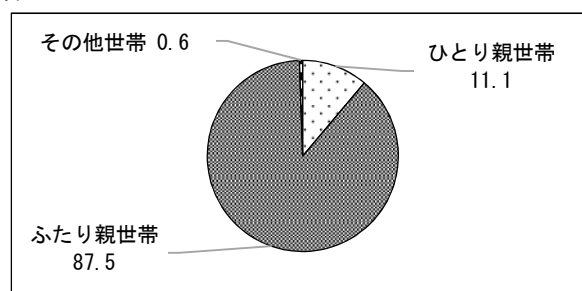


※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 2 世帯類型

No.	カテゴリー名	n	%
1	ひとり親世帯	805	11.1%
2	ふたり親世帯	6371	87.5%
3	その他世帯	41	0.6%
	不明	65	0.9%
	全体	7282	100.0%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

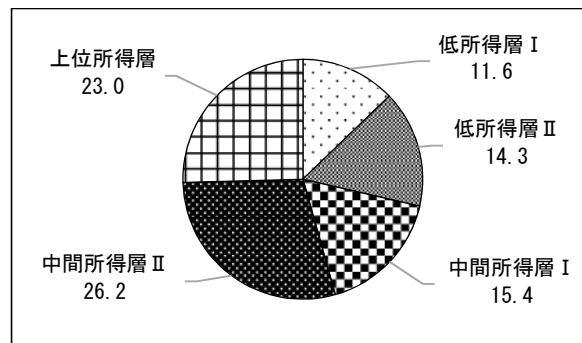


※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 3 所得階層

No.	カテゴリー名	n	%
1	低所得層 I	842	11.6%
2	低所得層 II	1040	14.3%
3	中間所得層 I	1122	15.4%
4	中間所得層 II	1905	26.2%
5	上位所得層	1672	23.0%
	不明	701	9.6%
	全体	7282	100.0%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

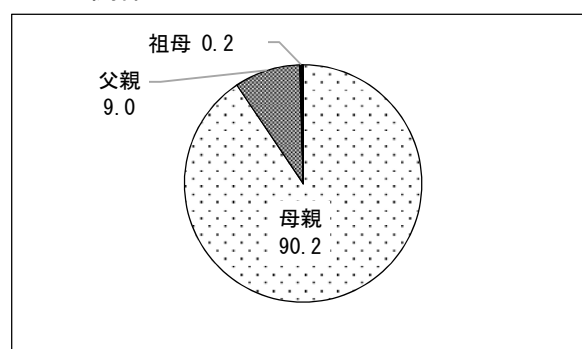


※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 4 回答者と子どもとの関係

No.	カテゴリー名	n	%
1	母親	6571	90.2%
2	父親	652	9.0%
3	きょうだい	6	0.1%
4	祖母	16	0.2%
5	祖父	1	0.0%
6	その他	9	0.1%
	不明	27	0.4%
	全体	7282	100.0%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

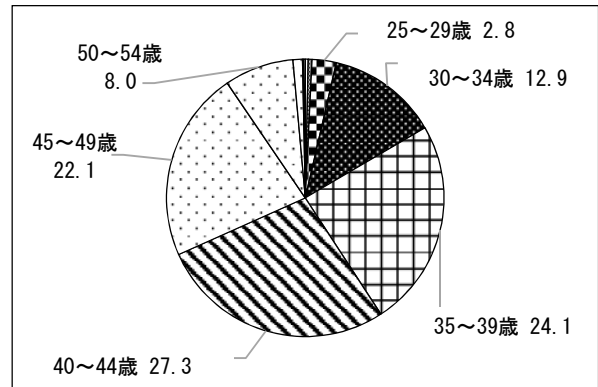


※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 5 回答者の年齢

No.	カテゴリ名	n	%
1	～19 歳	25	0.3%
2	20～24 歳	32	0.4%
3	25～29 歳	204	2.8%
4	30～34 歳	939	12.9%
5	35～39 歳	1755	24.1%
6	40～44 歳	1989	27.3%
7	45～49 歳	1606	22.1%
8	50～54 歳	584	8.0%
9	55～59 歳	81	1.1%
10	60～64 歳	11	0.2%
11	65 歳以上	12	0.2%
	不明	44	0.6%
	全体	7282	100.0%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

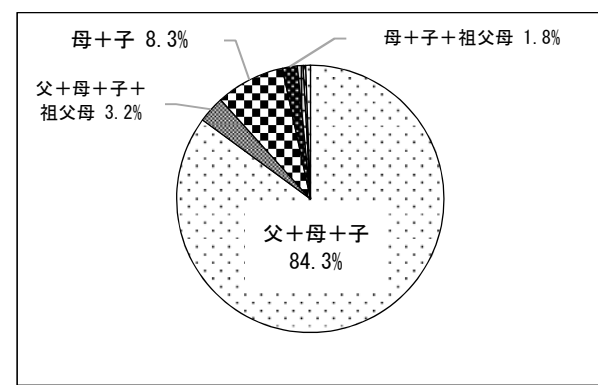


※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 6 家族に含まれる人の組み合わせ

No.	カテゴリ名	n	%
1	父+母+子	6139	84.3%
2	父+母+子+祖父母	232	3.2%
3	母+子	604	8.3%
4	母+子+祖父母	130	1.8%
5	父+子	51	0.7%
6	父+子+祖父母	20	0.3%
7	その他	41	0.6%
	不明	65	0.9%
	全体	7282	100.0%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答



※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

この報告書では、子どもの学年別、世帯類型別、所得階層別に主な調査結果を確認していく。そこではじめに、子どもの学年（年齢）、世帯類型、所得階層別の回答者分布および、回答者が誰か（子どもからみた関係）、回答者の年齢を確認しておく。

表 1 の学年は、保護者の回答にもとづいている。小学 5 年生以上の学年では、保護者のみ、あるいは子どものみが回答した世帯もある（詳細は「調査概要」の回収率の説明を参照）。したがって、第 2 部の子ども調査の結果で示す母数と一致していない部分がある。

表 6 は、「家族に含まれる人の組み合わせ」の回答結果である。このうち、「父+母+子」と「父+母+子+祖父母」（祖父のみ、祖母のみの場合を含む。以下同様）を「ふたり親世帯」とし、「母+子」、「母+子+祖父母」、「父+子」、「父+子+祖父母」を「ひとり親世帯」として、以下、調査結果を示していく（表 2）。

この報告書では、世帯人数と世帯収入に応じた 5 区分の所得階層を設定した。所得階層区分による調査回答世帯の分布は表 3 のとおり（＊所得階層区分の算出方法は、「集計方法等について」の「1 所得階層について」を参照）。

回答者のおよそ 9 割（90.2%）が子どもの母親である（表 4）。回答者の年齢の分布は表 5 のとおりである。

表 7 学年と世帯類型のクロス

		合計	世帯類型			
			ひとり親世帯	ふたり親世帯	その他世帯	不明
全体		7282	805	6371	41	65
		100.0%	11.1%	87.5%	0.6%	0.9%
学年	2歳児	1398	71	1313	10	4
		100.0%	5.1%	93.9%	0.7%	0.3%
	5歳児	1131	82	1038	3	8
		100.0%	7.3%	91.8%	0.3%	0.7%
	小学2年生	1249	119	1120	4	6
		100.0%	9.5%	89.7%	0.3%	0.5%
	小学5年生	1263	177	1060	4	22
		100.0%	14.0%	83.9%	0.3%	1.7%
	中学2年生	1133	174	936	7	16
		100.0%	15.4%	82.6%	0.6%	1.4%
	高校2年生	1108	182	904	13	9
		100.0%	16.4%	81.6%	1.2%	0.8%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

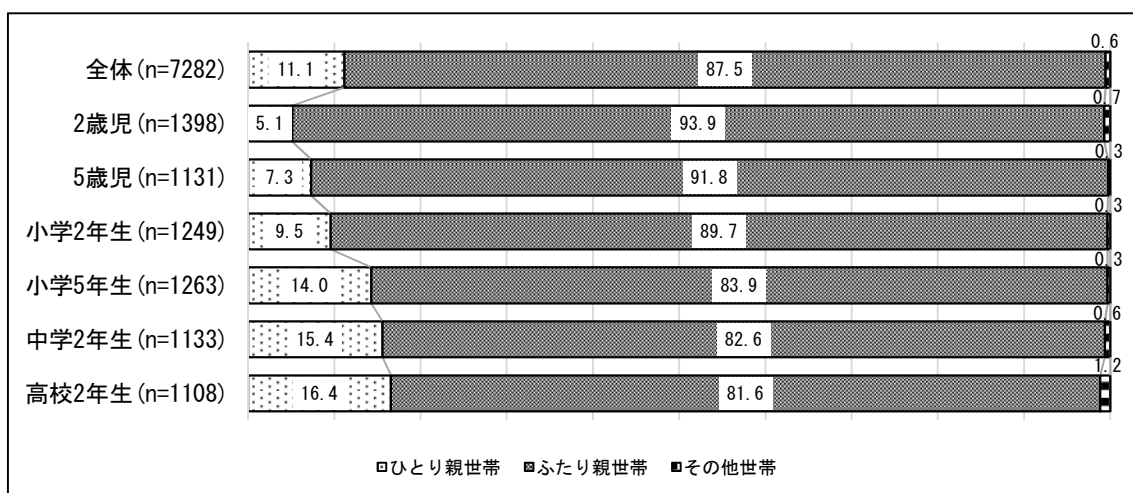


表 8 学年と所得階層のクロス

		合計	所得階層					
			低所得層Ⅰ	低所得層Ⅱ	中間所得層Ⅰ	中間所得層Ⅱ	上位所得層	不明
全体		7282 100.0%	842 11.6%	1040 14.3%	1122 15.4%	1905 26.2%	1672 23.0%	701 9.6%
学年	2 歳児	1398 100.0%	139 9.9%	241 17.2%	264 18.9%	392 28.0%	284 20.3%	78 5.6%
	5 歳児	1131 100.0%	116 10.3%	172 15.2%	179 15.8%	326 28.8%	230 20.3%	108 9.5%
	小学 2 年生	1249 100.0%	140 11.2%	173 13.9%	193 15.5%	298 23.9%	314 25.1%	131 10.5%
	小学 5 年生	1263 100.0%	158 12.5%	175 13.9%	193 15.3%	305 24.1%	317 25.1%	115 9.1%
	中学 2 年生	1133 100.0%	140 12.4%	148 13.1%	170 15.0%	295 26.0%	254 22.4%	126 11.1%
	高校 2 年生	1108 100.0%	149 13.4%	131 11.8%	123 11.1%	289 26.1%	273 24.6%	143 12.9%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

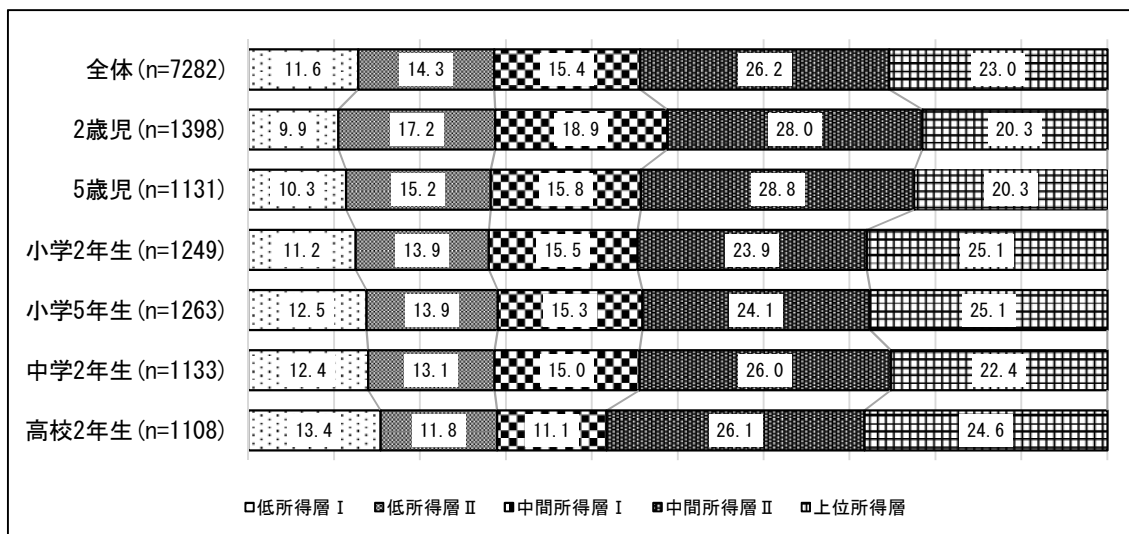
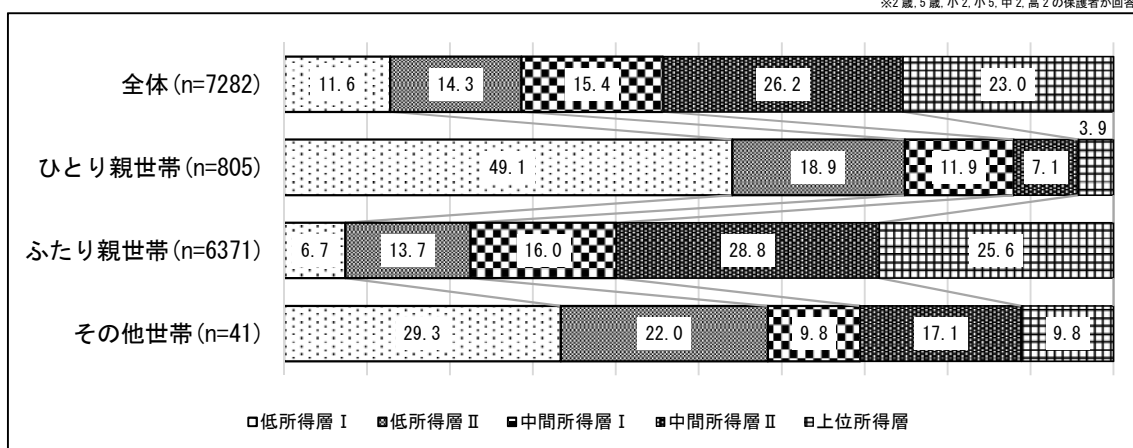


表 9 世帯類型と所得階層のクロス

		合計	所得階層					
			低所得層Ⅰ	低所得層Ⅱ	中間所得層Ⅰ	中間所得層Ⅱ	上位所得層	不明
全体		7282 100.0%	842 11.6%	1040 14.3%	1122 15.4%	1905 26.2%	1672 23.0%	701 9.6%
世帯 類型	ひとり親世帯	805 100.0%	395 49.1%	152 18.9%	96 11.9%	57 7.1%	31 3.9%	74 9.2%
	ふたり親世帯	6371 100.0%	426 6.7%	873 13.7%	1017 16.0%	1833 28.8%	1633 25.6%	589 9.2%
	その他世帯	41 100.0%	12 29.3%	9 22.0%	4 9.8%	7 17.1%	4 9.8%	5 12.2%
	不明	65 100.0%	9 13.8%	6 9.2%	5 7.7%	8 12.3%	4 6.2%	33 50.8%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答



※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

学年ごとの世帯類型および所得階層の分布についても確認しておく、学年が上がるほどひとり親世帯の割合が高くなる（2歳児保護者では5.1%、高2保護者では16.4%）。（表7）。所得階層の分布については、学年によって大きな違いはみられない（表8）。

ひとり親世帯とふたり親世帯それぞれの所得階層分布をみると、ひとり親世帯の49.1%が低所得層Ⅰであるところ、ふたり親世帯の低所得層Ⅰは6.7%である。また、全体的にふたり親世帯よりも所得が低い方に分布している（表9）。ただし、ひとり親世帯とふたり親世帯の母数（回答世帯数）には8倍近い開きがある。実数でみると、低所得層Ⅰに含まれる世帯数はふたり親世帯（426世帯）がひとり親世帯（395世帯）をやや上回る。

2 働き方について

表 10 学年と母親の就業状況のクロス

		合計	母親の就業状況									
			正規の職員・従業員	パート・アルバイト	派遣社員・契約社員・嘱託	会社・団体等の役員	自営	内職	その他	働いていない	わからない	不明
全体		7119 100.0%	1857 26.1%	2557 35.9%	419 5.9%	85 1.2%	257 3.6%	31 0.4%	85 1.2%	1779 25.0%	6 0.1%	43 0.6%
学年	2歳児	1388 100.0%	493 35.5%	265 19.1%	77 5.5%	15 1.1%	32 2.3%	6 0.4%	25 1.8%	466 33.6%	0 0.0%	9 0.6%
	5歳児	1114 100.0%	284 25.5%	369 33.1%	41 3.7%	10 0.9%	47 4.2%	6 0.5%	11 1.0%	339 30.4%	0 0.0%	7 0.6%
	小学2年生	1233 100.0%	302 24.5%	467 37.9%	62 5.0%	19 1.5%	48 3.9%	3 0.2%	15 1.2%	311 25.2%	1 0.1%	5 0.4%
	小学5年生	1224 100.0%	259 21.2%	494 40.4%	83 6.8%	17 1.4%	53 4.3%	9 0.7%	15 1.2%	288 23.5%	0 0.0%	6 0.5%
	中学2年生	1093 100.0%	277 25.3%	471 43.1%	74 6.8%	8 0.7%	51 4.7%	3 0.3%	7 0.6%	191 17.5%	2 0.2%	9 0.8%
	高校2年生	1067 100.0%	242 22.7%	491 46.0%	82 7.7%	16 1.5%	26 2.4%	4 0.4%	12 1.1%	184 17.2%	3 0.3%	7 0.7%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者（父子世帯を除く）が回答

表 11 世帯類型と母親の就業状況のクロス

		合計	母親の就業状況									
			正規の職員・従業員	パート・アルバイト	派遣社員・契約社員・嘱託	会社・団体等の役員	自営	内職	その他	働いていない	わからない	不明
全体		7119 100.0%	1857 26.1%	2557 35.9%	419 5.9%	85 1.2%	257 3.6%	31 0.4%	85 1.2%	1779 25.0%	6 0.1%	43 0.6%
世帯 類型	ひとり親世帯	734 100.0%	282 38.4%	222 30.2%	82 11.2%	7 1.0%	29 4.0%	3 0.4%	11 1.5%	88 12.0%	2 0.3%	8 1.1%
	ふたり親世帯	6371 100.0%	1572 24.7%	2330 36.6%	336 5.3%	78 1.2%	226 3.5%	28 0.4%	74 1.2%	1688 26.5%	4 0.1%	35 0.5%
	その他世帯	14 100.0%	3 21.4%	5 35.7%	1 7.1%	0 0.0%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 21.4%	0 0.0%	0 0.0%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者（父子世帯を除く）が回答

表 12 所得階層と母親の就業状況のクロス

		合計	母親の就業状況									
			正規の職員・従業員	パート・アルバイト	派遣社員・契約社員・嘱託	会社・団体等の役員	自営	内職	その他	働いていない	わからない	不明
全体		7119 100.0%	1857 26.1%	2557 35.9%	419 5.9%	85 1.2%	257 3.6%	31 0.4%	85 1.2%	1779 25.0%	6 0.1%	43 0.6%
所得 階層	低所得層Ⅰ	815 100.0%	150 18.4%	359 44.0%	78 9.6%	10 1.2%	47 5.8%	4 0.5%	12 1.5%	147 18.0%	1 0.1%	7 0.9%
	低所得層Ⅱ	1018 100.0%	190 18.7%	421 41.4%	57 5.6%	9 0.9%	41 4.0%	6 0.6%	11 1.1%	275 27.0%	0 0.0%	8 0.8%
	中間所得層Ⅰ	1100 100.0%	234 21.3%	440 40.0%	71 6.5%	6 0.5%	32 2.9%	5 0.5%	14 1.3%	294 26.7%	1 0.1%	3 0.3%
	中間所得層Ⅱ	1879 100.0%	510 27.1%	702 37.4%	110 5.9%	16 0.9%	52 2.8%	11 0.6%	17 0.9%	453 24.1%	1 0.1%	7 0.4%
	上位所得層	1648 100.0%	669 40.6%	384 23.3%	78 4.7%	39 2.4%	51 3.1%	4 0.2%	20 1.2%	398 24.2%	1 0.1%	4 0.2%
	不明	659 100.0%	104 15.8%	251 38.1%	25 3.8%	5 0.8%	34 5.2%	1 0.2%	11 1.7%	212 32.2%	2 0.3%	14 2.1%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者（父子世帯を除く）が回答

学年別に母親の働き方をみると、学年が上がるほど働いていない人の割合は減少する（2歳児保護者では33.6%、高2保護者では17.2%）。一方で、パート・アルバイトで働いている人の割合が増加する（2歳児保護者では19.1%、高2保護者では46.0%）。正規の職員・従業員は2歳児保護者で最も高い（35.5%）（表10）。

世帯類型別に母親の働き方をみると、ひとり親世帯の方がふたり親世帯より母親が働いていない割合が少ない（ひとり親世帯では12.0%、ふたり親世帯では26.5%）。一方でひとり親世帯の方が正規の職員・従業員である割合が高い（ひとり親世帯では38.4%、ふたり親世帯では24.7%）。パート・アルバイトでは大きな差はみられない（ひとり親世帯では30.2%、ふたり親世帯では36.6%）。また、ひとり親世帯の方がふたり親世帯より派遣社員・契約社員・嘱託である人の割合も多い（ひとり親世帯では11.2%、ふたり親世帯では5.3%）。（表11）。

所得階層別に母親の働き方をみると、上位所得層では40.6%の母親が正規の職員・従業員である。一方で、低所得層Ⅰでも18.4%の母親が正規の職員・従業員として働いている。また、上位所得層を除いた4つの所得階層ではいずれもパート・アルバイトの働き方が最も多く4割前後となっている。働いていない母親の割合は、低所得層Ⅰが最も低い（18.0%）（表12）。

表 13 学年と母親の就業形態のクロス

		合計	母親の就業形態（働いている人を母数とした内訳）						
			従業員・ 正規の職員・ パート・ アルバイト	パート・ アルバイト	嘱託 派遣社員・ 契約社員・ 嘱託	会社・ 団体等の 役員	自営	内職	その他
全体		5291 100.0%	1857 35.1%	2557 48.3%	419 7.9%	85 1.6%	257 4.9%	31 0.6%	85 1.6%
学年	2 歳児	913	493	265	77	15	32	6	25
		100.0%	54.0%	29.0%	8.4%	1.6%	3.5%	0.7%	2.7%
	5 歳児	768	284	369	41	10	47	6	11
		100.0%	37.0%	48.0%	5.3%	1.3%	6.1%	0.8%	1.4%
	小学 2 年生	916	302	467	62	19	48	3	15
		100.0%	33.0%	51.0%	6.8%	2.1%	5.2%	0.3%	1.6%
	小学 5 年生	930	259	494	83	17	53	9	15
		100.0%	27.8%	53.1%	8.9%	1.8%	5.7%	1.0%	1.6%
	中学 2 年生	891	277	471	74	8	51	3	7
		100.0%	31.1%	52.9%	8.3%	0.9%	5.7%	0.3%	0.8%
	高校 2 年生	873	242	491	82	16	26	4	12
		100.0%	27.7%	56.2%	9.4%	1.8%	3.0%	0.5%	1.4%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者（父子世帯を除く）が回答
 ※就業状況の質問で「働いていない」「わからない」と回答した人と「不明」を除いて集計

表 14 世帯類型と母親の就業形態のクロス

		合計	母親の就業形態（働いている人を母数とした内訳）						
			正規の職員・ 従業員	パート・ アルバイト	嘱託 派遣社員・ 契約社員・ 嘱託	会社・ 団体等の 役員	自営	内職	その他
全体		5291 100.0%	1857 35.1%	2557 48.3%	419 7.9%	85 1.6%	257 4.9%	31 0.6%	85 1.6%
世帯 類型	ひとり親世帯	636	282	222	82	7	29	3	11
		100.0%	44.3%	34.9%	12.9%	1.1%	4.6%	0.5%	1.7%
	ふたり親世帯	4644	1572	2330	336	78	226	28	74
		100.0%	33.9%	50.2%	7.2%	1.7%	4.9%	0.6%	1.6%
	その他世帯	11	3	5	1	0	2	0	0
		100.0%	27.3%	45.5%	9.1%	0.0%	18.2%	0.0%	0.0%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者（父子世帯を除く）が回答
 ※就業状況の質問で「働いていない」「わからない」と回答した人と「不明」を除いて集計

表 15 所得階層と母親の就業形態のクロス

		合計	母親の就業形態（働いている人を母数とした内訳）						
			正規の職員・従業員	パート・アルバイト	嘱託派遣社員・契約社員・	会社・団体等の役員	自営	内職	その他
全体		5291 100.0%	1857 35.1%	2557 48.3%	419 7.9%	85 1.6%	257 4.9%	31 0.6%	85 1.6%
所得階層	低所得層Ⅰ	660 100.0%	150 22.7%	359 54.4%	78 11.8%	10 1.5%	47 7.1%	4 0.6%	12 1.8%
	低所得層Ⅱ	735 100.0%	190 25.9%	421 57.3%	57 7.8%	9 1.2%	41 5.6%	6 0.8%	11 1.5%
	中間所得層Ⅰ	802 100.0%	234 29.2%	440 54.9%	71 8.9%	6 0.7%	32 4.0%	5 0.6%	14 1.7%
	中間所得層Ⅱ	1418 100.0%	510 36.0%	702 49.5%	110 7.8%	16 1.1%	52 3.7%	11 0.8%	17 1.2%
	上位所得層	1245 100.0%	669 53.7%	384 30.8%	78 6.3%	39 3.1%	51 4.1%	4 0.3%	20 1.6%
	不明	431 100.0%	104 24.1%	251 58.2%	25 5.8%	5 1.2%	34 7.9%	1 0.2%	11 2.6%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者（父子世帯を除く）が回答
※就業状況の質問で「働いていない」「わからない」と回答した人と「不明」を除いて集計

働いている母親の就業形態のうち、「正規の職員・従業員」の割合は、全体で35.1%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ高く（ひとり親世帯では44.3%、ふたり親世帯では33.9%）（表14）、所得階層が低いほど割合が低い傾向にある（低所得層Ⅰでは22.7%、上位所得層では53.7%）（表15）。

表 16 学年と父親の就業状況のクロス

		合計	父親の就業状況									
			正規の職員・従業員	パート・アルバイト	派遣社員・契約社員・嘱託	会社・団体等の役員	自営	内職	その他	働いていない	わからない	不明
全体		6449 100.0%	5243 81.3%	46 0.7%	109 1.7%	360 5.6%	548 8.5%	2 0.0%	35 0.5%	50 0.8%	9 0.1%	47 0.7%
学年	2 歳児	1317 100.0%	1102 83.7%	11 0.8%	26 2.0%	60 4.6%	97 7.4%	0 0.0%	5 0.4%	11 0.8%	2 0.2%	3 0.2%
	5 歳児	1045 100.0%	859 82.2%	5 0.5%	15 1.4%	63 6.0%	81 7.8%	0 0.0%	6 0.6%	7 0.7%	2 0.2%	7 0.7%
	小学 2 年生	1130 100.0%	926 81.9%	11 1.0%	21 1.9%	66 5.8%	86 7.6%	0 0.0%	2 0.2%	8 0.7%	0 0.0%	10 0.9%
	小学 5 年生	1075 100.0%	844 78.5%	8 0.7%	17 1.6%	65 6.0%	111 10.3%	2 0.2%	10 0.9%	8 0.7%	0 0.0%	10 0.9%
	中学 2 年生	956 100.0%	769 80.4%	6 0.6%	12 1.3%	52 5.4%	93 9.7%	0 0.0%	4 0.4%	6 0.6%	3 0.3%	11 1.2%
	高校 2 年生	926 100.0%	743 80.2%	5 0.5%	18 1.9%	54 5.8%	80 8.6%	0 0.0%	8 0.9%	10 1.1%	2 0.2%	6 0.6%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者（母子世帯を除く）が回答

表 17 世帯類型と父親の就業状況のクロス

		合計	父親の就業状況									
			正規の職員・従業員	パート・アルバイト	派遣社員・契約社員・嘱託	会社・団体等の役員	自営	内職	その他	働いていない	わからない	不明
全体		6449 100.0%	5243 81.3%	46 0.7%	109 1.7%	360 5.6%	548 8.5%	2 0.0%	35 0.5%	50 0.8%	9 0.1%	47 0.7%
世帯 類型	ひとり親世帯	71 100.0%	46 64.8%	2 2.8%	1 1.4%	5 7.0%	8 11.3%	0 0.0%	3 4.2%	3 4.2%	0 0.0%	3 4.2%
	ふたり親世帯	6371 100.0%	5193 81.5%	44 0.7%	107 1.7%	355 5.6%	540 8.5%	2 0.0%	31 0.5%	47 0.7%	9 0.1%	43 0.7%
	その他世帯	7 100.0%	4 57.1%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者（母子世帯を除く）が回答

表 18 所得階層と父親の就業状況のクロス

		合計	父親の就業状況									
			正規の職員・従業員	パート・アルバイト	派遣社員・契約社員・嘱託	会社・団体等の役員	自営	内職	その他	働いていない	わからない	不明
全体		6449 100.0%	5243 81.3%	46 0.7%	109 1.7%	360 5.6%	548 8.5%	2 0.0%	35 0.5%	50 0.8%	9 0.1%	47 0.7%
所得 階層	低所得層Ⅰ	438 100.0%	252 57.5%	16 3.7%	31 7.1%	25 5.7%	80 18.3%	0 0.0%	10 2.3%	18 4.1%	3 0.7%	3 0.7%
		低所得層Ⅱ	889 100.0%	693 78.0%	14 1.6%	26 2.9%	31 3.5%	103 11.6%	0 0.0%	5 0.6%	10 1.1%	0 0.0%
	中間所得層Ⅰ	1030 100.0%	865 84.0%	1 0.1%	16 1.6%	45 4.4%	86 8.3%	1 0.1%	2 0.2%	5 0.5%	2 0.2%	7 0.7%
		中間所得層Ⅱ	1849 100.0%	1649 89.2%	7 0.4%	15 0.8%	73 3.9%	93 5.0%	0 0.0%	7 0.4%	2 0.1%	0 0.0%
	上位所得層	1649 100.0%	1337 81.1%	6 0.4%	14 0.8%	155 9.4%	110 6.7%	1 0.1%	9 0.5%	8 0.5%	0 0.0%	9 0.5%
		不明	594 100.0%	447 75.3%	2 0.3%	7 1.2%	31 5.2%	76 12.8%	0 0.0%	2 0.3%	7 1.2%	4 0.7%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者（母子世帯を除く）が回答

父親の働き方については、全体のおよそ8割（81.3%）が正規の職員・従業員であり、1割弱（8.5%）が自営業である。これは学年別でみてもおおむね同様である（表16）。

世帯類型別に父親の働き方をみる際は、ひとり親世帯（父子世帯）の回答世帯数が少ない（71世帯）ことに留意する必要がある。正規の職員・従業員である割合はひとり親世帯の方がふたり親世帯より低い（ひとり親世帯では64.8%、ふたり親世帯では81.5%）ものの、ひとり親世帯の父親の回答として最も高い割合である（表17）。

所得階層別に父親の働き方をみると、低所得層Ⅰにおいて、他の階層より正規の職員・従業員の割合が低く（それでも57.5%と半数を超える）、働いていないという回答が他の所得階層より高い（しかしながら4.1%、18世帯にとどまる）（表18）。

3 家計・生活不安について

表 19 学年と家計の状況のクロス

		合計	家計の状況					
			毎月貯金をしている 黒字であり	貯金はない 黒字ではあるが	ぎりぎりである 黒字でも赤字でもなく	貯金をとりくずしている 赤字であり	借金をして生活をしている 赤字であり	不明
全体		7282 100.0%	2774 38.1%	604 8.3%	2549 35.0%	783 10.8%	340 4.7%	232 3.2%
学年	2歳児	1398 100.0%	569 40.7%	126 9.0%	439 31.4%	163 11.7%	76 5.4%	25 1.8%
	5歳児	1131 100.0%	436 38.5%	101 8.9%	406 35.9%	118 10.4%	43 3.8%	27 2.4%
	小学2年生	1249 100.0%	498 39.9%	108 8.6%	421 33.7%	127 10.2%	49 3.9%	46 3.7%
	小学5年生	1263 100.0%	499 39.5%	94 7.4%	445 35.2%	126 10.0%	60 4.8%	39 3.1%
	中学2年生	1133 100.0%	412 36.4%	103 9.1%	414 36.5%	115 10.2%	46 4.1%	43 3.8%
	高校2年生	1108 100.0%	360 32.5%	72 6.5%	424 38.3%	134 12.1%	66 6.0%	52 4.7%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 20 世帯類型と家計の状況のクロス

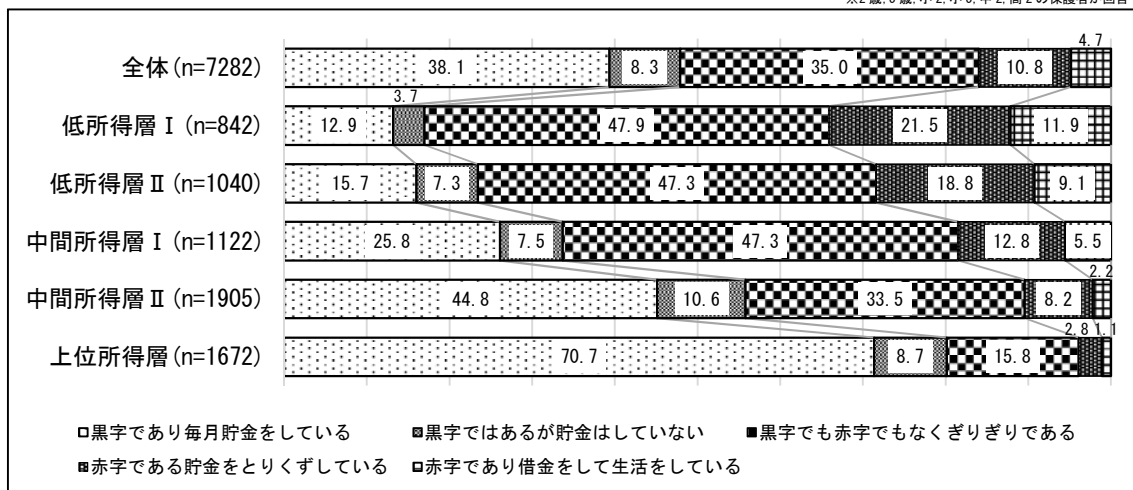
		合計	家計の状況					
			毎月貯金をしている 黒字であり	貯金はない 黒字ではあるが	ぎりぎりである 黒字でも赤字でもなく	貯金をとりくずしている 赤字であり	借金をして生活をしている 赤字であり	不明
全体		7282 100.0%	2774 38.1%	604 8.3%	2549 35.0%	783 10.8%	340 4.7%	232 3.2%
世帯類型	ひとり親世帯	805 100.0%	159 19.8%	44 5.5%	379 47.1%	125 15.5%	65 8.1%	33 4.1%
	ふたり親世帯	6371 100.0%	2599 40.8%	550 8.6%	2133 33.5%	642 10.1%	266 4.2%	181 2.8%
	その他世帯	41 100.0%	7 17.1%	7 17.1%	15 36.6%	5 12.2%	4 9.8%	3 7.3%
	不明	65 100.0%	9 13.8%	3 4.6%	22 33.8%	11 16.9%	5 7.7%	15 23.1%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 21 所得階層と家計の状況のクロス

		合計	家計の状況					
			黒字であり 毎月貯金をしている	黒字ではあるが 貯金はしていない	黒字でも赤字でもなく ぎりぎりである	赤字であり 貯金をとりくずしている	赤字であり 借金をして生活をしている	不明
全体		7282 100.0%	2774 38.1%	604 8.3%	2549 35.0%	783 10.8%	340 4.7%	232 3.2%
所得階層	低所得層Ⅰ	842 100.0%	109 12.9%	31 3.7%	403 47.9%	181 21.5%	100 11.9%	18 2.1%
	低所得層Ⅱ	1040 100.0%	163 15.7%	76 7.3%	492 47.3%	195 18.8%	95 9.1%	19 1.8%
	中間所得層Ⅰ	1122 100.0%	290 25.8%	84 7.5%	531 47.3%	144 12.8%	62 5.5%	11 1.0%
	中間所得層Ⅱ	1905 100.0%	854 44.8%	201 10.6%	638 33.5%	157 8.2%	41 2.2%	14 0.7%
	上位所得層	1672 100.0%	1182 70.7%	145 8.7%	265 15.8%	46 2.8%	19 1.1%	15 0.9%
	不明	701 100.0%	176 25.1%	67 9.6%	220 31.4%	60 8.6%	23 3.3%	155 22.1%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答



※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

家計の状況に関する回答を学年別にみると、2歳児保護者から小5保護者までは「黒字で毎月貯金をしている」という回答がもっとも多いが（2歳児保護者では40.7%、5歳児保護者では38.5%、小2保護者では39.9%、小5保護者では39.5%）、中2では「黒字で毎月貯金をしている」（36.4%）と「黒字でも赤字でもなくぎりぎりである」（36.5%）がほぼ同数となり、高2保護者では「黒字でも赤字でもなくぎりぎりである」が最も多くなる（38.3%）（表19）。

世帯類型別にみると、ふたり親世帯では「黒字で毎月貯金をしている」が40.8%で最も多いのに対し、ひとり親世帯では「黒字でも赤字でもなくぎりぎりである」が47.1%で最も多い。また、ひとり親世帯の方が「赤字で貯金を取りくずしている」世帯や「赤字で借金をしている」世帯の割合が高い（「赤字で貯金を取りくずしている」はひとり親世帯では15.5%、ふたり親世帯では10.1%、「赤字で借金をしている」はひとり親世帯では8.1%、ふたり親世帯では4.2%）（表20）。

所得階層と家計状況の関連は明確である。所得が高いほど「黒字で毎月貯金をしている」割合が高くなり、上位所得層では7割を超える（70.7%）。中間所得層Ⅰ以下では「黒字でも赤字でもなくぎりぎりである」世帯が半数近くを占める（中間所得層Ⅰでは47.3%、低所得層Ⅱでは47.3%、低所得層Ⅰでは47.9%）。また、所得階層が低くなるほど、「赤字で貯金を取りくずしている」や「赤字で借金をしている」という回答が多くなる（「赤字で貯金を取りくずしている」は中間所得層Ⅰでは12.8%、低所得層Ⅱでは18.8%、低所得層Ⅰでは21.5%、「赤字で借金をしている」は中間所得層Ⅰでは5.5%、低所得層Ⅱでは9.1%、低所得層Ⅰでは11.9%）（表21）。

表 22 学年と経済的な理由で家族が必要とする食料を買えなかった経験のクロス

		合計	経済的な理由で家族が必要とする食料を買えなかった経験				
			よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	不明
全体		7282 100.0%	78 1.1%	271 3.7%	425 5.8%	6405 88.0%	103 1.4%
学年	2 歳児	1398 100.0%	19 1.4%	44 3.1%	87 6.2%	1236 88.4%	12 0.9%
	5 歳児	1131 100.0%	8 0.7%	43 3.8%	67 5.9%	1000 88.4%	13 1.1%
	小学 2 年生	1249 100.0%	9 0.7%	45 3.6%	72 5.8%	1113 89.1%	10 0.8%
	小学 5 年生	1263 100.0%	14 1.1%	54 4.3%	68 5.4%	1106 87.6%	21 1.7%
	中学 2 年生	1133 100.0%	13 1.1%	39 3.4%	57 5.0%	999 88.2%	25 2.2%
	高校 2 年生	1108 100.0%	15 1.4%	46 4.2%	74 6.7%	951 85.8%	22 2.0%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 23 世帯類型と経済的な理由で家族が必要とする食料を買えなかった経験のクロス

		合計	経済的な理由で家族が必要とする食料を買えなかった経験				
			よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	不明
全体		7282 100.0%	78 1.1%	271 3.7%	425 5.8%	6405 88.0%	103 1.4%
世帯類型	ひとり親世帯	805 100.0%	24 3.0%	77 9.6%	84 10.4%	596 74.0%	24 3.0%
	ふたり親世帯	6371 100.0%	51 0.8%	188 3.0%	336 5.3%	5731 90.0%	65 1.0%
	その他世帯	41 100.0%	1 2.4%	2 4.9%	0 0.0%	37 90.2%	1 2.4%
	不明	65 100.0%	2 3.1%	4 6.2%	5 7.7%	41 63.1%	13 20.0%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 24 所得階層と経済的な理由で家族が必要とする食料を買えなかった経験のクロス

		合計	経済的な理由で家族が必要とする食料を買えなかった経験				
			よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	不明
全体		7282 100.0%	78 1.1%	271 3.7%	425 5.8%	6405 88.0%	103 1.4%
所得階層	低所得層Ⅰ	842 100.0%	37 4.4%	102 12.1%	110 13.1%	583 69.2%	10 1.2%
	低所得層Ⅱ	1040 100.0%	25 2.4%	63 6.1%	114 11.0%	827 79.5%	11 1.1%
	中間所得層Ⅰ	1122 100.0%	7 0.6%	46 4.1%	87 7.8%	977 87.1%	5 0.4%
	中間所得層Ⅱ	1905 100.0%	4 0.2%	35 1.8%	56 2.9%	1803 94.6%	7 0.4%
	上位所得層	1672 100.0%	0 0.0%	2 0.1%	20 1.2%	1649 98.6%	1 0.1%
	不明	701 100.0%	5 0.7%	23 3.3%	38 5.4%	566 80.7%	69 9.8%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

経済的な理由で家族が必要とする食料を買えなかった経験について、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」と回答した人を合計した割合は、全体で10.6%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ高く（ひとり親世帯では23.0%、ふたり親世帯では9.0%）（表23）、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある（低所得層Ⅰでは29.6%、上位所得層では1.3%）（表24）。

表 25 学年と経済的な理由で家族が必要とする衣服を買えなかった経験のクロス

		合計	経済的な理由で家族が必要とする衣服を買えなかった経験				
			よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	不明
全体		7282 100.0%	174 2.4%	358 4.9%	680 9.3%	5967 81.9%	103 1.4%
学年	2 歳児	1398 100.0%	38 2.7%	68 4.9%	127 9.1%	1154 82.5%	11 0.8%
	5 歳児	1131 100.0%	22 1.9%	52 4.6%	104 9.2%	939 83.0%	14 1.2%
	小学 2 年生	1249 100.0%	18 1.4%	61 4.9%	125 10.0%	1035 82.9%	10 0.8%
	小学 5 年生	1263 100.0%	29 2.3%	61 4.8%	111 8.8%	1041 82.4%	21 1.7%
	中学 2 年生	1133 100.0%	26 2.3%	52 4.6%	111 9.8%	919 81.1%	25 2.2%
	高校 2 年生	1108 100.0%	41 3.7%	64 5.8%	102 9.2%	879 79.3%	22 2.0%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 26 世帯類型と経済的な理由で家族が必要とする衣服を買えなかった経験のクロス

		合計	経済的な理由で家族が必要とする衣服を買えなかった経験				
			よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	不明
全体		7282 100.0%	174 2.4%	358 4.9%	680 9.3%	5967 81.9%	103 1.4%
世帯類型	ひとり親世帯	805 100.0%	59 7.3%	83 10.3%	117 14.5%	521 64.7%	25 3.1%
	ふたり親世帯	6371 100.0%	110 1.7%	267 4.2%	554 8.7%	5376 84.4%	64 1.0%
	その他世帯	41 100.0%	0 0.0%	4 9.8%	3 7.3%	33 80.5%	1 2.4%
	不明	65 100.0%	5 7.7%	4 6.2%	6 9.2%	37 56.9%	13 20.0%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 27 所得階層と経済的な理由で家族が必要とする衣服を買えなかった経験のクロス

		合計	経済的な理由で家族が必要とする衣服を買えなかった経験				
			よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	不明
全体		7282 100.0%	174 2.4%	358 4.9%	680 9.3%	5967 81.9%	103 1.4%
所得階層	低所得層Ⅰ	842 100.0%	80 9.5%	109 12.9%	137 16.3%	506 60.1%	10 1.2%
	低所得層Ⅱ	1040 100.0%	45 4.3%	108 10.4%	180 17.3%	695 66.8%	12 1.2%
	中間所得層Ⅰ	1122 100.0%	22 2.0%	55 4.9%	151 13.5%	891 79.4%	3 0.3%
	中間所得層Ⅱ	1905 100.0%	13 0.7%	44 2.3%	122 6.4%	1719 90.2%	7 0.4%
	上位所得層	1672 100.0%	1 0.1%	10 0.6%	34 2.0%	1626 97.2%	1 0.1%
	不明	701 100.0%	13 1.9%	32 4.6%	56 8.0%	530 75.6%	70 10.0%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

経済的な理由で家族が必要とする衣服を買えなかった経験について、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」と回答した人を合計した割合は、全体で16.6%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ高く（ひとり親世帯では32.2%、ふたり親世帯では14.6%）（表26）、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある（低所得層Ⅰでは38.7%、上位所得層では2.7%）（表27）。

表 28 学年と経済的な理由で冬に暖房が使えなかった経験のクロス

		合計	経済的な理由で冬に暖房が使えなかった経験				
			よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	不明
全体		7282 100.0%	53 0.7%	152 2.1%	253 3.5%	6717 92.2%	107 1.5%
学年	2 歳児	1398 100.0%	9 0.6%	35 2.5%	44 3.1%	1297 92.8%	13 0.9%
	5 歳児	1131 100.0%	5 0.4%	19 1.7%	41 3.6%	1052 93.0%	14 1.2%
	小学 2 年生	1249 100.0%	5 0.4%	31 2.5%	35 2.8%	1167 93.4%	11 0.9%
	小学 5 年生	1263 100.0%	12 1.0%	28 2.2%	44 3.5%	1159 91.8%	20 1.6%
	中学 2 年生	1133 100.0%	10 0.9%	19 1.7%	48 4.2%	1033 91.2%	23 2.0%
	高校 2 年生	1108 100.0%	12 1.1%	20 1.8%	41 3.7%	1009 91.1%	26 2.3%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 29 世帯類型と経済的な理由で冬に暖房が使えなかった経験のクロス

		合計	経済的な理由で冬に暖房が使えなかった経験				
			よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	不明
全体		7282 100.0%	53 0.7%	152 2.1%	253 3.5%	6717 92.2%	107 1.5%
世帯類型	ひとり親世帯	805 100.0%	19 2.4%	43 5.3%	75 9.3%	640 79.5%	28 3.5%
	ふたり親世帯	6371 100.0%	33 0.5%	105 1.6%	173 2.7%	5994 94.1%	66 1.0%
	その他世帯	41 100.0%	0 0.0%	1 2.4%	1 2.4%	38 92.7%	1 2.4%
	不明	65 100.0%	1 1.5%	3 4.6%	4 6.2%	45 69.2%	12 18.5%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 30 所得階層と経済的な理由で冬に暖房が使えなかった経験のクロス

		合計	経済的な理由で冬に暖房が使えなかった経験				
			よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	不明
全体		7282 100.0%	53 0.7%	152 2.1%	253 3.5%	6717 92.2%	107 1.5%
所得階層	低所得層Ⅰ	842 100.0%	24 2.9%	52 6.2%	87 10.3%	668 79.3%	11 1.3%
	低所得層Ⅱ	1040 100.0%	11 1.1%	45 4.3%	60 5.8%	912 87.7%	12 1.2%
	中間所得層Ⅰ	1122 100.0%	8 0.7%	19 1.7%	43 3.8%	1048 93.4%	4 0.4%
	中間所得層Ⅱ	1905 100.0%	3 0.2%	19 1.0%	28 1.5%	1848 97.0%	7 0.4%
	上位所得層	1672 100.0%	2 0.1%	5 0.3%	9 0.5%	1656 99.0%	0 0.0%
	不明	701 100.0%	5 0.7%	12 1.7%	26 3.7%	585 83.5%	73 10.4%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

経済的な理由で冬に暖房が使えなかった経験について、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」と回答した人を合計した割合は、全体で6.3%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ高く（ひとり親世帯では17.0%、ふたり親世帯では4.9%）（表29）、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある（低所得層Ⅰでは19.4%、上位所得層では1.0%）（表30）。

表 31 学年と電気、ガス、水道の支払い滞納状況のクロス

		合計	電気、ガス、水道の支払い滞納状況			
			あった	なかった	払う必要がない	不明
全体		7282 100.0%	290 4.0%	6766 92.9%	118 1.6%	108 1.5%
学年	2 歳児	1398 100.0%	63 4.5%	1295 92.6%	30 2.1%	10 0.7%
	5 歳児	1131 100.0%	27 2.4%	1071 94.7%	14 1.2%	19 1.7%
	小学 2 年生	1249 100.0%	53 4.2%	1163 93.1%	21 1.7%	12 1.0%
	小学 5 年生	1263 100.0%	54 4.3%	1172 92.8%	16 1.3%	21 1.7%
	中学 2 年生	1133 100.0%	49 4.3%	1046 92.3%	16 1.4%	22 1.9%
	高校 2 年生	1108 100.0%	44 4.0%	1019 92.0%	21 1.9%	24 2.2%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 32 世帯類型と電気、ガス、水道の支払い滞納状況のクロス

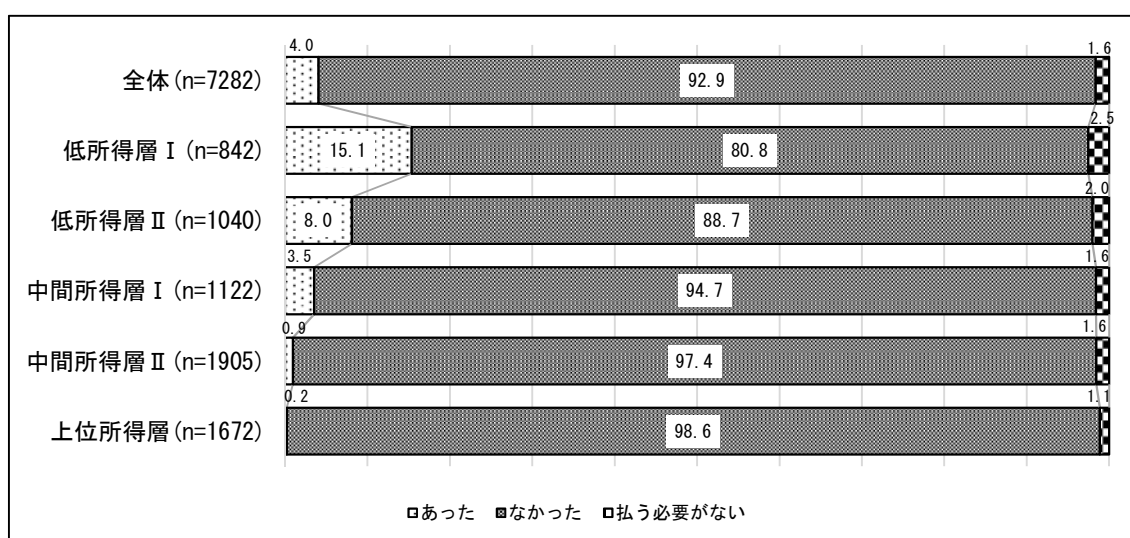
		合計	電気、ガス、水道の支払い滞納状況			
			あった	なかった	払う必要がない	不明
全体		7282 100.0%	290 4.0%	6766 92.9%	118 1.6%	108 1.5%
世帯類型	ひとり親世帯	805 100.0%	95 11.8%	651 80.9%	36 4.5%	23 2.9%
	ふたり親世帯	6371 100.0%	190 3.0%	6030 94.6%	78 1.2%	73 1.1%
	その他世帯	41 100.0%	2 4.9%	36 87.8%	2 4.9%	1 2.4%
	不明	65 100.0%	3 4.6%	49 75.4%	2 3.1%	11 16.9%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 33 所得階層と電気、ガス、水道の支払い滞納状況のクロス

		合計	電気、ガス、水道の支払い滞納状況			
			あった	なかった	払う必要がない	不明
全体		7282	290	6766	118	108
		100.0%	4.0%	92.9%	1.6%	1.5%
所得階層	低所得層Ⅰ	842	127	680	21	14
		100.0%	15.1%	80.8%	2.5%	1.7%
	低所得層Ⅱ	1040	83	922	21	14
		100.0%	8.0%	88.7%	2.0%	1.3%
	中間所得層Ⅰ	1122	39	1063	18	2
		100.0%	3.5%	94.7%	1.6%	0.2%
	中間所得層Ⅱ	1905	18	1855	30	2
		100.0%	0.9%	97.4%	1.6%	0.1%
	上位所得層	1672	3	1649	19	1
		100.0%	0.2%	98.6%	1.1%	0.1%
	不明	701	20	597	9	75
		100.0%	2.9%	85.2%	1.3%	10.7%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答



過去1年間に経済的な理由で「電気、ガス、水道のいずれかの料金」の支払いができなかったことがあるかをたずねた。

学年別、世帯類型別、所得階層別のいずれにおいても、支払えないことが「なかった」という回答が8～9割と最も多い（表31、表32、表33）。

しかし、ふたり親世帯よりもひとり親世帯で、また、所得の低い階層の方が支払えないことが「あった」という回答割合が高く、ひとり親世帯の11.8%、低所得層Ⅰの15.1%および低所得層Ⅱの8.0%で、支払いができなかった経験がある。

表 34 学年と現在の貯金額のクロス

		合計	現在の貯金額									
			貯金はない	10万円未満	10～50万円未満	50～100万円未満	100～300万円未満	300～500万円未満	500～1000万円未満	1000万円以上	わからない	不明
全体		7282 100.0%	832 11.4%	227 3.1%	438 6.0%	527 7.2%	1233 16.9%	824 11.3%	796 10.9%	904 12.4%	887 12.2%	614 8.4%
学年	2歳児	1398 100.0%	157 11.2%	51 3.6%	96 6.9%	112 8.0%	285 20.4%	195 13.9%	142 10.2%	160 11.4%	146 10.4%	54 3.9%
	5歳児	1131 100.0%	119 10.5%	29 2.6%	58 5.1%	88 7.8%	205 18.1%	131 11.6%	138 12.2%	135 11.9%	142 12.6%	86 7.6%
	小学2年生	1249 100.0%	126 10.1%	45 3.6%	70 5.6%	83 6.6%	207 16.6%	154 12.3%	142 11.4%	156 12.5%	155 12.4%	111 8.9%
	小学5年生	1263 100.0%	144 11.4%	44 3.5%	88 7.0%	81 6.4%	191 15.1%	128 10.1%	133 10.5%	181 14.3%	168 13.3%	105 8.3%
	中学2年生	1133 100.0%	129 11.4%	31 2.7%	69 6.1%	97 8.6%	169 14.9%	123 10.9%	112 9.9%	146 12.9%	136 12.0%	121 10.7%
	高校2年生	1108 100.0%	157 14.2%	27 2.4%	57 5.1%	66 6.0%	176 15.9%	93 8.4%	129 11.6%	126 11.4%	140 12.6%	137 12.4%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 35 世帯類型と現在の貯金額のクロス

		合計	現在の貯金額									
			貯金はない	10万円未満	10～50万円未満	50～100万円未満	100～300万円未満	300～500万円未満	500～1000万円未満	1000万円以上	わからない	不明
全体		7282 100.0%	832 11.4%	227 3.1%	438 6.0%	527 7.2%	1233 16.9%	824 11.3%	796 10.9%	904 12.4%	887 12.2%	614 8.4%
世帯類型	ひとり親世帯	805 100.0%	221 27.5%	54 6.7%	94 11.7%	58 7.2%	118 14.7%	53 6.6%	36 4.5%	49 6.1%	68 8.4%	54 6.7%
	ふたり親世帯	6371 100.0%	596 9.4%	169 2.7%	336 5.3%	465 7.3%	1101 17.3%	763 12.0%	758 11.9%	848 13.3%	801 12.6%	534 8.4%
	その他世帯	41 100.0%	8 19.5%	1 2.4%	5 12.2%	2 4.9%	5 12.2%	3 7.3%	1 2.4%	4 9.8%	10 24.4%	2 4.9%
	不明	65 100.0%	7 10.8%	3 4.6%	3 4.6%	2 3.1%	9 13.8%	5 7.7%	1 1.5%	3 4.6%	8 12.3%	24 36.9%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 36 所得階層と現在の貯金額のクロス

		合計	現在の貯金額									
			貯金はない	10万円未満	10～25万円未満	25～100万円未満	100～300万円未満	300～500万円未満	500～1000万円未満	1000万円以上	わからない	不明
全体		7282 100.0%	832 11.4%	227 3.1%	438 6.0%	527 7.2%	1233 16.9%	824 11.3%	796 10.9%	904 12.4%	887 12.2%	614 8.4%
所得階層	低所得層Ⅰ	842 100.0%	285 33.8%	70 8.3%	102 12.1%	73 8.7%	110 13.1%	33 3.9%	32 3.8%	21 2.5%	87 10.3%	29 3.4%
	低所得層Ⅱ	1040 100.0%	220 21.2%	77 7.4%	115 11.1%	119 11.4%	202 19.4%	90 8.7%	57 5.5%	34 3.3%	93 8.9%	33 3.2%
	中間所得層Ⅰ	1122 100.0%	134 11.9%	45 4.0%	88 7.8%	139 12.4%	284 25.3%	131 11.7%	90 8.0%	57 5.1%	131 11.7%	23 2.0%
	中間所得層Ⅱ	1905 100.0%	100 5.2%	26 1.4%	93 4.9%	149 7.8%	409 21.5%	329 17.3%	288 15.1%	220 11.5%	229 12.0%	62 3.3%
	上位所得層	1672 100.0%	33 2.0%	5 0.3%	28 1.7%	39 2.3%	200 12.0%	225 13.5%	318 19.0%	556 33.3%	225 13.5%	43 2.6%
	不明	701 100.0%	60 8.6%	4 0.6%	12 1.7%	8 1.1%	28 4.0%	16 2.3%	11 1.6%	16 2.3%	122 17.4%	424 60.5%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

貯金はないと回答した人の割合は全体で11.4%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ高く（ひとり親世帯では27.5%、ふたり親世帯では9.4%）（表35）、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある（低所得層Ⅰでは33.8%、上位所得層では2.0%）（表36）。

表 37 学年と今後の生活への不安のクロス

		合計	今後の生活への不安					
			感じている	感じている どちらかといえば	どちらともいえない	感じていない どちらかといえば	感じていない	不明
全体		7282 100.0%	2427 33.3%	2263 31.1%	1164 16.0%	720 9.9%	566 7.8%	142 2.0%
学年	2歳児	1398 100.0%	482 34.5%	428 30.6%	216 15.5%	154 11.0%	106 7.6%	12 0.9%
	5歳児	1131 100.0%	376 33.2%	368 32.5%	176 15.6%	122 10.8%	74 6.5%	15 1.3%
	小学2年生	1249 100.0%	368 29.5%	425 34.0%	199 15.9%	135 10.8%	99 7.9%	23 1.8%
	小学5年生	1263 100.0%	402 31.8%	394 31.2%	209 16.5%	125 9.9%	109 8.6%	24 1.9%
	中学2年生	1133 100.0%	388 34.2%	337 29.7%	183 16.2%	90 7.9%	101 8.9%	34 3.0%
	高校2年生	1108 100.0%	411 37.1%	311 28.1%	181 16.3%	94 8.5%	77 6.9%	34 3.1%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 38 世帯類型と今後の生活への不安のクロス

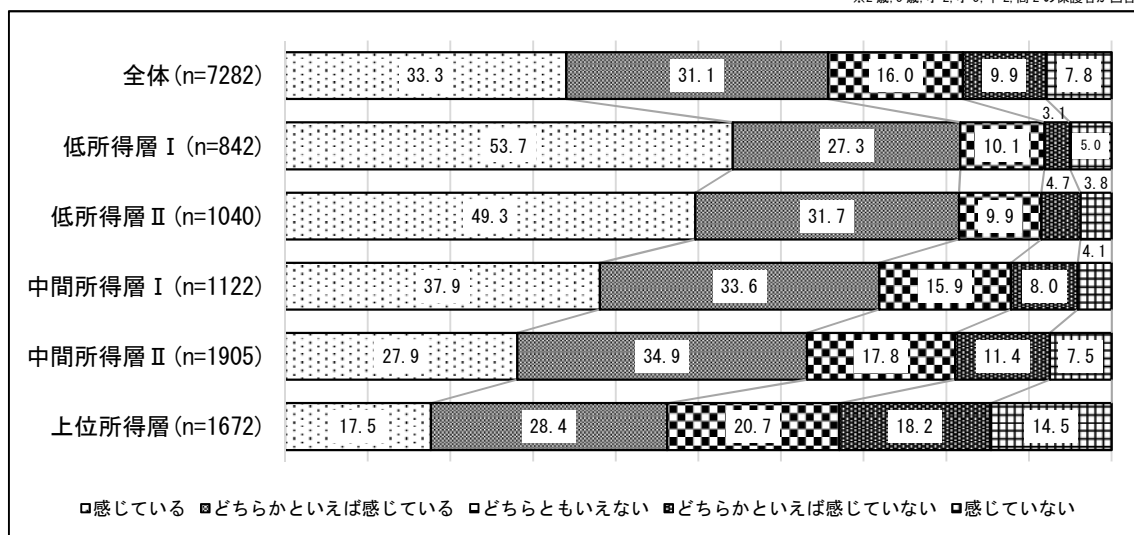
		合計	今後の生活への不安					
			感じている	感じている どちらかといえば	どちらともいえない	感じていない どちらかといえば	感じていない	不明
全体		7282 100.0%	2427 33.3%	2263 31.1%	1164 16.0%	720 9.9%	566 7.8%	142 2.0%
世帯類型	ひとり親世帯	805 100.0%	419 52.0%	213 26.5%	89 11.1%	35 4.3%	32 4.0%	17 2.1%
	ふたり親世帯	6371 100.0%	1972 31.0%	2028 31.8%	1057 16.6%	680 10.7%	524 8.2%	110 1.7%
	その他世帯	41 100.0%	15 36.6%	10 24.4%	9 22.0%	3 7.3%	4 9.8%	0 0.0%
	不明	65 100.0%	21 32.3%	12 18.5%	9 13.8%	2 3.1%	6 9.2%	15 23.1%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 39 所得階層と今後の生活への不安のクロス

		合計	今後の生活への不安					不明
			感じている	感じている どちらかといえば	どちらともいえない	感じていない どちらかといえば	感じていない	
全体		7282	2427	2263	1164	720	566	142
		100.0%	33.3%	31.1%	16.0%	9.9%	7.8%	2.0%
所得階層	低所得層Ⅰ	842	452	230	85	26	42	7
		100.0%	53.7%	27.3%	10.1%	3.1%	5.0%	0.8%
	低所得層Ⅱ	1040	513	330	103	49	39	6
		100.0%	49.3%	31.7%	9.9%	4.7%	3.8%	0.6%
	中間所得層Ⅰ	1122	425	377	178	90	46	6
		100.0%	37.9%	33.6%	15.9%	8.0%	4.1%	0.5%
	中間所得層Ⅱ	1905	532	664	340	217	142	10
		100.0%	27.9%	34.9%	17.8%	11.4%	7.5%	0.5%
	上位所得層	1672	293	475	346	305	243	10
		100.0%	17.5%	28.4%	20.7%	18.2%	14.5%	0.6%
	不明	701	212	187	112	33	54	103
		100.0%	30.2%	26.7%	16.0%	4.7%	7.7%	14.7%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答



※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 37、表 38、表 39 は、「あなたは、今後の生活（経済的・子育てなど）に対して不安を感じていますか」に対する回答である。「感じている」と「どちらかといえば感じている」を合わせるとおよそ 6 割（64.4%）を占め、これは学年別でも同様である（表 37）。ふたり親世帯よりもひとり親世帯で、また、所得の低い階層になるほど「感じている」という回答の割合が高くなり、ひとり親世帯、低所得層Ⅰでは半数を超える（ひとり親世帯では 52.0%、低所得層Ⅰでは 53.7%）（表 38、表 39）。

4 健康について

表 40 学年と保護者の健康状態のクロス

		合計	保護者の健康状態（※複数回答）							
			健康である	通院している	入院中である	通院していないが体調が悪い	障がい認定を受けている（難病をのぞく）	指定難病の認定を受けている	その他	不明
全体		7282	5926	1093	5	236	63	63	46	35
		—	81.4%	15.0%	0.1%	3.2%	0.9%	0.9%	0.6%	0.5%
学年	2 歳児	1398	1197	162	0	45	8	10	15	2
		—	85.6%	11.6%	0.0%	3.2%	0.6%	0.7%	1.1%	0.1%
	5 歳児	1131	966	135	0	35	6	3	4	1
		—	85.4%	11.9%	0.0%	3.1%	0.5%	0.3%	0.4%	0.1%
	小学 2 年生	1249	1029	166	1	41	9	11	8	5
		—	82.4%	13.3%	0.1%	3.3%	0.7%	0.9%	0.6%	0.4%
	小学 5 年生	1263	1000	217	3	35	19	17	4	9
		—	79.2%	17.2%	0.2%	2.8%	1.5%	1.3%	0.3%	0.7%
	中学 2 年生	1133	896	194	0	41	9	7	5	10
		—	79.1%	17.1%	0.0%	3.6%	0.8%	0.6%	0.4%	0.9%
	高校 2 年生	1108	838	219	1	39	12	15	10	8
		—	75.6%	19.8%	0.1%	3.5%	1.1%	1.4%	0.9%	0.7%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 41 世帯類型と保護者の健康状態のクロス

		合計	保護者の健康状態（※複数回答）							
			健康である	通院している	入院中である	悪い通院していないが体調が悪い	障がい認定を受けている（難病をのぞく）	指定難病の認定を受けている	その他	不明
全体		7282	5926	1093	5	236	63	63	46	35
		—	81.4%	15.0%	0.1%	3.2%	0.9%	0.9%	0.6%	0.5%
世帯類型	ひとり親世帯	805	566	194	1	50	14	6	9	4
		—	70.3%	24.1%	0.1%	6.2%	1.7%	0.7%	1.1%	0.5%
	ふたり親世帯	6371	5292	875	4	183	47	54	36	20
		—	83.1%	13.7%	0.1%	2.9%	0.7%	0.8%	0.6%	0.3%
	その他世帯	41	27	14	0	1	0	1	1	0
		—	65.9%	34.1%	0.0%	2.4%	0.0%	2.4%	2.4%	0.0%
	不明	65	41	10	0	2	2	2	0	11
		—	63.1%	15.4%	0.0%	3.1%	3.1%	3.1%	0.0%	16.9%

※2 歳、5 歳、小 2、中 2、高 2 の保護者が回答

表 42 所得階層と保護者の健康状態のクロス

		合計	保護者の健康状態（※複数回答）							
			健康である	通院している	入院中である	悪い 通院していないが体調が	障がい認定を受けている （難病をのぞく）	指定難病の認定を受けている	その他	不明
全体		7282	5926	1093	5	236	63	63	46	35
		—	81.4%	15.0%	0.1%	3.2%	0.9%	0.9%	0.6%	0.5%
所得 階層	低所得層Ⅰ	842	608	179	0	49	16	10	5	4
		—	72.2%	21.3%	0.0%	5.8%	1.9%	1.2%	0.6%	0.5%
	低所得層Ⅱ	1040	832	153	0	49	12	11	12	2
		—	80.0%	14.7%	0.0%	4.7%	1.2%	1.1%	1.2%	0.2%
	中間所得層Ⅰ	1122	932	157	1	34	13	6	5	2
		—	83.1%	14.0%	0.1%	3.0%	1.2%	0.5%	0.4%	0.2%
	中間所得層Ⅱ	1905	1598	256	3	47	7	15	13	3
		—	83.9%	13.4%	0.2%	2.5%	0.4%	0.8%	0.7%	0.2%
	上位所得層	1672	1404	250	0	30	5	14	8	1
		—	84.0%	15.0%	0.0%	1.8%	0.3%	0.8%	0.5%	0.1%
	不明	701	552	98	1	27	10	7	3	23
		—	78.7%	14.0%	0.1%	3.9%	1.4%	1.0%	0.4%	3.3%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

「健康である」と答えた人は全体で81.4%。また、子どもの年齢・学年が上がるほど健康である人の割合が低くなり（2歳児保護者では85.6%、高2保護者では75.6%）、通院している人の割合が高くなる（2歳児保護者では11.6%、高2保護者では19.8%）（表40）。

ひとり親世帯の方がふたり親世帯に比べて健康である人の割合が低く（ひとり親世帯では70.3%、ふたり親世帯では83.1%）、通院している人や通院していないが体調が悪い人の割合が高い（「通院している」がひとり親世帯では24.1%、ふたり親世帯では13.7%、「通院していないが体調が悪い」がひとり親世帯では6.2%、ふたり親世帯では2.9%）（表41）。

所得階層が低いほど健康である人の割合が低く（低所得層Ⅰでは72.2%、上位所得層では84.0%）、通院している人や通院していない人の割合が高い（「通院している」が低所得層Ⅰでは21.3%、上位所得層では15.0%、「通院していないが体調が悪い」が低所得層Ⅰでは5.8%、上位所得層では1.8%）（表42）。

表 43 学年と保護者の心の健康状態のクロス

		合計	保護者心の健康状態				
			0～4 点	5～9 点	10～14 点	15 点以上	不明
全体		7282	5171	1305	471	210	125
		100.0%	71.0%	17.9%	6.5%	2.9%	1.7%
学年	2 歳児	1398	968	281	79	54	16
		100.0%	69.2%	20.1%	5.7%	3.9%	1.1%
	5 歳児	1131	825	193	69	31	13
		100.0%	72.9%	17.1%	6.1%	2.7%	1.1%
	小学 2 年生	1249	907	198	93	30	21
		100.0%	72.6%	15.9%	7.4%	2.4%	1.7%
	小学 5 年生	1263	880	228	91	37	27
		100.0%	69.7%	18.1%	7.2%	2.9%	2.1%
	中学 2 年生	1133	800	202	77	31	23
		100.0%	70.6%	17.8%	6.8%	2.7%	2.0%
	高校 2 年生	1108	791	203	62	27	25
		100.0%	71.4%	18.3%	5.6%	2.4%	2.3%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答した選択肢より分類

表 44 世帯類型と保護者の心の健康状態のクロス

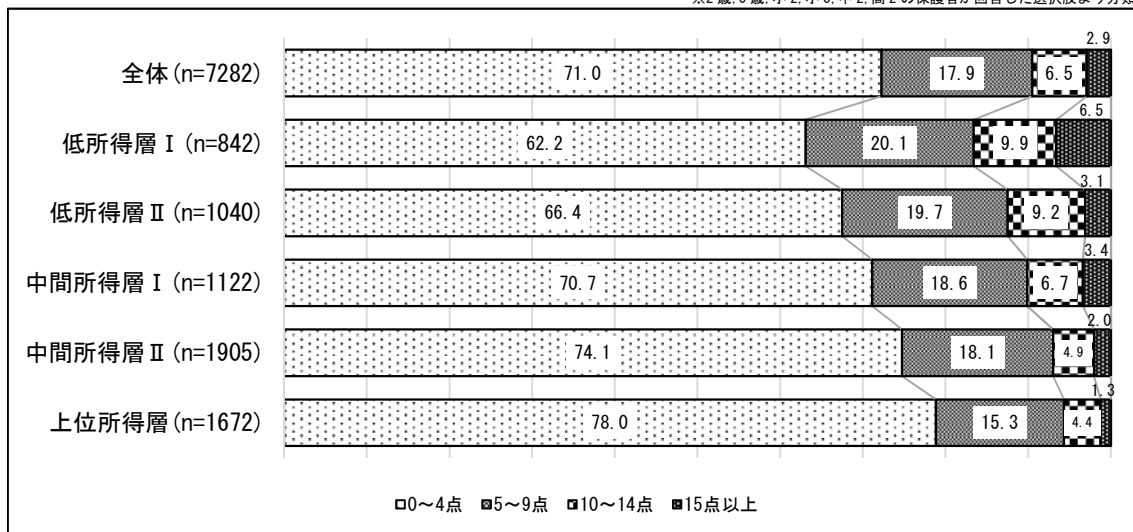
		合計	保護者の心の健康状態				
			0～4 点	5～9 点	10～14 点	15 点以上	不明
全体		7282	5171	1305	471	210	125
		100.0%	71.0%	17.9%	6.5%	2.9%	1.7%
世帯類型	ひとり親世帯	805	492	168	73	60	12
		100.0%	61.1%	20.9%	9.1%	7.5%	1.5%
	ふたり親世帯	6371	4619	1120	391	145	96
		100.0%	72.5%	17.6%	6.1%	2.3%	1.5%
	その他世帯	41	31	6	3	1	0
		100.0%	75.6%	14.6%	7.3%	2.4%	0.0%
	不明	65	29	11	4	4	17
		100.0%	44.6%	16.9%	6.2%	6.2%	26.2%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答した選択肢より分類

表 45 所得階層と保護者の心の健康状態のクロス

		合計	保護者の心の健康状態				
			0～4 点	5～9 点	10～14 点	15 点以上	不明
全体		7282	5171	1305	471	210	125
		100.0%	71.0%	17.9%	6.5%	2.9%	1.7%
所得階層	低所得層Ⅰ	842	524	169	83	55	11
		100.0%	62.2%	20.1%	9.9%	6.5%	1.3%
	低所得層Ⅱ	1040	691	205	96	32	16
		100.0%	66.4%	19.7%	9.2%	3.1%	1.5%
	中間所得層Ⅰ	1122	793	209	75	38	7
		100.0%	70.7%	18.6%	6.7%	3.4%	0.6%
	中間所得層Ⅱ	1905	1411	345	93	39	17
		100.0%	74.1%	18.1%	4.9%	2.0%	0.9%
	上位所得層	1672	1304	256	73	21	18
		100.0%	78.0%	15.3%	4.4%	1.3%	1.1%
	不明	701	448	121	51	25	56
		100.0%	63.9%	17.3%	7.3%	3.6%	8.0%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答した選択肢より分類



※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

今回の調査では、保護者に対し過去 1 か月の心の状態を聞く設問に対する回答を得点化している。高いほど心の健康状態に問題があり、10 点以上ではうつ病や不安障害などの可能性がある。

10 点以上の人は全体で 9.4%であり、子どもの学年による明らかな違いはみられない（表 43）。

ひとり親世帯の方がふたり親世帯に比べて 10 点以上の割合が高い（ひとり親世帯では 16.5%、ふたり親世帯では 8.4%）（表 44）。

所得階層が低いほど 10 点以上の割合が高く（低所得層Ⅰでは 16.4%、上位所得層では 5.6%）、低所得層Ⅰと上位所得層では約 3 倍の違いがある（表 45）。

表 46 学年と子どもの健康状態のクロス

		合計	子どもの健康状態（※複数回答）								
			健康である	通院している病気があ る	入院している	通院していないが体調 が悪い	障がいがある（難病を のぞく）	指定難病の認定を受け ている	発達に遅れがある	その他	不明
全体		7282	6532	503	2	62	193	23	222	78	36
		—	89.7%	6.9%	0.0%	0.9%	2.7%	0.3%	3.0%	1.1%	0.5%
学年	2歳児	1398	1261	97	0	7	20	6	58	15	3
		—	90.2%	6.9%	0.0%	0.5%	1.4%	0.4%	4.1%	1.1%	0.2%
	5歳児	1131	1030	73	0	1	20	3	41	12	3
		—	91.1%	6.5%	0.0%	0.1%	1.8%	0.3%	3.6%	1.1%	0.3%
	小学2年生	1249	1108	89	0	7	57	3	54	12	5
		—	88.7%	7.1%	0.0%	0.6%	4.6%	0.2%	4.3%	1.0%	0.4%
	小学5年生	1263	1135	87	2	4	51	3	45	12	9
		—	89.9%	6.9%	0.2%	0.3%	4.0%	0.2%	3.6%	1.0%	0.7%
	中学2年生	1133	1004	78	0	19	31	7	19	19	10
		—	88.6%	6.9%	0.0%	1.7%	2.7%	0.6%	1.7%	1.7%	0.9%
	高校2年生	1108	994	79	0	24	14	1	5	8	6
		—	89.7%	7.1%	0.0%	2.2%	1.3%	0.1%	0.5%	0.7%	0.5%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 47 世帯類型と子どもの健康状態のクロス

		合計	子どもの健康状態（※複数回答）								
			健康である	通院している病気があ る	入院している	通院していないが体調 が悪い	障がいがある（難病を のぞく）	指定難病の認定を受け ている	発達に遅れがある	その他	不明
全体		7282	6532	503	2	62	193	23	222	78	36
		—	89.7%	6.9%	0.0%	0.9%	2.7%	0.3%	3.0%	1.1%	0.5%
世帯 類型	ひとり親世帯	805	699	77	0	11	38	0	39	10	5
		—	86.8%	9.6%	0.0%	1.4%	4.7%	0.0%	4.8%	1.2%	0.6%
	ふたり親世帯	6371	5740	424	2	50	150	23	182	66	24
		—	90.1%	6.7%	0.0%	0.8%	2.4%	0.4%	2.9%	1.0%	0.4%
	その他世帯	41	39	1	0	1	1	0	0	2	0
		—	95.1%	2.4%	0.0%	2.4%	2.4%	0.0%	0.0%	4.9%	0.0%
	不明	65	54	1	0	0	4	0	1	0	7
		—	83.1%	1.5%	0.0%	0.0%	6.2%	0.0%	1.5%	0.0%	10.8%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 48 所得階層と子どもの健康状態のクロス

		合計	子どもの健康状態（※複数回答）								
			健康である	通院している病気がある	入院している	通院していないが体調が悪い	障がいがある（難病をのぞく）	指定難病の認定を受けている	発達に遅れがある	その他	不明
全体		7282 —	6532 89.7%	503 6.9%	2 0.0%	62 0.9%	193 2.7%	23 0.3%	222 3.0%	78 1.1%	36 0.5%
所得 階層	低所得層Ⅰ	842 —	745 88.5%	61 7.2%	0 0.0%	13 1.5%	23 2.7%	2 0.2%	28 3.3%	14 1.7%	3 0.4%
	低所得層Ⅱ	1040 —	923 88.8%	74 7.1%	1 0.1%	5 0.5%	37 3.6%	3 0.3%	50 4.8%	12 1.2%	6 0.6%
	中間所得層Ⅰ	1122 —	1004 89.5%	85 7.6%	0 0.0%	10 0.9%	36 3.2%	3 0.3%	39 3.5%	15 1.3%	2 0.2%
	中間所得層Ⅱ	1905 —	1717 90.1%	129 6.8%	0 0.0%	20 1.0%	47 2.5%	7 0.4%	48 2.5%	20 1.0%	9 0.5%
	上位所得層	1672 —	1524 91.1%	103 6.2%	1 0.1%	6 0.4%	40 2.4%	6 0.4%	49 2.9%	13 0.8%	2 0.1%
	不明	701 —	619 88.3%	51 7.3%	0 0.0%	8 1.1%	10 1.4%	2 0.3%	8 1.1%	4 0.6%	14 2.0%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

「健康である」子どもは全体で 89.7%であり、学年による違いはみられない（表 46）。

子どもの健康状態については、所得階層による明らかな違いはみられない（表 48）。

表 49 学年と子どもに必要な病院受診をさせなかった経験のクロス

		合計	子どもに必要な病院受診をさせなかった経験		
			あった	なかった	不明
全体		7282 100.0%	1196 16.4%	6026 82.8%	60 0.8%
学年	2 歳児	1398 100.0%	216 15.5%	1175 84.0%	7 0.5%
	5 歳児	1131 100.0%	181 16.0%	949 83.9%	1 0.1%
	小学 2 年生	1249 100.0%	175 14.0%	1070 85.7%	4 0.3%
	小学 5 年生	1263 100.0%	214 16.9%	1031 81.6%	18 1.4%
	中学 2 年生	1133 100.0%	215 19.0%	907 80.1%	11 1.0%
	高校 2 年生	1108 100.0%	195 17.6%	894 80.7%	19 1.7%

※2 歳, 5 歳, 小 2, 小 5, 中 2, 高 2 の保護者が回答

表 50 世帯類型と子どもに必要な病院受診をさせなかった経験のクロス

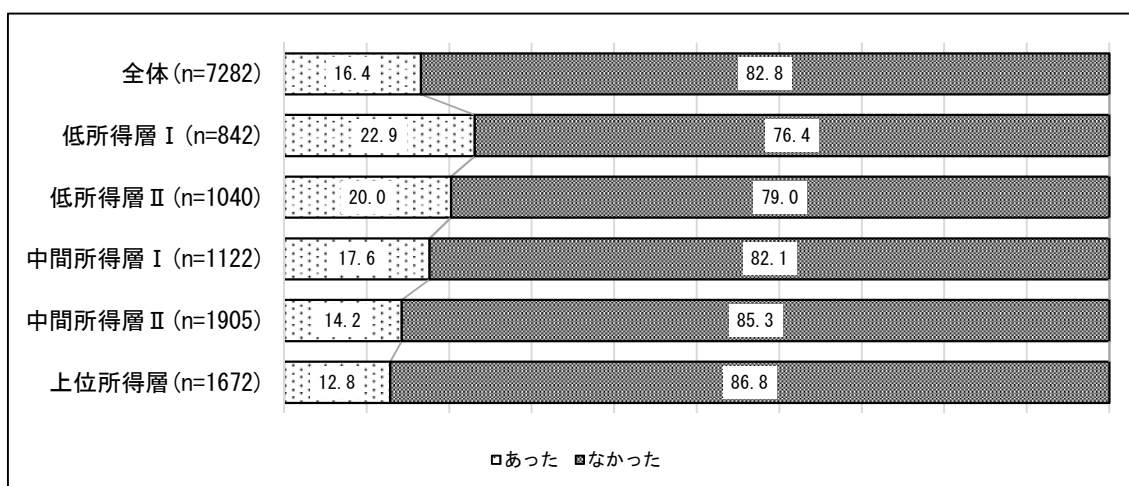
		合計	子どもに必要な病院受診をさせなかった経験		
			あった	なかった	不明
全体		7282 100.0%	1196 16.4%	6026 82.8%	60 0.8%
世帯類型	ひとり親世帯	805 100.0%	174 21.6%	619 76.9%	12 1.5%
	ふたり親世帯	6371 100.0%	1004 15.8%	5332 83.7%	35 0.5%
	その他世帯	41 100.0%	6 14.6%	34 82.9%	1 2.4%
	不明	65 100.0%	12 18.5%	41 63.1%	12 18.5%

※2 歳, 5 歳, 小 2, 小 5, 中 2, 高 2 の保護者が回答

表 51 所得階層と子どもに必要な病院受診をさせなかった経験のクロス

		合計	子どもに必要な病院受診をさせなかった経験		
			あった	なかった	不明
全体		7282	1196	6026	60
		100.0%	16.4%	82.8%	0.8%
所得階層	低所得層Ⅰ	842	193	643	6
		100.0%	22.9%	76.4%	0.7%
	低所得層Ⅱ	1040	208	822	10
		100.0%	20.0%	79.0%	1.0%
	中間所得層Ⅰ	1122	197	921	4
		100.0%	17.6%	82.1%	0.4%
	中間所得層Ⅱ	1905	270	1625	10
		100.0%	14.2%	85.3%	0.5%
	上位所得層	1672	214	1452	6
		100.0%	12.8%	86.8%	0.4%
	不明	701	114	563	24
		100.0%	16.3%	80.3%	3.4%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答



子どもを受診させる必要があったのに受診させなかった経験がある人は、全体で16.4%であり、中学2年生でやや高い傾向（19.0%）がある（表49）。

ひとり親世帯ではふたり親世帯に比べ、子どもを受診させなかった経験のある人の割合がやや高い（ひとり親世帯では21.6%、ふたり親世帯では15.8%）（表50）。

所得階層が低いほど子どもを受診させなかった経験のある人の割合が高い（低所得層Ⅰでは22.9%、上位所得層では12.8%）（表51）。

表 52 学年と子どもに必要な病院受診をさせなかった理由のクロス

		合計	子どもに必要な病院受診をさせなかった理由（※複数回答）										
			お金がなかった	保険証がなかった	仕事で連れていく時間がなかった	他の子どもの世話で連れていく時間がなかった	自分の健康状態が悪く連れて行けなかった	病院が遠かった	子どもが嫌がった	様子をみていたら回復した	感染予防のため受診を控えた	その他	不明
全体		1196 —	157 13.1%	11 0.9%	425 35.5%	101 8.4%	55 4.6%	32 2.7%	156 13.0%	357 29.8%	509 42.6%	101 8.4%	16 1.3%
学 年	2 歳児	216 —	20 9.3%	4 1.9%	80 37.0%	35 16.2%	11 5.1%	5 2.3%	10 4.6%	84 38.9%	87 40.3%	19 8.8%	2 0.9%
	5 歳児	181 —	17 9.4%	1 0.6%	62 34.3%	26 14.4%	9 5.0%	8 4.4%	16 8.8%	72 39.8%	88 48.6%	13 7.2%	1 0.6%
	小学 2 年生	175 —	20 11.4%	1 0.6%	57 32.6%	18 10.3%	10 5.7%	4 2.3%	30 17.1%	52 29.7%	84 48.0%	11 6.3%	2 1.1%
	小学 5 年生	214 —	26 12.1%	1 0.5%	84 39.3%	12 5.6%	8 3.7%	9 4.2%	35 16.4%	55 25.7%	80 37.4%	19 8.9%	6 2.8%
	中学 2 年生	215 —	32 14.9%	1 0.5%	80 37.2%	6 2.8%	11 5.1%	3 1.4%	33 15.3%	36 16.7%	97 45.1%	20 9.3%	2 0.9%
	高校 2 年生	195 —	42 21.5%	3 1.5%	62 31.8%	4 2.1%	6 3.1%	3 1.5%	32 16.4%	58 29.7%	73 37.4%	19 9.7%	3 1.5%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

※子どもに必要な病院受診をさせなかったと回答した人を母数とする

表 53 世帯類型と子どもに必要な病院受診をさせなかった理由のクロス

		合計	子どもに必要な病院受診をさせなかった理由（※複数回答）										
			お金がなかった	保険証がなかった	仕事で連れていく時間がなかった	他の子どもの世話で連れていく時間がなかった	自分の健康状態が悪く連れて行けなかった	病院が遠かった	子どもが嫌がった	様子を見ていたら回復した	感染予防のため受診を控えた	その他	不明
全体		1196 —	157 13.1%	11 0.9%	425 35.5%	101 8.4%	55 4.6%	32 2.7%	156 13.0%	357 29.8%	509 42.6%	101 8.4%	16 1.3%
世帯類型	ひとり親世帯	174 —	39 22.4%	3 1.7%	87 50.0%	5 2.9%	12 6.9%	6 3.4%	29 16.7%	29 16.7%	47 27.0%	12 6.9%	2 1.1%
	ふたり親世帯	1004 —	115 11.5%	8 0.8%	330 32.9%	95 9.5%	43 4.3%	26 2.6%	125 12.5%	326 32.5%	456 45.4%	86 8.6%	13 1.3%
	その他世帯	6 —	1 16.7%	0 0.0%	4 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%
	不明	12 —	2 16.7%	0 0.0%	4 33.3%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	5 41.7%	1 8.3%	1 8.3%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

※子どもに必要な病院受診をさせなかったと回答した人を母数とする

表 54 所得階層と子どもに必要な病院受診をさせなかった理由のクロス

		合計	子どもに必要な病院受診をさせなかった理由（※複数回答）										
			お金がなかった	保険証がなかった	仕事で連れていく時間がなかった	他の子どもの世話で連れていく時間がなかった	自分の健康状態が悪く連れて行けなかった	病院が遠かった	子どもが嫌がった	様子を見ていたら回復した	感染予防のため受診を控えた	その他	不明
全体		1196	157	11	425	101	55	32	156	357	509	101	16
		—	13.1%	0.9%	35.5%	8.4%	4.6%	2.7%	13.0%	29.8%	42.6%	8.4%	1.3%
所得階層	低所得層Ⅰ	193	63	4	76	11	11	9	25	37	65	13	2
		—	32.6%	2.1%	39.4%	5.7%	5.7%	4.7%	13.0%	19.2%	33.7%	6.7%	1.0%
	低所得層Ⅱ	208	42	5	81	31	18	4	32	60	91	19	0
		—	20.2%	2.4%	38.9%	14.9%	8.7%	1.9%	15.4%	28.8%	43.8%	9.1%	0.0%
	中間所得層Ⅰ	197	23	1	69	16	11	7	26	71	80	20	2
		—	11.7%	0.5%	35.0%	8.1%	5.6%	3.6%	13.2%	36.0%	40.6%	10.2%	1.0%
	中間所得層Ⅱ	270	15	0	104	21	6	8	29	77	125	20	2
		—	5.6%	0.0%	38.5%	7.8%	2.2%	3.0%	10.7%	28.5%	46.3%	7.4%	0.7%
	上位所得層	214	4	1	65	16	5	1	27	74	93	24	6
		—	1.9%	0.5%	30.4%	7.5%	2.3%	0.5%	12.6%	34.6%	43.5%	11.2%	2.8%
不明	114	10	0	30	6	4	3	17	38	55	5	4	
	—	8.8%	0.0%	26.3%	5.3%	3.5%	2.6%	14.9%	33.3%	48.2%	4.4%	3.5%	

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答
※子どもに必要な病院受診をさせなかったと回答した人を母数とする

子どもに必要な病院受診をさせなかった理由として「お金がなかった」と回答した割合は全体で13.1%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ高く（ひとり親世帯では22.4%、ふたり親世帯では11.5%）（表53）、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある（低所得層Ⅰでは32.6%、上位所得層では1.9%）（表54）。

また、「仕事で連れていく時間がなかった」と回答した割合は全体で35.5%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べて高い（ひとり親世帯で50.0%、ふたり親世帯で32.9%）（表53）。

表 55 学年と自身が必要な病院受診をしなかった経験のクロス

		合計	自身が必要な病院受診をしなかった経験		
			あった	なかった	不明
全体		7282 100.0%	2410 33.1%	4805 66.0%	67 0.9%
学年	2 歳児	1398 100.0%	634 45.4%	752 53.8%	12 0.9%
	5 歳児	1131 100.0%	431 38.1%	696 61.5%	4 0.4%
	小学 2 年生	1249 100.0%	408 32.7%	833 66.7%	8 0.6%
	小学 5 年生	1263 100.0%	364 28.8%	882 69.8%	17 1.3%
	中学 2 年生	1133 100.0%	323 28.5%	797 70.3%	13 1.1%
	高校 2 年生	1108 100.0%	250 22.6%	845 76.3%	13 1.2%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 56 世帯類型と自身が必要な病院受診をしなかった経験のクロス

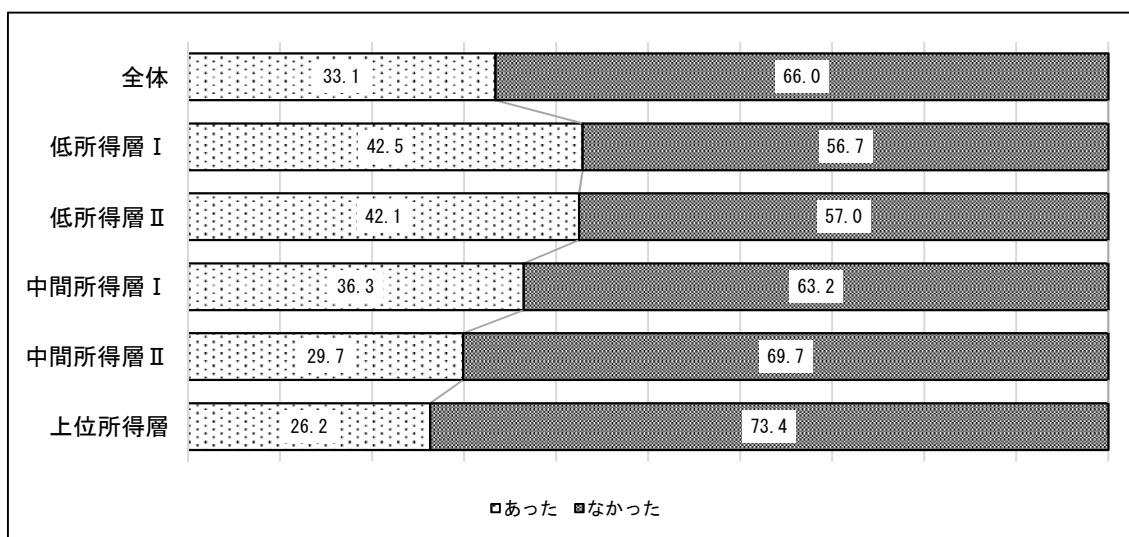
		合計	自身が必要な病院受診をしなかった経験		
			あった	なかった	不明
全体		7282 100.0%	2410 33.1%	4805 66.0%	67 0.9%
世帯類型	ひとり親世帯	805 100.0%	321 39.9%	473 58.8%	11 1.4%
	ふたり親世帯	6371 100.0%	2060 32.3%	4268 67.0%	43 0.7%
	その他世帯	41 100.0%	7 17.1%	34 82.9%	0 0.0%
	不明	65 100.0%	22 33.8%	30 46.2%	13 20.0%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 57 所得階層と自身が必要な病院受診をしなかった経験のクロス

		合計	自身が必要な病院受診をしなかった経験		
			あった	なかった	不明
全体		7282	2410	4805	67
		100.0%	33.1%	66.0%	0.9%
所得階層	低所得層Ⅰ	842	358	477	7
		100.0%	42.5%	56.7%	0.8%
	低所得層Ⅱ	1040	438	593	9
		100.0%	42.1%	57.0%	0.9%
	中間所得層Ⅰ	1122	407	709	6
		100.0%	36.3%	63.2%	0.5%
	中間所得層Ⅱ	1905	566	1328	11
		100.0%	29.7%	69.7%	0.6%
	上位所得層	1672	438	1228	6
		100.0%	26.2%	73.4%	0.4%
	不明	701	203	470	28
		100.0%	29.0%	67.0%	4.0%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答



自分自身が必要な受診をしなかった経験がある人は33.1%であり、子どもの受診と比較すると自分自身の受診を控える人の割合が高い。

学年が低いほどその割合は高い。特に2歳児の保護者では45.4%にも上る。（表55）。

ひとり親世帯ではふたり親世帯に比べ、受診しなかった経験のある人の割合がやや高い（ひとり親世帯では39.9%、ふたり親世帯では32.3%）（表56）。

所得階層が低いほど受診しなかった経験のある人の割合が高いが、低所得層ⅠとⅡでは同程度である（低所得層Ⅰでは42.5%、低所得層Ⅱでは42.1%、上位所得層では26.2%）（表57）。

5 進学について

表 58 学年と子どもにどの段階まで教育を受けさせたいかのクロス

		合計	子どもにどの段階まで教育を受けさせたいか							
			中学	高校	高等専門学校	短大	専門学校	四年制大学またはそれ以上	まだわからない	その他
全体		2396 100.0%	6 0.3%	163 6.8%	30 1.3%	52 2.2%	183 7.6%	1381 57.6%	465 19.4%	60 2.5%
学年	小学 5 年生	1263 100.0%	5 0.4%	84 6.7%	16 1.3%	23 1.8%	91 7.2%	716 56.7%	267 21.1%	33 2.6%
	中学 2 年生	1133 100.0%	1 0.1%	79 7.0%	14 1.2%	29 2.6%	92 8.1%	665 58.7%	198 17.5%	27 2.4%

※小 5, 中 2 の保護者が回答

表 59 世帯類型と子どもにどの段階まで教育を受けさせたいかのクロス

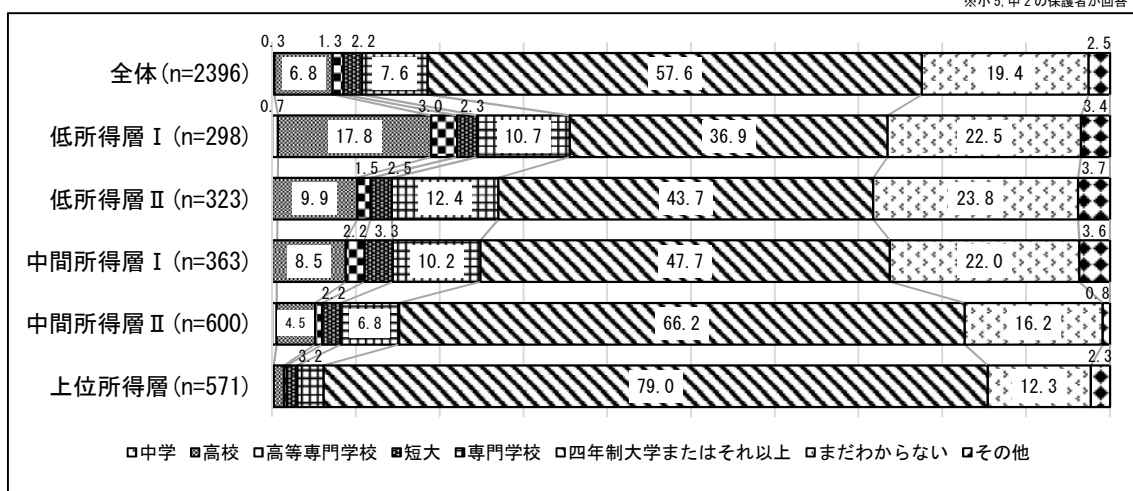
		合計	子どもにどの段階まで教育を受けさせたいか							
			中学	高校	高等専門学校	短大	専門学校	四年制大学またはそれ以上	まだわからない	その他
全体		2396 100.0%	6 0.3%	163 6.8%	30 1.3%	52 2.2%	183 7.6%	1381 57.6%	465 19.4%	60 2.5%
世帯 類型	ひとり親世帯	351 100.0%	3 0.9%	37 10.5%	8 2.3%	6 1.7%	39 11.1%	169 48.1%	70 19.9%	14 4.0%
	ふたり親世帯	1996 100.0%	3 0.2%	118 5.9%	21 1.1%	45 2.3%	141 7.1%	1191 59.7%	389 19.5%	45 2.3%
	その他世帯	11 100.0%	0 0.0%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	3 27.3%	4 36.4%	1 9.1%	1 9.1%
	不明	38 100.0%	0 0.0%	6 15.8%	1 2.6%	1 2.6%	0 0.0%	17 44.7%	5 13.2%	0 0.0%

※小 5, 中 2 の保護者が回答

表 60 所得階層と子どもにどの段階まで教育を受けさせたいかのクロス

		合計	子どもにどの段階まで教育を受けさせたいか							
			中学	高校	高等専門学校	短大	専門学校	四年制大学またはそれ以上	まだわからない	その他
全体		2396	6	163	30	52	183	1381	465	60
		100.0%	0.3%	6.8%	1.3%	2.2%	7.6%	57.6%	19.4%	2.5%
所得階層	低所得層Ⅰ	298	2	53	9	7	32	110	67	10
		100.0%	0.7%	17.8%	3.0%	2.3%	10.7%	36.9%	22.5%	3.4%
	低所得層Ⅱ	323	0	32	5	8	40	141	77	12
		100.0%	0.0%	9.9%	1.5%	2.5%	12.4%	43.7%	23.8%	3.7%
	中間所得層Ⅰ	363	0	31	8	12	37	173	80	13
		100.0%	0.0%	8.5%	2.2%	3.3%	10.2%	47.7%	22.0%	3.6%
	中間所得層Ⅱ	600	3	27	5	13	41	397	97	5
		100.0%	0.5%	4.5%	0.8%	2.2%	6.8%	66.2%	16.2%	0.8%
	上位所得層	571	1	7	2	7	18	451	70	13
		100.0%	0.2%	1.2%	0.4%	1.2%	3.2%	79.0%	12.3%	2.3%
	不明	241	0	13	1	5	15	109	74	7
		100.0%	0.0%	5.4%	0.4%	2.1%	6.2%	45.2%	30.7%	2.9%

※小5、中2の保護者が回答



※小5、中2の保護者が回答

「四年制大学またはそれ以上」と回答する者は、ひとり親世帯で 48.1%であるのに対し、ふたり親世帯では 59.7%となっている（表 59）。

所得階層別にみると、所得階層が高くなるほど、「四年制大学またはそれ以上」と回答している。具体的には、低所得層Ⅰでは 36.9%である一方、上位所得層では 79.0%と 8 割に迫っている。他方で、所得階層が低くなるほど、「高校」と回答する者が多くなっている。具体的には、上位所得層では 1.2%であるのに対し、低所得層Ⅰでは 17.8%と 2 割に迫っている（表 60）。

表 61 学年と高校卒業後の進路についてどのように考えているかのクロス

		合計	高校卒業後の進路についてどのように考えているか					
			就職	短大進学	専門学校進学	四年制大学進学	まだわからない	その他
全体		1108	44	14	103	739	172	16
		100.0%	4.0%	1.3%	9.3%	66.7%	15.5%	1.4%
学年	高校2年生	1108	44	14	103	739	172	16
		100.0%	4.0%	1.3%	9.3%	66.7%	15.5%	1.4%

※高2の保護者が回答

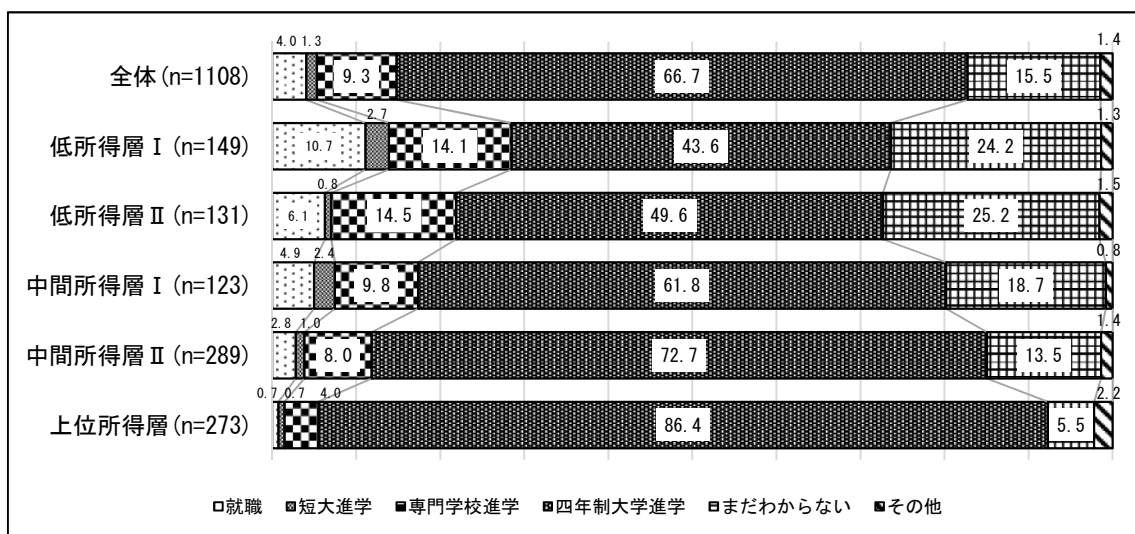
表 62 世帯類型と高校卒業後の進路についてどのように考えているかのクロス

		合計	高校卒業後の進路についてどのように考えているか					
			就職	短大進学	専門学校進学	四年制大学進学	まだわからない	その他
全体		1108	44	14	103	739	172	16
		100.0%	4.0%	1.3%	9.3%	66.7%	15.5%	1.4%
世帯類型	ひとり親世帯	182	12	4	31	91	35	3
		100.0%	6.6%	2.2%	17.0%	50.0%	19.2%	1.6%
	ふたり親世帯	904	31	9	71	640	126	13
		100.0%	3.4%	1.0%	7.9%	70.8%	13.9%	1.4%
	その他世帯	13	0	0	1	6	6	0
		100.0%	0.0%	0.0%	7.7%	46.2%	46.2%	0.0%
	不明	9	1	1	0	2	5	0
		100.0%	11.1%	11.1%	0.0%	22.2%	55.6%	0.0%

※高2の保護者が回答

表 63 所得階層と高校卒業後の進路についてどのように考えているかのクロス

		合計	高校卒業後の進路についてどのように考えているか					
			就職	短大進学	専門学校進学	四年制大学進学	まだわからない	その他
全体		1108	44	14	103	739	172	16
		100.0%	4.0%	1.3%	9.3%	66.7%	15.5%	1.4%
所得階層	低所得層Ⅰ	149	16	4	21	65	36	2
		100.0%	10.7%	2.7%	14.1%	43.6%	24.2%	1.3%
	低所得層Ⅱ	131	8	1	19	65	33	2
		100.0%	6.1%	0.8%	14.5%	49.6%	25.2%	1.5%
	中間所得層Ⅰ	123	6	3	12	76	23	1
		100.0%	4.9%	2.4%	9.8%	61.8%	18.7%	0.8%
	中間所得層Ⅱ	289	8	3	23	210	39	4
		100.0%	2.8%	1.0%	8.0%	72.7%	13.5%	1.4%
	上位所得層	273	2	2	11	236	15	6
		100.0%	0.7%	0.7%	4.0%	86.4%	5.5%	2.2%
	不明	143	4	1	17	87	26	1
		100.0%	2.8%	0.7%	11.9%	60.8%	18.2%	0.7%



※高2の保護者が回答

「四年制大学進学」と回答するものは、ひとり親世帯で 50.0%であるのに対し、ふたり親世帯で 70.8%となっている（表 62）。

所得階層別にみると、所得階層が高いほど、「四年制大学進学」と回答している。低所得層Ⅰでは 43.6%である一方、上位所得層では 86.4%と 8 割を超えている。他方、所得階層が低くなると、「就職」「専門学校進学」「まだわからない」と回答する傾向がみられる（表 63）。

表 64 学年と教育を受けさせるためのお金の準備のクロス

		合計	教育を受けさせるためのお金の準備					
			準備できている	必要なお金はすでに準備を始めている	貯金や学資保険などで準備を始めている	時期になったら奨学金を利用する予定である	まったく目処はついていない	その他
全体		2396 100.0%	243 10.1%	1396 58.3%	283 11.8%	383 16.0%	33 1.4%	58 2.4%
学年	小学 5 年生	1263 100.0%	105 8.3%	787 62.3%	118 9.3%	218 17.3%	16 1.3%	19 1.5%
	中学 2 年生	1133 100.0%	138 12.2%	609 53.8%	165 14.6%	165 14.6%	17 1.5%	39 3.4%

※小 5、中 2 の保護者が回答

表 65 世帯類型と教育を受けさせるためのお金の準備のクロス

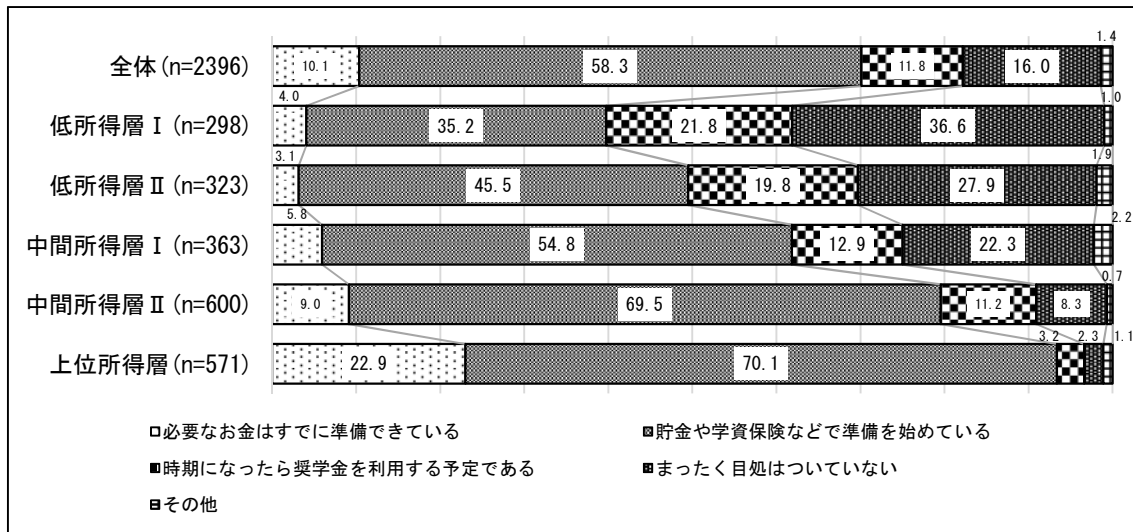
		合計	教育を受けさせるためのお金の準備					
			準備できている	必要なお金はすでに準備を始めている	貯金や学資保険などで準備を始めている	時期になったら奨学金を利用する予定である	まったく目処はついていない	その他
全体		2396 100.0%	243 10.1%	1396 58.3%	283 11.8%	383 16.0%	33 1.4%	58 2.4%
世帯類型	ひとり親世帯	351 100.0%	24 6.8%	135 38.5%	78 22.2%	101 28.8%	9 2.6%	4 1.1%
	ふたり親世帯	1996 100.0%	215 10.8%	1245 62.4%	200 10.0%	273 13.7%	23 1.2%	40 2.0%
	その他世帯	11 100.0%	0 0.0%	4 36.4%	3 27.3%	4 36.4%	0 0.0%	0 0.0%
	不明	38 100.0%	4 10.5%	12 31.6%	2 5.3%	5 13.2%	1 2.6%	14 36.8%

※小 5、中 2 の保護者が回答

表 66 所得階層と教育を受けさせるためのお金の準備のクロス

		合計	教育を受けさせるためのお金の準備					
			準備できている	必要なお金はすでに準備を始めている	貯金や学資保険などで準備を始めている	時期になったら奨学金を利用する予定である	まったく目処はついていない	その他
全体		2396 100.0%	243 10.1%	1396 58.3%	283 11.8%	383 16.0%	33 1.4%	58 2.4%
所得階層	低所得層Ⅰ	298 100.0%	12 4.0%	105 35.2%	65 21.8%	109 36.6%	3 1.0%	4 1.3%
	低所得層Ⅱ	323 100.0%	10 3.1%	147 45.5%	64 19.8%	90 27.9%	6 1.9%	6 1.9%
	中間所得層Ⅰ	363 100.0%	21 5.8%	199 54.8%	47 12.9%	81 22.3%	8 2.2%	7 1.9%
	中間所得層Ⅱ	600 100.0%	54 9.0%	417 69.5%	67 11.2%	50 8.3%	4 0.7%	8 1.3%
	上位所得層	571 100.0%	131 22.9%	400 70.1%	18 3.2%	13 2.3%	6 1.1%	3 0.5%
	不明	241 100.0%	15 6.2%	128 53.1%	22 9.1%	40 16.6%	6 2.5%	30 12.4%

※小5、中2の保護者が回答



ひとり親世帯では、ふたり親世帯と比べて、「貯金や学資保険などで準備を始めている」との回答が少なく（ひとり親世帯では38.5%、ふたり親世帯では62.4%）、
「時期になったら奨学金を利用する予定である」さらには「まったく目処はついていない」と回答する傾向がみられる（「時期になったら奨学金を利用する予定である」

はひとり親世帯では 22.2%、ふたり親世帯では 10.0%、「まったく目処はついていない」はひとり親世帯では 28.8%、ふたり親世帯では 13.7%）（表 65）。

所得階層別にみると、所得階層が高いほど、「貯金や学資保険などで準備を始めている」と回答する傾向がみられる。例えば、低所得層Ⅰで 35.2%であるのに対し、上位所得層では 70.1%が回答している。さらに、上位所得層の 2 割を超える世帯

（22.9%）が「必要なお金はすでに準備できている」と回答している。他方、所得階層が低くなれば、「時期になったら奨学金を利用する予定である」、さらには「まったく目処はついていない」という回答が多い（「時期になったら奨学金を利用する予定である」は低所得層Ⅰでは 21.8%、上位所得層では 3.2%、「まったく目処はついていない」は低所得層Ⅰでは 36.6%、上位所得層では 2.3%）。特に、低所得層Ⅰでは 3 割を超える世帯が「まったく目処はついていない」と回答している（表 66）。

表 67 学年と子どもが高校卒業後に進学する場合のお金の用意の方法のクロス

		合計	子どもが高校卒業後に進学する場合のお金の用意の方法（※複数回答）										
			貯金をあてる	学資保険をあてる	給付型奨学金（返済の必要がないもの）を利用する	貸与型奨学金（将来返済する必要があるもの）を利用する	教育ローンを利用する	福祉資金（生活福祉資金・母子父子寡婦福祉資金）を利用する	親せき等からの援助	子ども本人のアルバイト	い 金銭的なめどが立っていない	その他	不明
全体		1108 —	662 59.7%	464 41.9%	279 25.2%	372 33.6%	148 13.4%	22 2.0%	32 2.9%	147 13.3%	100 9.0%	14 1.3%	20 1.8%
学年	高校 2 年生	1108 —	662 59.7%	464 41.9%	279 25.2%	372 33.6%	148 13.4%	22 2.0%	32 2.9%	147 13.3%	100 9.0%	14 1.3%	20 1.8%

※高 2 の保護者が回答

表 68 世帯類型と子どもが高校卒業後に進学する場合のお金の用意の方法のクロス

		合計	子どもが高校卒業後に進学する場合のお金の用意の方法（※複数回答）										
			貯金をあてる	学資保険をあてる	給付型奨学金（返済の必要がないもの）を利用する	貸与型奨学金（将来返済する必要があるもの）を利用する	教育ローンを利用する	福祉資金を利用する	生活福祉資金・母子父子寡婦福祉資金を利用する	親せき等からの援助	子ども本人のアルバイト	金銭的なめどが立っていない	その他
全体		1108 —	662 59.7%	464 41.9%	279 25.2%	372 33.6%	148 13.4%	22 2.0%	32 2.9%	147 13.3%	100 9.0%	14 1.3%	20 1.8%
世帯 類型	ひとり親世帯	182 —	82 45.1%	46 25.3%	87 47.8%	65 35.7%	22 12.1%	20 11.0%	4 2.2%	36 19.8%	30 16.5%	2 1.1%	6 3.3%
		904 —	568 62.8%	414 45.8%	186 20.6%	302 33.4%	124 13.7%	1 0.1%	28 3.1%	108 11.9%	66 7.3%	12 1.3%	11 1.2%
	ふたり親世帯	13 —	8 61.5%	4 30.8%	4 30.8%	4 30.8%	2 15.4%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%	1 7.7%
		9 —	4 44.4%	0 0.0%	2 22.2%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 33.3%	3 33.3%	0 0.0%	2 22.2%
	その他世帯	13 —	8 61.5%	4 30.8%	4 30.8%	4 30.8%	2 15.4%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%	1 7.7%
		9 —	4 44.4%	0 0.0%	2 22.2%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 33.3%	3 33.3%	0 0.0%	2 22.2%
	不明	143 —	90 62.9%	44 30.8%	33 23.1%	32 22.4%	12 8.4%	3 2.1%	2 1.4%	22 15.4%	12 8.4%	2 1.4%	8 5.6%
		273 —	227 83.2%	141 51.6%	28 10.3%	66 24.2%	29 10.6%	0 0.0%	6 2.2%	16 5.9%	3 1.1%	5 1.8%	0 0.0%

※高2の保護者が回答

表 69 所得階層と子どもが高校卒業後に進学する場合のお金の用意の方法のクロス

		合計	子どもが高校卒業後に進学する場合のお金の用意の方法（※複数回答）										
			貯金をあてる	学資保険をあてる	給付型奨学金（返済の必要がないもの）を利用する	貸与型奨学金（将来返済する必要があるもの）を利用する	教育ローンを利用する	福祉資金を利用する	生活福祉資金・母子父子寡婦福祉資金を利用する	親せき等からの援助	子ども本人のアルバイト	金銭的なめどが立っていない	その他
全体		1108 —	662 59.7%	464 41.9%	279 25.2%	372 33.6%	148 13.4%	22 2.0%	32 2.9%	147 13.3%	100 9.0%	14 1.3%	20 1.8%
所得階層	低所得層Ⅰ	149 —	43 28.9%	40 26.8%	74 49.7%	51 34.2%	17 11.4%	11 7.4%	6 4.0%	30 20.1%	33 22.1%	1 0.7%	2 1.3%
	低所得層Ⅱ	131 —	57 43.5%	37 28.2%	50 38.2%	57 43.5%	21 16.0%	5 3.8%	5 3.8%	29 22.1%	18 13.7%	1 0.8%	8 6.1%
	中間所得層Ⅰ	123 —	71 57.7%	52 42.3%	41 33.3%	50 40.7%	16 13.0%	2 1.6%	5 4.1%	16 13.0%	16 13.0%	1 0.8%	1 0.8%
	中間所得層Ⅱ	289 —	174 60.2%	150 51.9%	53 18.3%	116 40.1%	53 18.3%	1 0.3%	8 2.8%	34 11.8%	18 6.2%	4 1.4%	1 0.3%
	上位所得層	273 —	227 83.2%	141 51.6%	28 10.3%	66 24.2%	29 10.6%	0 0.0%	6 2.2%	16 5.9%	3 1.1%	5 1.8%	0 0.0%
	不明	143 —	90 62.9%	44 30.8%	33 23.1%	32 22.4%	12 8.4%	3 2.1%	2 1.4%	22 15.4%	12 8.4%	2 1.4%	8 5.6%

※高2の保護者が回答

子どもが高校卒業後に進学する場合に学校に行くのにかかるお金の用意の方法として、「貯金をあてる」と回答した割合は全体で 59.7%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ低く（ひとり親世帯では 45.1%、ふたり親世帯では 62.8%）、所得階層が低いほど割合が低い傾向にある（低所得層Ⅰでは 28.9%、上位所得層では 83.2%）（表 68）。

また、「金銭的なめどが立っていない」と回答した割合は全体で 9.0%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ高く（ひとり親世帯では 16.5%、ふたり親世帯では 7.3%）、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある（低所得層Ⅰでは 22.1%、上位所得層では 1.1%）（表 69）。

6 子育てについて

表 70 学年と子ども部屋はあるかのクロス

		合 計	子ども部屋はあるか			
			持 っ て い る	必 要 と 思 わ な い	経 済 的 に 持 て な い	不 明
全体		4753 100.0%	3877 81.6%	427 9.0%	368 7.7%	81 1.7%
学年	小学 2 年生	1249 100.0%	859 68.8%	235 18.8%	136 10.9%	19 1.5%
	小学 5 年生	1263 100.0%	994 78.7%	126 10.0%	117 9.3%	26 2.1%
	中学 2 年生	1133 100.0%	1004 88.6%	40 3.5%	69 6.1%	20 1.8%
	高校 2 年生	1108 100.0%	1020 92.1%	26 2.3%	46 4.2%	16 1.4%

※小 2, 小 5, 中 2, 高 2 の保護者が回答

表 71 世帯類型と子ども部屋はあるかのクロス

		合 計	子ども部屋はあるか			
			持 っ て い る	必 要 と 思 わ な い	経 済 的 に 持 て な い	不 明
全体		4753 100.0%	3877 81.6%	427 9.0%	368 7.7%	81 1.7%
世帯類型	ひとり親世帯	652 100.0%	486 74.5%	39 6.0%	115 17.6%	12 1.8%
	ふたり親世帯	4020 100.0%	3331 82.9%	385 9.6%	244 6.1%	60 1.5%
	その他世帯	28 100.0%	20 71.4%	2 7.1%	6 21.4%	0 0.0%
	不明	53 100.0%	40 75.5%	1 1.9%	3 5.7%	9 17.0%

※小 2, 小 5, 中 2, 高 2 の保護者が回答

表 72 所得階層と子ども部屋はあるかのクロス

		合 計	子ども部屋はあるか			
			持 っ て い る	必 要 と 思 わ ない	経 済 的 に 持 て ない	不 明
全体		4753 100.0%	3877 81.6%	427 9.0%	368 7.7%	81 1.7%
所得階層	低所得層Ⅰ	587 100.0%	438 74.6%	27 4.6%	113 19.3%	9 1.5%
	低所得層Ⅱ	627 100.0%	471 75.1%	57 9.1%	88 14.0%	11 1.8%
	中間所得層Ⅰ	679 100.0%	547 80.6%	61 9.0%	63 9.3%	8 1.2%
	中間所得層Ⅱ	1187 100.0%	1018 85.8%	106 8.9%	49 4.1%	14 1.2%
	上位所得層	1158 100.0%	992 85.7%	136 11.7%	21 1.8%	9 0.8%
	不明	515 100.0%	411 79.8%	40 7.8%	34 6.6%	30 5.8%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

子ども部屋を経済的に持てないと回答した割合は、全体で7.7%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ高く（ひとり親世帯では17.6%、ふたり親世帯では6.1%）（表71）、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある（低所得層Ⅰでは19.3%、上位所得層では1.8%）（表72）。

表 73 学年と子ども専用の勉強机はあるかのクロス

		合 計	子ども専用の勉強机はあるか			
			持 っ て い る	必 要 と 思 わ ない	経 済 的 に 持 て ない	不 明
全体		4753 100.0%	3985 83.8%	567 11.9%	136 2.9%	65 1.4%
学年	小学2年生	1249 100.0%	845 67.7%	330 26.4%	58 4.6%	16 1.3%
	小学5年生	1263 100.0%	1043 82.6%	164 13.0%	38 3.0%	18 1.4%
	中学2年生	1133 100.0%	1051 92.8%	39 3.4%	26 2.3%	17 1.5%
	高校2年生	1108 100.0%	1046 94.4%	34 3.1%	14 1.3%	14 1.3%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 74 世帯類型と子ども専用の勉強机はあるかのクロス

		合計	子ども専用の勉強机はあるか			
			持っている	必要と思わない	経済的に持てない	不明
全体		4753 100.0%	3985 83.8%	567 11.9%	136 2.9%	65 1.4%
世帯類型	ひとり親世帯	652 100.0%	523 80.2%	64 9.8%	55 8.4%	10 1.5%
	ふたり親世帯	4020 100.0%	3397 84.5%	497 12.4%	80 2.0%	46 1.1%
	その他世帯	28 100.0%	24 85.7%	3 10.7%	1 3.6%	0 0.0%
	不明	53 100.0%	41 77.4%	3 5.7%	0 0.0%	9 17.0%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 75 所得階層と子ども専用の勉強机はあるかのクロス

		合計	子ども専用の勉強机はあるか			
			持っている	必要と思わない	経済的に持てない	不明
全体		4753 100.0%	3985 83.8%	567 11.9%	136 2.9%	65 1.4%
所得階層	低所得層Ⅰ	587 100.0%	465 79.2%	64 10.9%	52 8.9%	6 1.0%
	低所得層Ⅱ	627 100.0%	510 81.3%	74 11.8%	34 5.4%	9 1.4%
	中間所得層Ⅰ	679 100.0%	566 83.4%	91 13.4%	16 2.4%	6 0.9%
	中間所得層Ⅱ	1187 100.0%	1043 87.9%	117 9.9%	16 1.3%	11 0.9%
	上位所得層	1158 100.0%	977 84.4%	175 15.1%	2 0.2%	4 0.3%
	不明	515 100.0%	424 82.3%	46 8.9%	16 3.1%	29 5.6%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

子ども専用の勉強机を経済的に持てないと回答した割合は、全体で2.9%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ高く（ひとり親世帯では8.4%、ふたり親世帯

では 2.0%) (表 74)、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある(低所得層 I では 8.9%、上位所得層では 0.2%) (表 75)。

表 76 学年と子どもを習い事に通わせているかのクロス

		合計	子どもを習い事に通わせているか				
			している	したくない	経済的にできない	それ以外の理由で できない	不明
全体		4753 100.0%	3009 63.3%	476 10.0%	466 9.8%	672 14.1%	130 2.7%
学年	小学 2 年生	1249 100.0%	924 74.0%	50 4.0%	102 8.2%	155 12.4%	18 1.4%
	小学 5 年生	1263 100.0%	973 77.0%	65 5.1%	91 7.2%	111 8.8%	23 1.8%
	中学 2 年生	1133 100.0%	666 58.8%	141 12.4%	119 10.5%	164 14.5%	43 3.8%
	高校 2 年生	1108 100.0%	446 40.3%	220 19.9%	154 13.9%	242 21.8%	46 4.2%

※小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 77 世帯類型と子どもを習い事に通わせているかのクロス

		合計	子どもを習い事に通わせているか				
			している	したくない	経済的にできない	それ以外の理由で できない	不明
全体		4753 100.0%	3009 63.3%	476 10.0%	466 9.8%	672 14.1%	130 2.7%
世帯類型	ひとり親世帯	652 100.0%	290 44.5%	77 11.8%	161 24.7%	105 16.1%	19 2.9%
	ふたり親世帯	4020 100.0%	2685 66.8%	390 9.7%	290 7.2%	556 13.8%	99 2.5%
	その他世帯	28 100.0%	9 32.1%	6 21.4%	4 14.3%	7 25.0%	2 7.1%
	不明	53 100.0%	25 47.2%	3 5.7%	11 20.8%	4 7.5%	10 18.9%

※小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 78 所得階層と子どもを習い事に通わせているかのクロス

		合 計	子どもを習い事に通わせているか				
			して いる	した くない	経済 的に できない	それ 以外 の理 由で できない	不 明
全体		4753 100.0%	3009 63.3%	476 10.0%	466 9.8%	672 14.1%	130 2.7%
所得階層	低所得層Ⅰ	587 100.0%	256 43.6%	63 10.7%	159 27.1%	97 16.5%	12 2.0%
	低所得層Ⅱ	627 100.0%	315 50.2%	68 10.8%	115 18.3%	114 18.2%	15 2.4%
	中間所得層Ⅰ	679 100.0%	405 59.6%	77 11.3%	69 10.2%	113 16.6%	15 2.2%
	中間所得層Ⅱ	1187 100.0%	803 67.6%	144 12.1%	56 4.7%	152 12.8%	32 2.7%
	上位所得層	1158 100.0%	926 80.0%	80 6.9%	15 1.3%	123 10.6%	14 1.2%
	不明	515 100.0%	304 59.0%	44 8.5%	52 10.1%	73 14.2%	42 8.2%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

経済的な理由で子どもを習い事に通わせていないと回答した割合は、全体で9.8%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ高く（ひとり親世帯では24.7%、ふたり親世帯では7.2%）（表77）、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある（低所得層Ⅰでは27.1%、上位所得層では1.3%）（表78）。

表 79 学年と子どもを学習塾に通わせているかのクロス

		合計	子どもを学習塾に通わせているか				
			している	したくない	経済的にできない	それ以外の理由で できない	不明
全体		4753 100.0%	2529 53.2%	725 15.3%	554 11.7%	798 16.8%	147 3.1%
学年	小学2年生	1249 100.0%	661 52.9%	194 15.5%	123 9.8%	236 18.9%	35 2.8%
	小学5年生	1263 100.0%	721 57.1%	189 15.0%	137 10.8%	180 14.3%	36 2.9%
	中学2年生	1133 100.0%	705 62.2%	120 10.6%	134 11.8%	145 12.8%	29 2.6%
	高校2年生	1108 100.0%	442 39.9%	222 20.0%	160 14.4%	237 21.4%	47 4.2%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 80 世帯類型と子どもを学習塾に通わせているかのクロス

		合計	子どもを学習塾に通わせているか				
			している	したくない	経済的にできない	それ以外の理由で できない	不明
全体		4753 100.0%	2529 53.2%	725 15.3%	554 11.7%	798 16.8%	147 3.1%
世帯類型	ひとり親世帯	652 100.0%	246 37.7%	81 12.4%	190 29.1%	115 17.6%	20 3.1%
	ふたり親世帯	4020 100.0%	2258 56.2%	635 15.8%	346 8.6%	667 16.6%	114 2.8%
	その他世帯	28 100.0%	6 21.4%	4 14.3%	7 25.0%	9 32.1%	2 7.1%
	不明	53 100.0%	19 35.8%	5 9.4%	11 20.8%	7 13.2%	11 20.8%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 81 所得階層と子どもを学習塾に通わせているかのクロス

		合計	子どもを学習塾に通わせているか				
			している	したくない	経済的にできない	それ以外の理由で できない	不明
全体		4753 100.0%	2529 53.2%	725 15.3%	554 11.7%	798 16.8%	147 3.1%
所得階層	低所得層Ⅰ	587 100.0%	201 34.2%	76 12.9%	190 32.4%	114 19.4%	6 1.0%
	低所得層Ⅱ	627 100.0%	228 36.4%	100 15.9%	147 23.4%	133 21.2%	19 3.0%
	中間所得層Ⅰ	679 100.0%	333 49.0%	112 16.5%	88 13.0%	131 19.3%	15 2.2%
	中間所得層Ⅱ	1187 100.0%	688 58.0%	212 17.9%	61 5.1%	187 15.8%	39 3.3%
	上位所得層	1158 100.0%	841 72.6%	148 12.8%	15 1.3%	139 12.0%	15 1.3%
	不明	515 100.0%	238 46.2%	77 15.0%	53 10.3%	94 18.3%	53 10.3%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

経済的な理由で子どもを学習塾に通わせていないと回答した割合は、全体で11.7%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ高く（ひとり親世帯では29.1%、ふたり親世帯では8.6%）（表80）、所得階層が低いほど割合が高い傾向にある（低所得層Ⅰでは32.4%、上位所得層では1.3%）（表81）。

表 82 学年と子ども・子育てについての悩みを相談する相手のクロス

		合計	子ども・子育てについての悩みを相談する相手（※複数回答）											
			同居の家族	同居していない家族・親せき	職場の人	近所の人	それ以外の友人・知人	学校の先生	地域の相談員・相談機関	医師等の専門家	SNSのみで交流がある人	その他	相談する人はいない	不明
全体		7282	5403	4637	2258	481	3809	1771	219	410	144	107	184	67
		—	74.2%	63.7%	31.0%	6.6%	52.3%	24.3%	3.0%	5.6%	2.0%	1.5%	2.5%	0.9%
学 年	2 歳児	1398	1041	976	374	91	722	517	60	77	61	16	38	9
		—	74.5%	69.8%	26.8%	6.5%	51.6%	37.0%	4.3%	5.5%	4.4%	1.1%	2.7%	0.6%
	5 歳児	1131	828	773	318	100	638	427	35	55	29	13	20	11
		—	73.2%	68.3%	28.1%	8.8%	56.4%	37.8%	3.1%	4.9%	2.6%	1.1%	1.8%	1.0%
	小学 2 年生	1249	996	845	411	97	675	286	49	108	18	27	18	6
		—	79.7%	67.7%	32.9%	7.8%	54.0%	22.9%	3.9%	8.6%	1.4%	2.2%	1.4%	0.5%
	小学 5 年生	1263	943	797	407	64	658	232	36	74	15	25	35	12
		—	74.7%	63.1%	32.2%	5.1%	52.1%	18.4%	2.9%	5.9%	1.2%	2.0%	2.8%	1.0%
	中学 2 年生	1133	794	672	385	56	587	194	26	60	15	18	33	16
		—	70.1%	59.3%	34.0%	4.9%	51.8%	17.1%	2.3%	5.3%	1.3%	1.6%	2.9%	1.4%
	高校 2 年生	1108	801	574	363	73	529	115	13	36	6	8	40	13
		—	72.3%	51.8%	32.8%	6.6%	47.7%	10.4%	1.2%	3.2%	0.5%	0.7%	3.6%	1.2%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 83 世帯類型と子ども・子育てについての悩みを相談する相手のクロス

		合計	子ども・子育てについての悩みを相談する相手（※複数回答）											
			同居の家族	同居していない家族・親せき	職場の人	近所の人	それ以外の友人・知人	学校の先生	地域の相談員・相談機関	医師等の専門家	SNSのみで交流がある人	その他	相談する人はいない	不明
全体		7282	5403	4637	2258	481	3809	1771	219	410	144	107	184	67
		—	74.2%	63.7%	31.0%	6.6%	52.3%	24.3%	3.0%	5.6%	2.0%	1.5%	2.5%	0.9%
世 帯 類 型	ひとり親世帯	805	210	441	296	28	424	141	27	56	18	15	61	12
		—	26.1%	54.8%	36.8%	3.5%	52.7%	17.5%	3.4%	7.0%	2.2%	1.9%	7.6%	1.5%
	ふたり親世帯	6371	5128	4148	1939	445	3342	1616	189	348	125	88	118	43
		—	80.5%	65.1%	30.4%	7.0%	52.5%	25.4%	3.0%	5.5%	2.0%	1.4%	1.9%	0.7%
	その他世帯	41	32	18	12	3	21	7	2	3	1	2	1	1
		—	78.0%	43.9%	29.3%	7.3%	51.2%	17.1%	4.9%	7.3%	2.4%	4.9%	2.4%	2.4%
	不明	65	33	30	11	5	22	7	1	3	0	2	4	11
		—	50.8%	46.2%	16.9%	7.7%	33.8%	10.8%	1.5%	4.6%	0.0%	3.1%	6.2%	16.9%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 84 所得階層と子ども・子育てについての悩みを相談する相手のクロス

		合計	子ども・子育てについての悩みを相談する相手（※複数回答）										
			同居の家族	同居していない家族・親せき	職場の人	近所の人	それ以外の友人・知人	学校の先生	地域の相談員・相談機関	医師等の専門家	SNSのみで交流がある人	その他	相談する人はいない
全体		7282	5403	4637	2258	481	3809	1771	219	410	144	107	184
		—	74.2%	63.7%	31.0%	6.6%	52.3%	24.3%	3.0%	5.6%	2.0%	1.5%	2.5%
所得階層	低所得層Ⅰ	842	416	469	248	46	434	169	34	50	27	17	42
		—	49.4%	55.7%	29.5%	5.5%	51.5%	20.1%	4.0%	5.9%	3.2%	2.0%	5.0%
	低所得層Ⅱ	1040	745	688	291	62	574	259	39	54	36	9	37
		—	71.6%	66.2%	28.0%	6.0%	55.2%	24.9%	3.8%	5.2%	3.5%	0.9%	3.6%
	中間所得層Ⅰ	1122	856	756	355	80	604	290	41	68	19	17	23
		—	76.3%	67.4%	31.6%	7.1%	53.8%	25.8%	3.7%	6.1%	1.7%	1.5%	2.0%
	中間所得層Ⅱ	1905	1519	1251	632	124	1025	499	55	106	35	24	38
		—	79.7%	65.7%	33.2%	6.5%	53.8%	26.2%	2.9%	5.6%	1.8%	1.3%	2.0%
	上位所得層	1672	1366	1049	571	118	849	429	42	101	15	30	22
		—	81.7%	62.7%	34.2%	7.1%	50.8%	25.7%	2.5%	6.0%	0.9%	1.8%	1.3%
不明		701	501	424	161	51	323	125	8	31	12	10	22
		—	71.5%	60.5%	23.0%	7.3%	46.1%	17.8%	1.1%	4.4%	1.7%	1.4%	3.1%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

回答者のほとんどが何らかの相談相手を持っている。「相談する人はいない」と回答したものは2.5%である。

相談相手は「同居の家族（74.2%）」「同居していない家族・親戚（63.7%）」が高い比率を示し、家族、親族が相談相手として選ばれることが一般的である。

家族、親族以外では、「友人・知人（職場、近所以外）」が52.3%と多い。「近所の人（6.6%）」は少数にとどまる。

上記は年齢・学年段階別に大きな違いはない（表82）。

「学校（保育園・幼稚園）の先生（24.3%）」は年齢・学年段階が低いほど比率が高い（2歳児保護者では37.0%、高2保護者では10.4%）。「地域の相談員・相談機関（3.0%）」は少数であるが、2歳児・5歳児保護者にやや高い（2歳児保護者では4.3%、5歳児保護者では3.1%）。「SNSのみで交流がある人（2.0%）」は少数であるが、2歳児保護者に多い（4.4%）（表82）。

世帯類型別にみると、ひとり親世帯は「同居の家族」が26.1%と少なく、「相談する人はいない」が7.6%と相対的に高いことが特徴である。ふたり親世帯は「同居の家族」が80.5%と高い（表83）。

所得階層別にみると、「相談する人はいない」が、上位所得層では1.3%であるのに対し低所得層Ⅰでは5.0%と、低所得層に相対的に高い（表84）。

「医師等の専門家（5.6%）」は全体から見ると少数であるが、年齢、世帯類型、所得階層ごとの比率の差は小さい。

表 85 学年と子どもの面倒をみられなくなったときに代わって子どもの面倒をみてくれる人のクロス

		合計	子どもの面倒をみられなくなったときに代わって子どもの面倒をみてくれる人							
			子どもの 祖父母	子どものおじや おば	その他の親 せき	職場の人	近所の 人	その他の友人・ 知人	面倒を みてく れる人 はい ない	不明
全体		7282 100.0%	4746 65.2%	297 4.1%	77 1.1%	5 0.1%	10 0.1%	51 0.7%	983 13.5%	1113 15.3%
学年	2 歳児	1398 100.0%	1012 72.4%	34 2.4%	10 0.7%	1 0.1%	1 0.1%	1 0.1%	199 14.2%	140 10.0%
	5 歳児	1131 100.0%	803 71.0%	24 2.1%	13 1.1%	1 0.1%	0 0.0%	5 0.4%	137 12.1%	148 13.1%
	小学 2 年生	1249 100.0%	837 67.0%	37 3.0%	10 0.8%	2 0.2%	1 0.1%	6 0.5%	144 11.5%	212 17.0%
	小学 5 年生	1263 100.0%	827 65.5%	50 4.0%	14 1.1%	1 0.1%	3 0.2%	11 0.9%	159 12.6%	198 15.7%
	中学 2 年生	1133 100.0%	659 58.2%	75 6.6%	9 0.8%	0 0.0%	1 0.1%	11 1.0%	153 13.5%	225 19.9%
	高校 2 年生	1108 100.0%	608 54.9%	77 6.9%	21 1.9%	0 0.0%	4 0.4%	17 1.5%	191 17.2%	190 17.1%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 86 世帯類型と子どもの面倒をみられなくなったときに代わって子どもの面倒をみてくれる人のクロス

		合計	子どもの面倒をみられなくなったときに代わって子どもの面倒をみてくれる人							
			子どもの 祖父母	子どものおじや おば	その他の 親せき	職場の 人	近所の 人	その他の友人・ 知人	はい ない 面倒を みてく れる 人	不 明
全体		7282 100. 0%	4746 65. 2%	297 4. 1%	77 1. 1%	5 0. 1%	10 0. 1%	51 0. 7%	983 13. 5%	1113 15. 3%
世帯 類型	ひとり親世帯	805 100. 0%	441 54. 8%	52 6. 5%	17 2. 1%	1 0. 1%	1 0. 1%	16 2. 0%	140 17. 4%	137 17. 0%
	ふたり親世帯	6371 100. 0%	4241 66. 6%	241 3. 8%	56 0. 9%	4 0. 1%	9 0. 1%	33 0. 5%	834 13. 1%	953 15. 0%
	その他世帯	41 100. 0%	27 65. 9%	2 4. 9%	1 2. 4%	0 0. 0%	0 0. 0%	1 2. 4%	3 7. 3%	7 17. 1%
	不明	65 100. 0%	37 56. 9%	2 3. 1%	3 4. 6%	0 0. 0%	0 0. 0%	1 1. 5%	6 9. 2%	16 24. 6%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 87 所得階層と子どもの面倒をみられなくなったときに代わって子どもの面倒をみてくれる人のクロス

		合計	子どもの面倒をみられなくなったときに代わって子どもの面倒をみてくれる人							
			子どもの 祖父母	子どものおじや おば	その他の 親せき	職場の 人	近所の 人	その他の友人・ 知人	面倒を みてく れる人 はい ない	不明
全体		7282 100.0%	4746 65.2%	297 4.1%	77 1.1%	5 0.1%	10 0.1%	51 0.7%	983 13.5%	1113 15.3%
所得 階層	低所得層Ⅰ	842 100.0%	490 58.2%	51 6.1%	8 1.0%	0 0.0%	1 0.1%	14 1.7%	151 17.9%	127 15.1%
	低所得層Ⅱ	1040 100.0%	703 67.6%	38 3.7%	16 1.5%	2 0.2%	0 0.0%	11 1.1%	134 12.9%	136 13.1%
	中間所得層Ⅰ	1122 100.0%	755 67.3%	47 4.2%	10 0.9%	1 0.1%	0 0.0%	2 0.2%	127 11.3%	180 16.0%
	中間所得層Ⅱ	1905 100.0%	1281 67.2%	67 3.5%	20 1.0%	1 0.1%	4 0.2%	7 0.4%	240 12.6%	285 15.0%
	上位所得層	1672 100.0%	1113 66.6%	68 4.1%	10 0.6%	0 0.0%	3 0.2%	10 0.6%	229 13.7%	239 14.3%
	不明	701 100.0%	404 57.6%	26 3.7%	13 1.9%	1 0.1%	2 0.3%	7 1.0%	102 14.6%	146 20.8%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

子どもの面倒を見られなくなったとき、代わりに面倒を見てくれる人について、世帯類型ごと、所得階層ごとにみても最も多いのは「子どもの祖父母」であり、50%～60%台である。一方、「面倒を見てくれる人はいない」と回答した割

合は、全体で 13.5%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べやや高く（ひとり親世帯では 17.4%、ふたり親世帯では 13.1%）（表 86）、所得階層ごとにみるとばらつきがあるが、低所得層Ⅰが 17.9%とやや高い（表 87）。

7 制度の利用について

表 88 学年と子育てに関する制度やサービスの利用状況（放課後児童クラブ）のクロス

		合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（放課後児童クラブ）								
			利用している	利用したことがある・利用していない	利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった
全体		3645 100.0%	1248 34.2%	1860 51.0%	69 1.9%	42 1.2%	58 1.6%	59 1.6%	66 1.8%	102 2.8%	141 3.9%
学 年	小学 2 年生	1249 100.0%	465 37.2%	602 48.2%	23 1.8%	14 1.1%	23 1.8%	24 1.9%	22 1.8%	30 2.4%	46 3.7%
	小学 5 年生	1263 100.0%	412 32.6%	663 52.5%	24 1.9%	20 1.6%	23 1.8%	22 1.7%	26 2.1%	31 2.5%	42 3.3%
	中学 2 年生	1133 100.0%	371 32.7%	595 52.5%	22 1.9%	8 0.7%	12 1.1%	13 1.1%	18 1.6%	41 3.6%	53 4.7%

※小2、小5、中2の保護者が回答

表 89 世帯類型と子育てに関する制度やサービスの利用状況（放課後児童クラブ）のクロス

		合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（放課後児童クラブ）								
			利用している	利用したことがある・利用していない	利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった
全体		3645 100.0%	1248 34.2%	1860 51.0%	69 1.9%	42 1.2%	58 1.6%	59 1.6%	66 1.8%	102 2.8%	141 3.9%
世帯類型	ひとり親世帯	470 100.0%	194 41.3%	186 39.6%	5 1.1%	7 1.5%	15 3.2%	7 1.5%	15 3.2%	16 3.4%	25 5.3%
	ふたり親世帯	3116 100.0%	1034 33.2%	1653 53.0%	63 2.0%	32 1.0%	43 1.4%	51 1.6%	51 1.6%	85 2.7%	104 3.3%
	その他世帯	15 100.0%	6 40.0%	7 46.7%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%
	不明	44 100.0%	14 31.8%	14 31.8%	1 2.3%	2 4.5%	0 0.0%	1 2.3%	0 0.0%	1 2.3%	11 25.0%

※小2、小5、中2の保護者が回答

表 90 所得階層と子育てに関する制度やサービスの利用状況（放課後児童クラブ）のクロス

		合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（放課後児童クラブ）								
			利用している	利用したことがある・利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明
全体		3645 100.0%	1248 34.2%	1860 51.0%	69 1.9%	42 1.2%	58 1.6%	59 1.6%	66 1.8%	102 2.8%	141 3.9%
所得階層	低所得層Ⅰ	438 100.0%	164 37.4%	195 44.5%	8 1.8%	8 1.8%	12 2.7%	3 0.7%	12 2.7%	14 3.2%	22 5.0%
	低所得層Ⅱ	496 100.0%	161 32.5%	254 51.2%	14 2.8%	5 1.0%	13 2.6%	12 2.4%	15 3.0%	10 2.0%	12 2.4%
	中間所得層Ⅰ	556 100.0%	180 32.4%	297 53.4%	10 1.8%	7 1.3%	16 2.9%	10 1.8%	12 2.2%	11 2.0%	13 2.3%
	中間所得層Ⅱ	898 100.0%	292 32.5%	495 55.1%	19 2.1%	10 1.1%	7 0.8%	15 1.7%	14 1.6%	26 2.9%	20 2.2%
	上位所得層	885 100.0%	355 40.1%	441 49.8%	13 1.5%	8 0.9%	6 0.7%	14 1.6%	11 1.2%	28 3.2%	9 1.0%
	不明	372 100.0%	96 25.8%	178 47.8%	5 1.3%	4 1.1%	4 1.1%	5 1.3%	2 0.5%	13 3.5%	65 17.5%

※小2、小5、中2の保護者が回答

「利用する必要がなかった」が全体で51.0%で、全体の中で最も高い。所得階層ではばらつきがあるが、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べて低い（ひとり親世帯では39.6%、ふたり親世帯では53.0%）。「利用したことがある・利用している」は全体で34.2%で、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ高い（ひとり親世帯では41.3%、ふたり親世帯では33.2%）（表89）。

「必要がなかった」以外の利用していない理由のうち、「制度やサービスについて知らなかった」と回答した割合は全体で1.8%であるが、ひとり親世帯はふたり親世帯に対してやや高く（ひとり親世帯では3.2%、ふたり親世帯では1.6%）（表89）、所得階層でみると所得が低い方がやや高い傾向にある（低所得層Ⅰでは2.7%、低所得層Ⅱでは3.0%）（表90）。

表 91 学年と子育てに関する制度やサービスの利用状況（児童会館・ミニ児童会館）のクロス

		合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（児童会館・ミニ児童会館）								
			利用している	利用することがある・利用している	利用する必要があるがなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった
全体		3645 100.0%	1959 53.7%	1326 36.4%	34 0.9%	43 1.2%	69 1.9%	38 1.0%	22 0.6%	27 0.7%	127 3.5%
学 年	小学 2 年生	1249 100.0%	673 53.9%	449 35.9%	14 1.1%	15 1.2%	29 2.3%	16 1.3%	5 0.4%	9 0.7%	39 3.1%
		1263 100.0%	719 56.9%	428 33.9%	12 1.0%	16 1.3%	26 2.1%	13 1.0%	6 0.5%	7 0.6%	36 2.9%
	小学 5 年生	1133 100.0%	567 50.0%	449 39.6%	8 0.7%	12 1.1%	14 1.2%	9 0.8%	11 1.0%	11 1.0%	52 4.6%
		1249 100.0%	673 53.9%	449 35.9%	14 1.1%	15 1.2%	29 2.3%	16 1.3%	5 0.4%	9 0.7%	39 3.1%
	中学 2 年生	1263 100.0%	719 56.9%	428 33.9%	12 1.0%	16 1.3%	26 2.1%	13 1.0%	6 0.5%	7 0.6%	36 2.9%
		1133 100.0%	567 50.0%	449 39.6%	8 0.7%	12 1.1%	14 1.2%	9 0.8%	11 1.0%	11 1.0%	52 4.6%

※小2、小5、中2の保護者が回答

表 92 世帯類型と子育てに関する制度やサービスの利用状況（児童会館・ミニ児童会館）のクロス

		合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（児童会館・ミニ児童会館）								
			利用している	利用することがある・利用	利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	た制度やサービスがなかった
全体		3645	1959	1326	34	43	69	38	22	27	127
		100.0%	53.7%	36.4%	0.9%	1.2%	1.9%	1.0%	0.6%	0.7%	3.5%
世帯類型	ひとり親世帯	470	264	151	4	2	14	6	5	4	20
		100.0%	56.2%	32.1%	0.9%	0.4%	3.0%	1.3%	1.1%	0.9%	4.3%
	ふたり親世帯	3116	1669	1160	30	38	54	32	16	22	95
		100.0%	53.6%	37.2%	1.0%	1.2%	1.7%	1.0%	0.5%	0.7%	3.0%
	その他世帯	15	7	6	0	0	0	0	1	0	1
		100.0%	46.7%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	6.7%
	不明	44	19	9	0	3	1	0	0	1	11
		100.0%	43.2%	20.5%	0.0%	6.8%	2.3%	0.0%	0.0%	2.3%	25.0%

※小2、小5、中2の保護者が回答

表 93 所得階層と子育てに関する制度やサービスの利用状況（児童会館・ミニ児童会館）のクロス

		合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（児童会館・ミニ児童会館）								
			利用している	利用したことがある・利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明
全体		3645 100.0%	1959 53.7%	1326 36.4%	34 0.9%	43 1.2%	69 1.9%	38 1.0%	22 0.6%	27 0.7%	127 3.5%
所得階層	低所得層Ⅰ	438 100.0%	245 55.9%	146 33.3%	1 0.2%	6 1.4%	11 2.5%	3 0.7%	5 1.1%	3 0.7%	18 4.1%
	低所得層Ⅱ	496 100.0%	255 51.4%	183 36.9%	7 1.4%	9 1.8%	16 3.2%	6 1.2%	5 1.0%	4 0.8%	11 2.2%
	中間所得層Ⅰ	556 100.0%	302 54.3%	204 36.7%	4 0.7%	7 1.3%	13 2.3%	7 1.3%	3 0.5%	2 0.4%	14 2.5%
	中間所得層Ⅱ	898 100.0%	486 54.1%	337 37.5%	12 1.3%	9 1.0%	12 1.3%	9 1.0%	6 0.7%	6 0.7%	21 2.3%
	上位所得層	885 100.0%	476 53.8%	356 40.2%	5 0.6%	9 1.0%	11 1.2%	10 1.1%	3 0.3%	8 0.9%	7 0.8%
	不明	372 100.0%	195 52.4%	100 26.9%	5 1.3%	3 0.8%	6 1.6%	3 0.8%	0 0.0%	4 1.1%	56 15.1%

※小2、小5、中2の保護者が回答

「利用したことがある・利用している」が全体で53.7%で、選択肢の中で最も高い。世帯類型、所得階層ともに、利用状況に大きな差はない（表92、表93）。

表 94 学年と子育てに関する制度やサービスの利用状況（子ども食堂）のクロス

		合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（子ども食堂）								
			利用している	利用したことがある・利用していない	利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった
全体		6174 100.0%	183 3.0%	4749 76.9%	16 0.3%	48 0.8%	125 2.0%	292 4.7%	370 6.0%	199 3.2%	192 3.1%
学年	2 歳児	1398 100.0%	19 1.4%	1039 74.3%	6 0.4%	9 0.6%	32 2.3%	102 7.3%	132 9.4%	40 2.9%	19 1.4%
	5 歳児	1131 100.0%	37 3.3%	880 77.8%	5 0.4%	6 0.5%	29 2.6%	52 4.6%	68 6.0%	23 2.0%	31 2.7%
	小学 2 年生	1249 100.0%	38 3.0%	958 76.7%	3 0.2%	9 0.7%	20 1.6%	45 3.6%	78 6.2%	54 4.3%	44 3.5%
	小学 5 年生	1263 100.0%	43 3.4%	993 78.6%	2 0.2%	14 1.1%	25 2.0%	55 4.4%	56 4.4%	32 2.5%	43 3.4%
	中学 2 年生	1133 100.0%	46 4.1%	879 77.6%	0 0.0%	10 0.9%	19 1.7%	38 3.4%	36 3.2%	50 4.4%	55 4.9%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2 の保護者が回答

表 95 世帯類型と子育てに関する制度やサービスの利用状況（子ども食堂）のクロス

		合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（子ども食堂）								
			利用している	利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があつた	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明
全体		6174 100.0%	183 3.0%	4749 76.9%	16 0.3%	48 0.8%	125 2.0%	292 4.7%	370 6.0%	199 3.2%	192 3.1%
世帯 類型	ひとり親世帯	623 100.0%	20 3.2%	383 61.5%	2 0.3%	9 1.4%	31 5.0%	45 7.2%	60 9.6%	43 6.9%	30 4.8%
	ふたり親世帯	5467 100.0%	162 3.0%	4313 78.9%	14 0.3%	39 0.7%	92 1.7%	245 4.5%	306 5.6%	151 2.8%	145 2.7%
	その他世帯	28 100.0%	1 3.6%	20 71.4%	0 0.0%	0 0.0%	2 7.1%	1 3.6%	2 7.1%	0 0.0%	2 7.1%
	不明	56 100.0%	0 0.0%	33 58.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	2 3.6%	5 8.9%	15 26.8%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2 の保護者が回答

表 96 所得階層と子育てに関する制度やサービスの利用状況（子ども食堂）のクロス

		合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（子ども食堂）								
			利用している	利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明
全体		6174 100.0%	183 3.0%	4749 76.9%	16 0.3%	48 0.8%	125 2.0%	292 4.7%	370 6.0%	199 3.2%	192 3.1%
所得階層	低所得層Ⅰ	693 100.0%	29 4.2%	430 62.0%	1 0.1%	6 0.9%	35 5.1%	56 8.1%	69 10.0%	42 6.1%	25 3.6%
	低所得層Ⅱ	909 100.0%	29 3.2%	652 71.7%	8 0.9%	16 1.8%	27 3.0%	46 5.1%	76 8.4%	31 3.4%	24 2.6%
	中間所得層Ⅰ	999 100.0%	35 3.5%	773 77.4%	3 0.3%	7 0.7%	20 2.0%	57 5.7%	52 5.2%	34 3.4%	18 1.8%
	中間所得層Ⅱ	1616 100.0%	38 2.4%	1322 81.8%	1 0.1%	13 0.8%	18 1.1%	62 3.8%	90 5.6%	48 3.0%	24 1.5%
	上位所得層	1399 100.0%	39 2.8%	1192 85.2%	1 0.1%	6 0.4%	14 1.0%	44 3.1%	51 3.6%	32 2.3%	20 1.4%
	不明	558 100.0%	13 2.3%	380 68.1%	2 0.4%	0 0.0%	11 2.0%	27 4.8%	32 5.7%	12 2.2%	81 14.5%

※2歳、5歳、小2、小5、中2の保護者が回答

「利用したことがある・利用している」は3.0%で、選択肢の中では少数である。世帯類型別、所得階層別にみても利用状況に大きな差はない。

「利用する必要がなかった」は76.9%で、全体の3/4を占める。世帯類型別には、ひとり親世帯、所得階層別には低所得層が「利用する必要がなかった」と回答する比率が低い（ひとり親世帯では61.5%、ふたり親世帯では78.9%、低所得層Ⅰでは62.0%、上位所得層では85.2%）（表95、表96）。

「必要がなかった」以外の利用していない理由は、「制度やサービスについて知らなかった（6.0%）」「利用の仕方がわからなかった（4.7%）」「制度やサービスがなかった（3.2%）」といったサービス共有と情報提供の問題に関わることが多い。

「抵抗感があった（2.0%）」は全体では少数であるが、ひとり親世帯、低所得層Ⅰにやや高い（ひとり親世帯では5.0%、ふたり親世帯では1.7%、低所得層Ⅰでは5.1%、上位所得層では1.0%）（表95、表96）。

表 97 学年と子育てに関する制度やサービスの利用状況（無料の学習支援）のクロス

		合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（無料の学習支援）								
			利用している	利用する必要があるがなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があつた	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明
全体		3645 100.0%	74 2.0%	2421 66.4%	18 0.5%	36 1.0%	40 1.1%	181 5.0%	568 15.6%	161 4.4%	146 4.0%
学年	小学 2 年生	1249 100.0%	18 1.4%	809 64.8%	2 0.2%	8 0.6%	10 0.8%	60 4.8%	238 19.1%	60 4.8%	44 3.5%
		1263 100.0%	25 2.0%	853 67.5%	4 0.3%	16 1.3%	17 1.3%	74 5.9%	186 14.7%	42 3.3%	46 3.6%
	小学 5 年生	1133 100.0%	31 2.7%	759 67.0%	12 1.1%	12 1.1%	13 1.1%	47 4.1%	144 12.7%	59 5.2%	56 4.9%
		中学 2 年生	1133 100.0%	31 2.7%	759 67.0%	12 1.1%	12 1.1%	13 1.1%	47 4.1%	144 12.7%	59 5.2%

※小2、小5、中2の保護者が回答

表 98 世帯類型と子育てに関する制度やサービスの利用状況（無料の学習支援）のクロス

		合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（無料の学習支援）								
			利用している	利用する必要があるがなかった	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があつた	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明
全体		3645 100.0%	74 2.0%	2421 66.4%	18 0.5%	36 1.0%	40 1.1%	181 5.0%	568 15.6%	161 4.4%	146 4.0%
世帯類型	ひとり親世帯	470 100.0%	30 6.4%	224 47.7%	1 0.2%	16 3.4%	18 3.8%	41 8.7%	93 19.8%	24 5.1%	23 4.9%
	ふたり親世帯	3116 100.0%	43 1.4%	2170 69.6%	17 0.5%	20 0.6%	21 0.7%	137 4.4%	468 15.0%	131 4.2%	109 3.5%
	その他世帯	15 100.0%	0 0.0%	8 53.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	1 6.7%	3 20.0%	1 6.7%	1 6.7%
	不明	44 100.0%	1 2.3%	19 43.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.5%	4 9.1%	5 11.4%	13 29.5%

※小2、小5、中2の保護者が回答

表 99 所得階層と子育てに関する制度やサービスの利用状況（無料の学習支援）のクロス

		合計	子育てに関する制度やサービスの利用状況（無料の学習支援）								
			利用している	利用する必要がある・利用	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用時間が制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	制度やサービスがなかった	不明
全体		3645	74	2421	18	36	40	181	568	161	146
		100.0%	2.0%	66.4%	0.5%	1.0%	1.1%	5.0%	15.6%	4.4%	4.0%
所得階層	低所得層Ⅰ	438	22	216	1	13	19	38	91	19	19
		100.0%	5.0%	49.3%	0.2%	3.0%	4.3%	8.7%	20.8%	4.3%	4.3%
	低所得層Ⅱ	496	20	286	5	9	9	27	96	28	16
		100.0%	4.0%	57.7%	1.0%	1.8%	1.8%	5.4%	19.4%	5.6%	3.2%
	中間所得層Ⅰ	556	9	358	5	3	5	34	104	26	12
		100.0%	1.6%	64.4%	0.9%	0.5%	0.9%	6.1%	18.7%	4.7%	2.2%
	中間所得層Ⅱ	898	10	637	5	5	2	35	135	45	24
		100.0%	1.1%	70.9%	0.6%	0.6%	0.2%	3.9%	15.0%	5.0%	2.7%
	上位所得層	885	8	703	1	2	2	30	96	30	13
		100.0%	0.9%	79.4%	0.1%	0.2%	0.2%	3.4%	10.8%	3.4%	1.5%
	不明	372	5	221	1	4	3	17	46	13	62
		100.0%	1.3%	59.4%	0.3%	1.1%	0.8%	4.6%	12.4%	3.5%	16.7%

※小2、小5、中2の保護者が回答

「利用したことがある・利用している」は2.0%で、選択肢の中では少数である。世帯類型別、所得階層別にみると、ひとり親世帯（6.4%）、低所得層Ⅰ（5.0%）、低所得層Ⅱ（4.0%）が相対的に多い。

「利用する必要がある・利用していない」は66.4%で、全体の2/3を占める。「子ども食堂」と同様、世帯類型別にはひとり親世帯、所得階層別には低所得層が「利用する必要がある・利用していない」と回答する比率が低い（ひとり親世帯では47.7%、ふたり親世帯では69.6%、低所得層Ⅰでは49.3%、上位所得層では79.4%）。

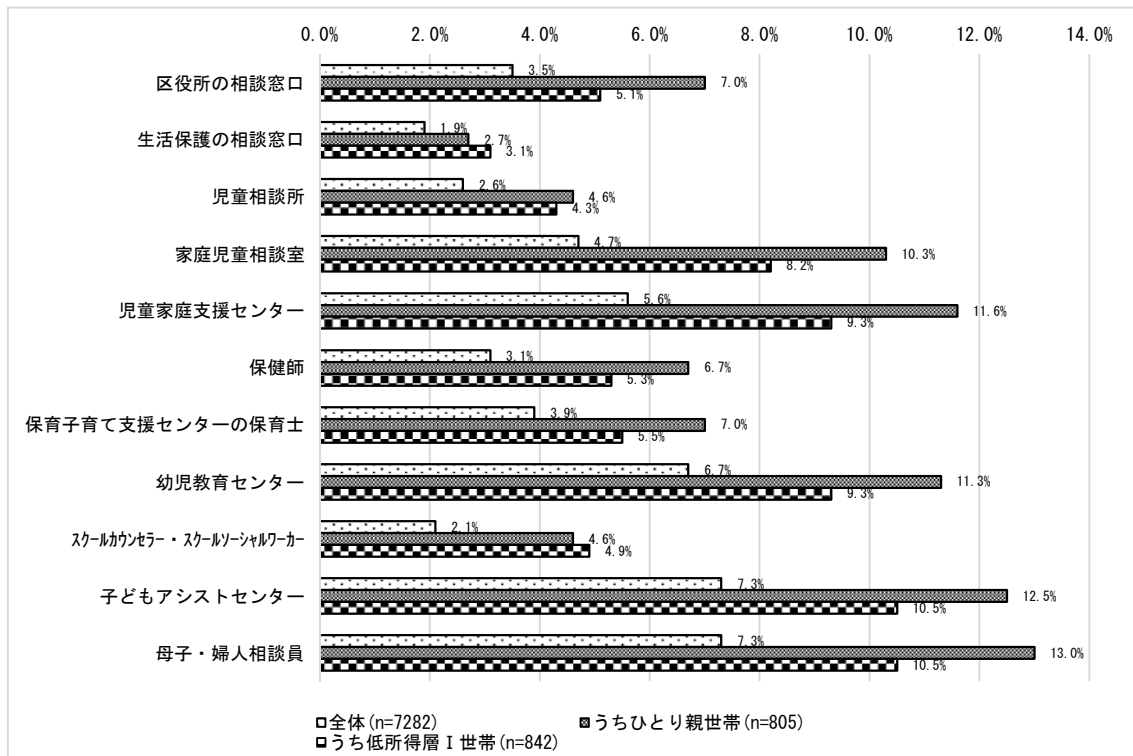
「必要がなかった」以外の利用していない理由は、「子ども食堂」と同様に「制度やサービスについて知らなかった（15.6%）」「利用の仕方がわからなかった（5.0%）」「制度やサービスがなかった（4.4%）」といったサービス共有と情報提供の問題に関わることが多い。「抵抗感があった（1.1%）」「使いづらかった

（1.0%）」は全体では少数であるが、ひとり親世帯、低所得層Ⅰにやや高い（「抵抗感があった」はひとり親世帯では3.8%、ふたり親世帯では0.7%、低所得層Ⅰでは4.3%、上位所得層では0.2%、「使いづらかった」はひとり親世帯では3.4%、ふたり親世帯では0.6%、低所得層Ⅰでは3.0%、上位所得層では0.2%）（表98、表99）。

表 100 子育てに関する機関や相談窓口を知らなかったと回答した人の割合

	全体 (n=7282)	うちひとり親世帯 (n=805)	うち低所得層Ⅰ世帯 (n=842)
区役所の相談窓口	3.5%	7.0%	5.1%
生活保護の相談窓口	1.9%	2.7%	3.1%
児童相談所	2.6%	4.6%	4.3%
家庭児童相談室	4.7%	10.3%	8.2%
児童家庭支援センター	5.6%	11.6%	9.3%
保健師	3.1%	6.7%	5.3%
保育子育て支援センターの保育士	3.9%	7.0%	5.5%
幼児教育センター	6.7%	11.3%	9.3%
スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー	2.1%	4.6%	4.9%
子どもアシストセンター	7.3%	12.5%	10.5%
母子・婦人相談員	7.3%	13.0%	10.5%

※2歳、5歳、小2、小5、中2の保護者が回答
(スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーは小2、小5、中2、高2)



※2歳、5歳、小2、小5、中2の保護者が回答
(スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーは小2、小5、中2、高2)

子育てに関する機関や相談窓口を知らなかったと回答した割合は、相談先のすべての項目で、ひとり親世帯、低所得層Ⅰ世帯が世帯全体を上回っている（表 100）。

表 101 学年と手当等の制度利用（児童扶養手当）のクロス

		合計	手当等の制度利用（児童扶養手当）							
			利用している 利用したことがある・利 用している	利用する必要がなかつた	利用しなかったが条件を 満たしていなかった	利用しなかった制度が使 いづらかった	利用するのに抵抗感があ った	利用のしかたがわからな かった	制度やサービスについて まったく知らなかった	不明
全体		7282 100.0%	1727 23.7%	4811 66.1%	203 2.8%	11 0.2%	9 0.1%	79 1.1%	140 1.9%	302 4.1%
学年	2 歳児	1398 100.0%	274 19.6%	950 68.0%	36 2.6%	3 0.2%	1 0.1%	31 2.2%	63 4.5%	40 2.9%
	5 歳児	1131 100.0%	202 17.9%	839 74.2%	22 1.9%	1 0.1%	1 0.1%	13 1.1%	16 1.4%	37 3.3%
	小学 2 年生	1249 100.0%	273 21.9%	868 69.5%	31 2.5%	1 0.1%	1 0.1%	13 1.0%	21 1.7%	41 3.3%
	小学 5 年生	1263 100.0%	311 24.6%	847 67.1%	35 2.8%	2 0.2%	3 0.2%	7 0.6%	14 1.1%	44 3.5%
	中学 2 年生	1133 100.0%	317 28.0%	702 62.0%	37 3.3%	0 0.0%	1 0.1%	7 0.6%	12 1.1%	57 5.0%
	高校 2 年生	1108 100.0%	350 31.6%	605 54.6%	42 3.8%	4 0.4%	2 0.2%	8 0.7%	14 1.3%	83 7.5%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 102 世帯類型と手当等の制度利用（児童扶養手当）のクロス

		合計	手当等の制度利用（児童扶養手当）							
			利用している 利用したことがある・利 用している	利用する必要がなかつた	利用しなかったが条件を 満たしていなかった	利用しなかった制度が使 いづらかった	利用するのに抵抗感があ った	利用のしかたがわからな かった	制度やサービスについて まったく知らなかった	不明
全体		7282 100.0%	1727 23.7%	4811 66.1%	203 2.8%	11 0.2%	9 0.1%	79 1.1%	140 1.9%	302 4.1%
世帯 類型	ひとり親世帯	805 100.0%	610 75.8%	81 10.1%	66 8.2%	2 0.2%	2 0.2%	5 0.6%	6 0.7%	33 4.1%
	ふたり親世帯	6371 100.0%	1089 17.1%	4683 73.5%	130 2.0%	9 0.1%	7 0.1%	71 1.1%	132 2.1%	250 3.9%
	その他世帯	41 100.0%	13 31.7%	17 41.5%	4 9.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.9%	1 2.4%	4 9.8%
	不明	65 100.0%	15 23.1%	30 46.2%	3 4.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.5%	1 1.5%	15 23.1%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 103 所得階層と手当等の制度利用（児童扶養手当）のクロス

		合計	手当等の制度利用（児童扶養手当）							
			利用している 利用したことがある・利用して	利用する必要がなかった	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用しなかった制度が使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった	不明
全体		7282 100.0%	1727 23.7%	4811 66.1%	203 2.8%	11 0.2%	9 0.1%	79 1.1%	140 1.9%	302 4.1%
所得階層	低所得層Ⅰ	842 100.0%	461 54.8%	279 33.1%	34 4.0%	3 0.4%	3 0.4%	15 1.8%	7 0.8%	40 4.8%
	低所得層Ⅱ	1040 100.0%	291 28.0%	620 59.6%	40 3.8%	5 0.5%	1 0.1%	22 2.1%	30 2.9%	31 3.0%
	中間所得層Ⅰ	1122 100.0%	234 20.9%	756 67.4%	43 3.8%	0 0.0%	2 0.2%	9 0.8%	37 3.3%	41 3.7%
	中間所得層Ⅱ	1905 100.0%	330 17.3%	1427 74.9%	45 2.4%	2 0.1%	1 0.1%	21 1.1%	34 1.8%	45 2.4%
	上位所得層	1672 100.0%	267 16.0%	1331 79.6%	24 1.4%	1 0.1%	1 0.1%	6 0.4%	20 1.2%	22 1.3%
	不明	701 100.0%	144 20.5%	398 56.8%	17 2.4%	0 0.0%	1 0.1%	6 0.9%	12 1.7%	123 17.5%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

「利用する必要がなかった」が全体で66.1%と選択肢の中で最も高い。「利用したことがある・利用している」は全体で23.7%であり、制度の性質上、ひとり親世帯が75.8%、低所得層Ⅰが54.8%と高くなっている（表102、表103）。

表 104 学年と手当等の制度利用（生活保護）のクロス

		合計	手当等の制度利用（生活保護）							
			利用している 利用したことがある・利	利用する 必要がなかった	利用したかったが条件を 満たしていなかった	利用したかったが制度が 使いづらかった	利用するのに抵抗感があ った	利用のしかたがわからな かった	制度やサービスについて まったく知らなかった	不明
全体		7282 100.0%	232 3.2%	6514 89.5%	103 1.4%	16 0.2%	74 1.0%	43 0.6%	48 0.7%	252 3.5%
学年	2 歳児	1398 100.0%	20 1.4%	1270 90.8%	20 1.4%	3 0.2%	20 1.4%	17 1.2%	17 1.2%	31 2.2%
	5 歳児	1131 100.0%	21 1.9%	1042 92.1%	12 1.1%	1 0.1%	11 1.0%	5 0.4%	7 0.6%	32 2.8%
	小学 2 年生	1249 100.0%	45 3.6%	1134 90.8%	14 1.1%	0 0.0%	13 1.0%	8 0.6%	3 0.2%	32 2.6%
	小学 5 年生	1263 100.0%	64 5.1%	1125 89.1%	18 1.4%	3 0.2%	10 0.8%	3 0.2%	6 0.5%	34 2.7%
	中学 2 年生	1133 100.0%	47 4.1%	1004 88.6%	18 1.6%	1 0.1%	7 0.6%	4 0.4%	5 0.4%	47 4.1%
	高校 2 年生	1108 100.0%	35 3.2%	939 84.7%	21 1.9%	8 0.7%	13 1.2%	6 0.5%	10 0.9%	76 6.9%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 105 世帯類型と手当等の制度利用（生活保護）のクロス

		合計	手当等の制度利用（生活保護）							
			利用している 利用したことがある・利 用している	利用する 必要がなかつた	利用したかつたが条件を 満たしていなかつた	利用したかつたが制度が 使いづらかつた	利用するの に抵抗感があ つた	利用のしかたがわからな かつた	制度やサービスについて まったく知らなかつた	不明
全体		7282 100.0%	232 3.2%	6514 89.5%	103 1.4%	16 0.2%	74 1.0%	43 0.6%	48 0.7%	252 3.5%
世帯類型	ひとり親世帯	805 100.0%	159 19.8%	513 63.7%	35 4.3%	7 0.9%	32 4.0%	9 1.1%	5 0.6%	45 5.6%
	ふたり親世帯	6371 100.0%	69 1.1%	5922 93.0%	65 1.0%	8 0.1%	40 0.6%	34 0.5%	42 0.7%	191 3.0%
	その他世帯	41 100.0%	3 7.3%	33 80.5%	1 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 9.8%
	不明	65 100.0%	1 1.5%	46 70.8%	2 3.1%	1 1.5%	2 3.1%	0 0.0%	1 1.5%	12 18.5%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 106 所得階層と手当等の制度利用（生活保護）のクロス

		合計	手当等の制度利用（生活保護）							
			利用している	利用したことがある・利用していない	利用する必要がなかった	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用しなかったが制度が使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかたがわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった
全体		7282 100.0%	232 3.2%	6514 89.5%	103 1.4%	16 0.2%	74 1.0%	43 0.6%	48 0.7%	252 3.5%
所得階層	低所得層Ⅰ	842 100.0%	122 14.5%	558 66.3%	43 5.1%	10 1.2%	45 5.3%	13 1.5%	8 1.0%	43 5.1%
	低所得層Ⅱ	1040 100.0%	58 5.6%	900 86.5%	25 2.4%	1 0.1%	9 0.9%	13 1.3%	7 0.7%	27 2.6%
	中間所得層Ⅰ	1122 100.0%	9 0.8%	1051 93.7%	12 1.1%	1 0.1%	7 0.6%	4 0.4%	11 1.0%	27 2.4%
	中間所得層Ⅱ	1905 100.0%	7 0.4%	1827 95.9%	11 0.6%	3 0.2%	5 0.3%	9 0.5%	10 0.5%	33 1.7%
	上位所得層	1672 100.0%	6 0.4%	1639 98.0%	5 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.1%	8 0.5%	13 0.8%
	不明	701 100.0%	30 4.3%	539 76.9%	7 1.0%	1 0.1%	8 1.1%	3 0.4%	4 0.6%	109 15.5%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

「利用したことがある・利用している」は3.2%で、選択肢の中では少数である。生活保護基準以下の所得層を対象とした制度であることから、ひとり親世帯（19.8%）、低所得層Ⅰ（14.5%）、低所得層Ⅱ（5.6%）に利用層が集中している。

「利用する必要がなかつた」は89.5%で、約9割を占める。不明の3.5%を除くと、全体の3.9%が「利用する必要があつたが利用していない」ことになる。

ひとり親世帯では「利用する必要はなかつた」は63.7%で、不明の5.6%を除くと、全体の10.9%が「利用する必要があつたが利用していない」ことになる。この理由は「条件を満たしていなかった（4.3%）」「抵抗感があつた（4.0%）」が多い。

低所得層Ⅰでは、「利用する必要はなかつた」は66.3%で、不明の5.1%を除くと、全体の14.1%が「利用する必要があつたが利用していない」ことになる。この理由はひとり親世帯と同様に「条件を満たしていなかった（5.1%）」「抵抗感があつた（5.3%）」が多い（表105、表106）。

表 107 学年と手当等の制度利用（就学援助）のクロス

		合計	手当等の制度利用（就学援助）							
			利用している 利用したことがある・利 用している	利用する必要がなかつた	利用しなかったが条件を 満たしていなかった	利用しなかったが制度が 使いづらかった	利用するのに抵抗感があ った	利用のしかたがわからな かった	制度やサービスについて まったく知らなかった	不明
全体		4753 100.0%	819 17.2%	3401 71.6%	198 4.2%	10 0.2%	18 0.4%	48 1.0%	72 1.5%	187 3.9%
学年	小学 2 年生	1249 100.0%	157 12.6%	972 77.8%	50 4.0%	3 0.2%	3 0.2%	13 1.0%	16 1.3%	35 2.8%
		小学 5 年生	1263 100.0%	213 16.9%	938 74.3%	38 3.0%	1 0.1%	5 0.4%	12 1.0%	24 1.9%
	中学 2 年生	1133 100.0%	215 19.0%	789 69.6%	56 4.9%	0 0.0%	3 0.3%	10 0.9%	13 1.1%	47 4.1%
		高校 2 年生	1108 100.0%	234 21.1%	702 63.4%	54 4.9%	6 0.5%	7 0.6%	13 1.2%	19 1.7%

※小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 108 世帯類型と手当等の制度利用（就学援助）のクロス

		合計	手当等の制度利用（就学援助）							
			利用している 利用したことがある・利 用している	利用する 必要がなかつた	利用し なかつたが条件を 満たしていなかつた	利用し なかつたが制度が 使いづらかつた	利用するの に抵抗感があ つた	利用のしかたがわから なかつた	制度やサー ビスについ てまったく 知らなかつた	不明
全体		4753 100.0%	819 17.2%	3401 71.6%	198 4.2%	10 0.2%	18 0.4%	48 1.0%	72 1.5%	187 3.9%
世帯類型	ひとり親世帯	652 100.0%	381 58.4%	161 24.7%	31 4.8%	1 0.2%	3 0.5%	15 2.3%	20 3.1%	40 6.1%
	ふたり親世帯	4020 100.0%	425 10.6%	3197 79.5%	166 4.1%	9 0.2%	14 0.3%	29 0.7%	47 1.2%	133 3.3%
	その他世帯	28 100.0%	9 32.1%	12 42.9%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.6%	1 3.6%	4 14.3%
	不明	53 100.0%	4 7.5%	31 58.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.9%	3 5.7%	4 7.5%	10 18.9%

※小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 109 所得階層と手当等の制度利用（就学援助）のクロス

		合計	手当等の制度利用（就学援助）							不明
			利用している	利用したことがある・利用している	利用する必要がなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが制度が使いづらかった	利用するのに抵抗があった	利用のしかたがわからなかった	
全体		4753 100.0%	819 17.2%	3401 71.6%	198 4.2%	10 0.2%	18 0.4%	48 1.0%	72 1.5%	187 3.9%
所得階層	低所得層Ⅰ	587 100.0%	341 58.1%	163 27.8%	18 3.1%	4 0.7%	3 0.5%	12 2.0%	16 2.7%	30 5.1%
	低所得層Ⅱ	627 100.0%	214 34.1%	313 49.9%	49 7.8%	2 0.3%	7 1.1%	14 2.2%	8 1.3%	20 3.2%
	中間所得層Ⅰ	679 100.0%	106 15.6%	482 71.0%	51 7.5%	2 0.3%	3 0.4%	8 1.2%	12 1.8%	15 2.2%
	中間所得層Ⅱ	1187 100.0%	76 6.4%	1007 84.8%	49 4.1%	1 0.1%	2 0.2%	3 0.3%	25 2.1%	24 2.0%
	上位所得層	1158 100.0%	18 1.6%	1106 95.5%	15 1.3%	1 0.1%	0 0.0%	3 0.3%	5 0.4%	10 0.9%
	不明	515 100.0%	64 12.4%	330 64.1%	16 3.1%	0 0.0%	3 0.6%	8 1.6%	6 1.2%	88 17.1%

※小2、小5、中2、高2の保護者が回答

「利用したことがある・利用している」は17.2%である。ひとり親世帯（58.4%）、低所得層Ⅰ（58.1%）、低所得層Ⅱ（34.1%）では特に利用者が多い。

「利用する必要がなかった」は71.6%で、全体の約7割を占める。不明の3.9%を除くと、全体の7.3%が「利用する必要があったが利用していない」ことになる。

ひとり親世帯では「利用する必要はなかった」は24.7%で、不明の6.1%を除くと、全体の10.7%が「利用する必要があったが利用していない」ことになる。この理由は「条件を満たしていなかった（4.8%）」「利用の仕方がわからなかった（2.3%）」「制度やサービスについて知らなかった（3.1%）」が多い。

低所得層Ⅰでは、「利用する必要はなかった」は27.8%で、不明の5.1%を除くと、全体の9.0%が「利用する必要があったが利用していない」ことになる。この理由はひとり親世帯と同様に「条件を満たしていなかった（3.1%）」「利用の仕方がわからなかった（2.0%）」「制度やサービスについて知らなかった（2.7%）」が多い（表108、表109）。

8 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響について

表 110 学年と生活や心身への影響があったか（A 母親の仕事への影響）のクロス

		合計	生活や心身への影響があったか A 母親の仕事への影響（※複数回答）						
			失業した・仕事をやめた	休業した 一時的に仕事を休んだ・	仕事時間が減った	仕事時間が増えた	給料の不払いがあった	あてはまるものはない	不明
全体		7119	249	1105	724	405	16	4686	229
		—	3.5%	15.5%	10.2%	5.7%	0.2%	65.8%	3.2%
学年	2 歳児	1388	52	196	96	57	2	1010	32
		—	3.7%	14.1%	6.9%	4.1%	0.1%	72.8%	2.3%
	5 歳児	1114	38	223	124	59	2	698	31
		—	3.4%	20.0%	11.1%	5.3%	0.2%	62.7%	2.8%
	小学 2 年生	1233	40	217	123	67	2	791	48
		—	3.2%	17.6%	10.0%	5.4%	0.2%	64.2%	3.9%
	小学 5 年生	1224	46	203	110	83	7	774	35
		—	3.8%	16.6%	9.0%	6.8%	0.6%	63.2%	2.9%
	中学 2 年生	1093	33	146	135	76	2	700	42
		—	3.0%	13.4%	12.4%	7.0%	0.2%	64.0%	3.8%
	高校 2 年生	1067	40	120	136	63	1	713	41
		—	3.7%	11.2%	12.7%	5.9%	0.1%	66.8%	3.8%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者（父子世帯を除く）が回答

表 111 世帯類型と生活や心身への影響があったか（A 母親の仕事への影響）のクロス

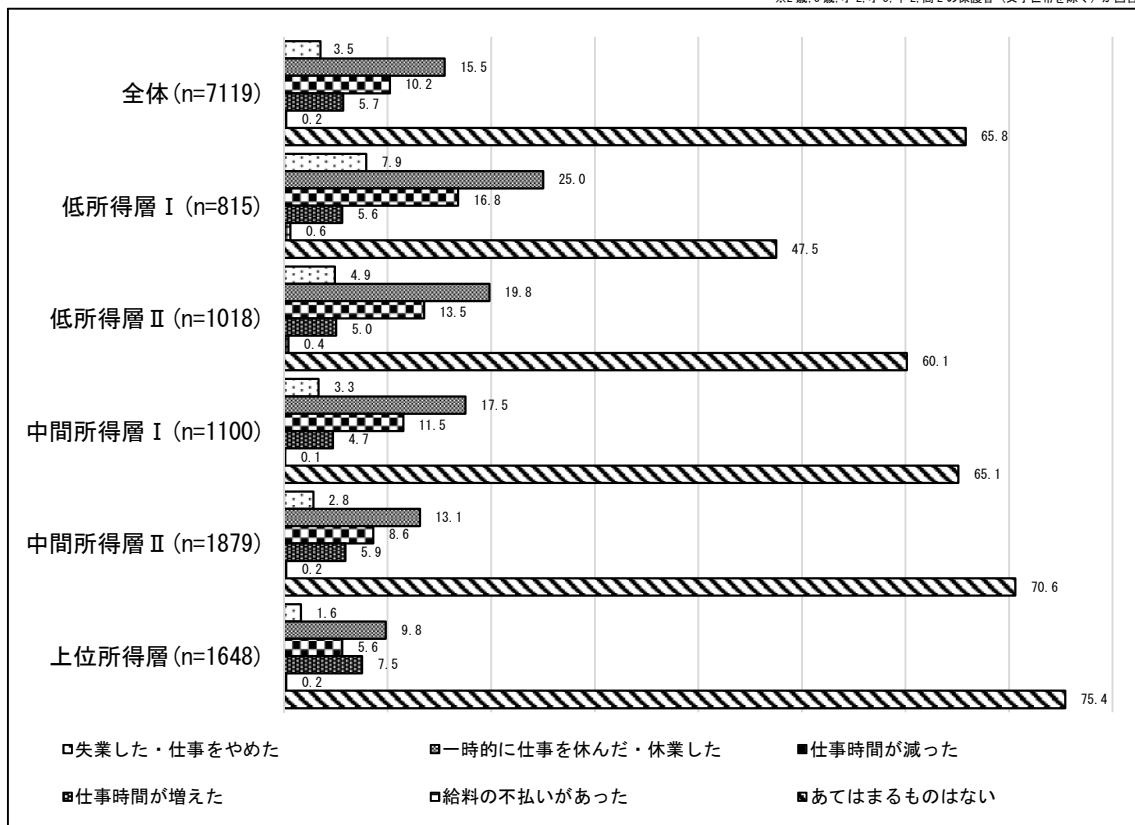
		合計	生活や心身への影響があったか A 母親の仕事への影響（※複数回答）						
			失業した・仕事をやめた	休業した 一時的に仕事を休んだ・	仕事時間が減った	仕事時間が増えた	給料の不払いがあった	あてはまるものはない	不明
全体		7119	249	1105	724	405	16	4686	229
		—	3.5%	15.5%	10.2%	5.7%	0.2%	65.8%	3.2%
世帯類型	ひとり親世帯	734	47	156	107	60	5	361	37
		—	6.4%	21.3%	14.6%	8.2%	0.7%	49.2%	5.0%
	ふたり親世帯	6371	201	947	615	345	11	4316	191
		—	3.2%	14.9%	9.7%	5.4%	0.2%	67.7%	3.0%
	その他世帯	14	1	2	2	0	0	9	1
		—	7.1%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	64.3%	7.1%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者（父子世帯を除く）が回答

表 112 所得階層と生活や心身への影響があったか（A 母親の仕事への影響）のクロス

		合計	生活や心身への影響があったか A 母親の仕事への影響（※複数回答）						
			た	失業した・仕事をやめた	一時的に仕事を休んだ・休業した	仕事時間が減った	仕事時間が増えた	給料の不払いがあった	あてはまるものはない
全体		7119	249	1105	724	405	16	4686	229
		—	3.5%	15.5%	10.2%	5.7%	0.2%	65.8%	3.2%
所得階層	低所得層 I	815	64	204	137	46	5	387	34
		—	7.9%	25.0%	16.8%	5.6%	0.6%	47.5%	4.2%
	低所得層 II	1018	50	202	137	51	4	612	27
		—	4.9%	19.8%	13.5%	5.0%	0.4%	60.1%	2.7%
	中間所得層 I	1100	36	193	127	52	1	716	22
		—	3.3%	17.5%	11.5%	4.7%	0.1%	65.1%	2.0%
	中間所得層 II	1879	52	247	161	111	3	1327	38
		—	2.8%	13.1%	8.6%	5.9%	0.2%	70.6%	2.0%
	上位所得層	1648	26	161	93	124	3	1243	31
		—	1.6%	9.8%	5.6%	7.5%	0.2%	75.4%	1.9%
	不明	659	21	98	69	21	0	401	77
		—	3.2%	14.9%	10.5%	3.2%	0.0%	60.8%	11.7%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者（父子世帯を除く）が回答



※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者（父子世帯を除く）が回答

「失業した・仕事をやめた」は全体で3.5%。

世帯類型別にみると、ひとり親世帯に、より失業や休業等への影響がある（「失業した・仕事をやめた」はひとり親世帯では6.4%、ふたり親世帯では3.2%、「一時的に仕事を休んだ・休業した」はひとり親世帯では21.3%、ふたり親世帯では14.9%）（表111）。

所得階層別にみると、低所得層に、より失業や休業への影響がある（「失業した・仕事をやめた」は低所得層Ⅰでは7.9%、上位所得層では1.6%、「一時的に仕事を休んだ・休業した」は低所得層Ⅰでは25.0%、上位所得層では9.8%）（表112）。

表113 学年と生活や心身への影響があったか（B父親の仕事への影響）のクロス

		合計	生活や心身への影響があったか B父親の仕事への影響（※複数回答）						
			失業した・仕事をやめた	休業した 一時的に仕事を休んだ・	仕事時間が減った	仕事時間が増えた	給料の不払いがあった	あてはまるものはない	不明
全体		6449	91	514	771	402	20	4634	178
		—	1.4%	8.0%	12.0%	6.2%	0.3%	71.9%	2.8%
学年	2歳児	1317	25	121	173	99	5	928	16
		—	1.9%	9.2%	13.1%	7.5%	0.4%	70.5%	1.2%
	5歳児	1045	12	103	127	58	4	759	19
		—	1.1%	9.9%	12.2%	5.6%	0.4%	72.6%	1.8%
	小学2年生	1130	18	92	142	79	2	794	31
		—	1.6%	8.1%	12.6%	7.0%	0.2%	70.3%	2.7%
	小学5年生	1075	15	70	110	67	4	792	32
		—	1.4%	6.5%	10.2%	6.2%	0.4%	73.7%	3.0%
	中学2年生	956	8	72	122	52	3	680	41
		—	0.8%	7.5%	12.8%	5.4%	0.3%	71.1%	4.3%
	高校2年生	926	13	56	97	47	2	681	39
		—	1.4%	6.0%	10.5%	5.1%	0.2%	73.5%	4.2%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者（母子世帯を除く）が回答

表 114 世帯類型と生活や心身への影響があったか（B 父親の仕事への影響）のクロス

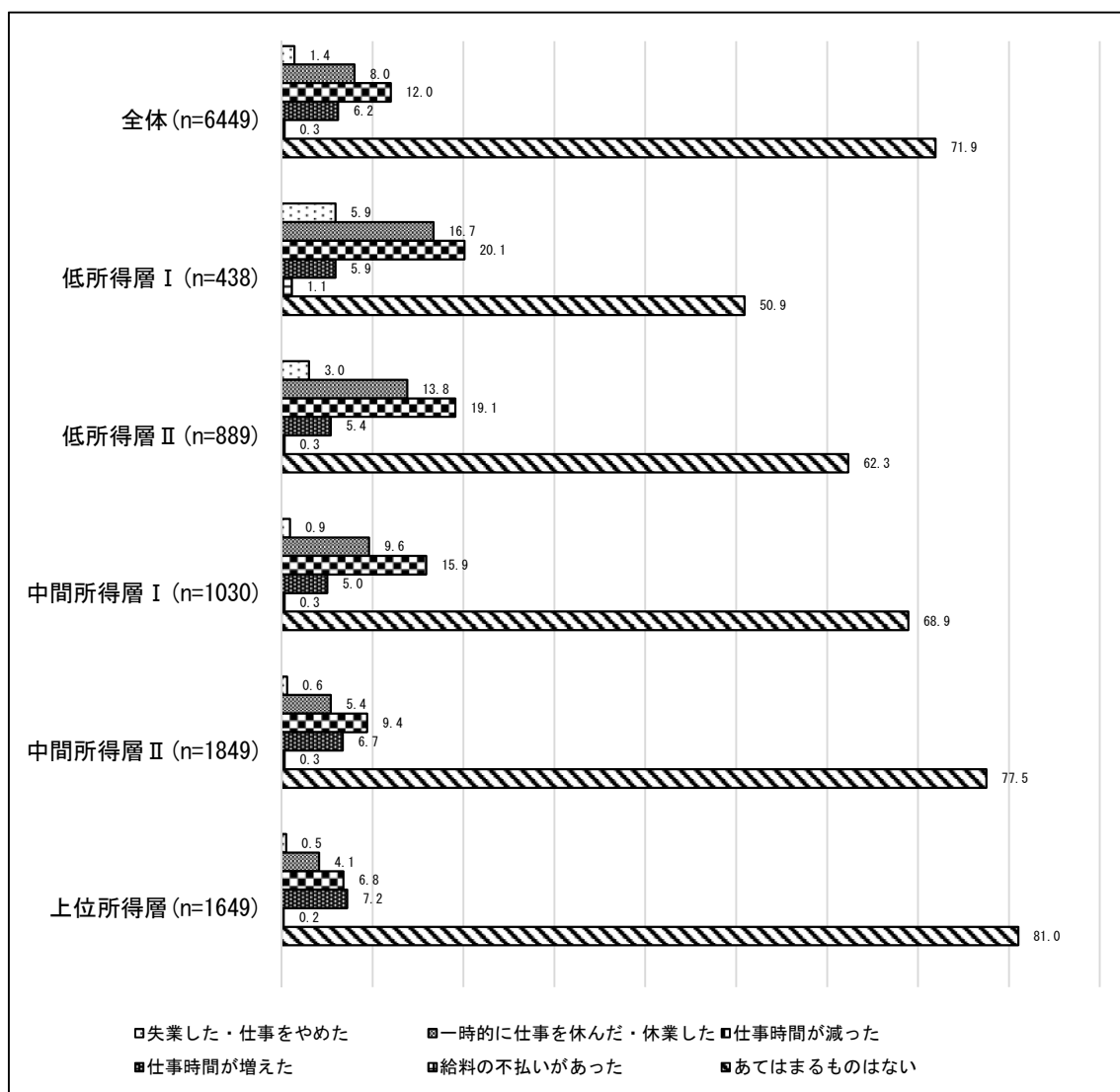
		合計	生活や心身への影響があったか B 父親の仕事への影響（※複数回答）						
			失業した・仕事をやめた	休業した 一時的に仕事を休んだ・	仕事時間が減った	仕事時間が増えた	給料の不払いがあった	あてはまるものはない	不明
全体		6449	91	514	771	402	20	4634	178
		—	1.4%	8.0%	12.0%	6.2%	0.3%	71.9%	2.8%
世帯類型	ひとり親世帯	71	0	7	9	5	0	45	7
		—	0.0%	9.9%	12.7%	7.0%	0.0%	63.4%	9.9%
	ふたり親世帯	6371	91	507	761	397	20	4584	170
		—	1.4%	8.0%	11.9%	6.2%	0.3%	72.0%	2.7%
	その他世帯	7	0	0	1	0	0	5	1
		—	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	71.4%	14.3%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者（母子世帯を除く）が回答

表 115 所得階層と生活や心身への影響があったか（B 父親の仕事への影響）のクロス

		合計	生活や心身への影響があったか B 父親の仕事への影響（※複数回答）						
			失業した・仕事をやめた	一時的に仕事を休んだ・休業した	仕事時間が減った	仕事時間が増えた	給料の不払いがあった	あてはまるものはない	不明
全体		6449	91	514	771	402	20	4634	178
		—	1.4%	8.0%	12.0%	6.2%	0.3%	71.9%	2.8%
所得階層	低所得層Ⅰ	438	26	73	88	26	5	223	27
		—	5.9%	16.7%	20.1%	5.9%	1.1%	50.9%	6.2%
	低所得層Ⅱ	889	27	123	170	48	3	554	11
		—	3.0%	13.8%	19.1%	5.4%	0.3%	62.3%	1.2%
	中間所得層Ⅰ	1030	9	99	164	52	3	710	22
		—	0.9%	9.6%	15.9%	5.0%	0.3%	68.9%	2.1%
	中間所得層Ⅱ	1849	12	99	173	123	6	1433	29
		—	0.6%	5.4%	9.4%	6.7%	0.3%	77.5%	1.6%
上位所得層	1649	8	68	112	118	3	1335	24	
	—	0.5%	4.1%	6.8%	7.2%	0.2%	81.0%	1.5%	
不明	594	9	52	64	35	0	379	65	
	—	1.5%	8.8%	10.8%	5.9%	0.0%	63.8%	10.9%	

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者（母子世帯を除く）が回答



※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者（母子世帯を除く）が回答

学年、世帯類型、所得階層ともに、影響の偏りはみられない（表 114、表 115）。
前記の母親の仕事への影響の方が大きい。

表 116 学年と生活や心身への影響があったか（C 回答者自身への影響）のクロス

		合計	生活や心身への影響があったか C 回答者自身への影響（※複数回答）							
			体調をくずした・くずしやすくなった	気持ちが沈みがちになった	病院にかかりにくくなった	子育てや子どもに使う時間が増えた	子どもに注意したり怒ったりすることが増えた	友人や知人に相談ごとをする機会が減った	あてはまるものはない	不明
全体		7282	625	1536	1132	1565	1376	1328	2943	159
		—	8.6%	21.1%	15.5%	21.5%	18.9%	18.2%	40.4%	2.2%
学年	2 歳児	1398	116	300	274	375	336	341	493	10
		—	8.3%	21.5%	19.6%	26.8%	24.0%	24.4%	35.3%	0.7%
	5 歳児	1131	85	256	229	320	301	230	367	18
		—	7.5%	22.6%	20.2%	28.3%	26.6%	20.3%	32.4%	1.6%
	小学 2 年生	1249	111	262	180	311	297	208	479	28
		—	8.9%	21.0%	14.4%	24.9%	23.8%	16.7%	38.4%	2.2%
	小学 5 年生	1263	107	276	172	282	246	206	486	31
		—	8.5%	21.9%	13.6%	22.3%	19.5%	16.3%	38.5%	2.5%
	中学 2 年生	1133	99	227	144	163	124	193	530	36
		—	8.7%	20.0%	12.7%	14.4%	10.9%	17.0%	46.8%	3.2%
	高校 2 年生	1108	107	215	133	114	72	150	588	36
		—	9.7%	19.4%	12.0%	10.3%	6.5%	13.5%	53.1%	3.2%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 117 世帯類型と生活や心身への影響があったか（C 回答者自身への影響）のクロス

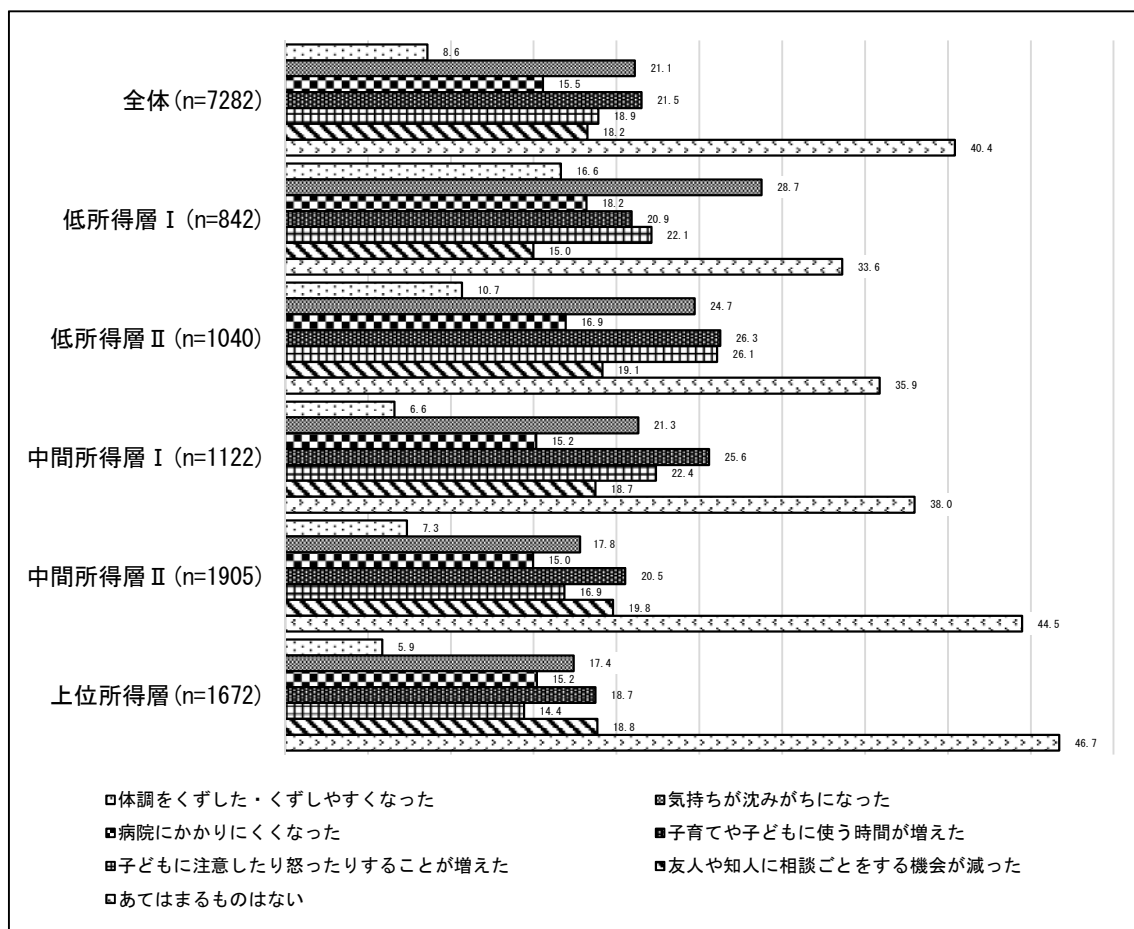
		合計	生活や心身への影響があったか C 回答者自身への影響（※複数回答）							
			体調をくずした・くずしやすくなった	気持ちが沈みがちになった	病院にかかりにくくなった	子育てや子どもに使う時間が増えた	子どもに注意したり怒ったりすることが増えた	友人や知人に相談ごとをする機会が減った	あてはまるものはない	不明
全体		7282	625	1536	1132	1565	1376	1328	2943	159
		—	8.6%	21.1%	15.5%	21.5%	18.9%	18.2%	40.4%	2.2%
世帯類型	ひとり親世帯	805	131	226	119	141	149	104	290	30
		—	16.3%	28.1%	14.8%	17.5%	18.5%	12.9%	36.0%	3.7%
	ふたり親世帯	6371	483	1287	1001	1407	1210	1215	2613	112
		—	7.6%	20.2%	15.7%	22.1%	19.0%	19.1%	41.0%	1.8%
	その他世帯	41	3	8	5	9	8	6	20	1
		—	7.3%	19.5%	12.2%	22.0%	19.5%	14.6%	48.8%	2.4%
	不明	65	8	15	7	8	9	3	20	16
		—	12.3%	23.1%	10.8%	12.3%	13.8%	4.6%	30.8%	24.6%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 118 所得階層と生活や心身への影響があったか（C 回答者自身への影響）のクロス

		合計	生活や心身への影響があったか C 回答者自身への影響（※複数回答）							
			体調をくずした・くずしやすくなった	気持ちが沈みがちになった	病院にかかりにくくなった	子育てや子どもに使う時間が増えた	子どもに注意したり怒ったりすることが増えた	友人や知人に相談ごとをする機会が減った	あてはまるものはない	不明
全体		7282	625	1536	1132	1565	1376	1328	2943	159
		—	8.6%	21.1%	15.5%	21.5%	18.9%	18.2%	40.4%	2.2%
所得階層	低所得層Ⅰ	842	140	242	153	176	186	126	283	24
		—	16.6%	28.7%	18.2%	20.9%	22.1%	15.0%	33.6%	2.9%
	低所得層Ⅱ	1040	111	257	176	273	271	199	373	8
		—	10.7%	24.7%	16.9%	26.3%	26.1%	19.1%	35.9%	0.8%
	中間所得層Ⅰ	1122	74	239	170	287	251	210	426	12
		—	6.6%	21.3%	15.2%	25.6%	22.4%	18.7%	38.0%	1.1%
	中間所得層Ⅱ	1905	140	339	285	391	321	377	847	17
		—	7.3%	17.8%	15.0%	20.5%	16.9%	19.8%	44.5%	0.9%
	上位所得層	1672	98	291	254	313	241	315	781	15
		—	5.9%	17.4%	15.2%	18.7%	14.4%	18.8%	46.7%	0.9%
	不明	701	62	168	94	125	106	101	233	83
		—	8.8%	24.0%	13.4%	17.8%	15.1%	14.4%	33.2%	11.8%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答



※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

「体調をくずした・くずしやすくなった」は全体で8.6%、「気持ちが沈みがちになった」は全体で21.1%。

年齢・学年別にみると、2歳児・5歳児保護者で、より子育て関連の苦労が増えている（「子どもに注意したり怒ったりすることが増えた」は2歳児保護者では24.0%、5歳児保護者では26.6%）（表116）。

世帯類型別にみると、ひとり親世帯で、より体調や気持ちへの負の影響がある（「体調をくずした・くずしやすくなった」はひとり親世帯では16.3%、ふたり親世帯では7.6%、「気持ちが沈みがちになった」はひとり親世帯では28.1%、ふたり親世帯では20.2%）（表117）。

所得階層別にみると、低所得層で、心身の調子低下や子育て関連の苦労の影響がよりある（「体調をくずした・くずしやすくなった」は低所得層Ⅰでは16.6%、上位所得層では5.9%、「気持ちが沈みがちになった」は低所得層Ⅰでは28.7%、上位所得層では17.4%、「子どもに注意したり怒ったりすることが増えた」は低所得層Ⅰでは22.1%、上位所得層では14.4%）（表118）

表 119-1 学年と生活や心身への影響があったか（Ｄ子どもへの影響）のクロス

		合計	生活や心身への影響があったか Ｄ子どもへの影響（全学年）（※複数回答）								
			小５・中２・高２ 学習に支障がでた（小２・高２）	習い事などに支障がでた	遊びや友だちつきあいに支障がでた	生活リズムがくずれた	体力が落ちたり、ケガをしやすくなった	精神的に不安定になったり、ふさぎ込むことが増え	ゲームや動画の視聴時間が増えた（２歳児・５歳児）	あてはまるものはない	不明
全体		7282 —	948 13.0%	1733 23.8%	1922 26.4%	1595 21.9%	688 9.4%	521 7.2%	1315 18.1%	2356 32.4%	148 2.0%
学年	２歳児	1398 —	0 0.0%	170 12.2%	351 25.1%	130 9.3%	39 2.8%	95 6.8%	642 45.9%	521 37.3%	18 1.3%
		5歳児	1131 —	0 0.0%	305 27.0%	317 28.0%	160 14.1%	82 7.3%	112 9.9%	673 59.5%	242 21.4%
	小学２年生	1249 —	171 13.7%	411 32.9%	376 30.1%	202 16.2%	128 10.2%	82 6.6%	0 0.0%	434 34.7%	31 2.5%
		小学５年生	1263 —	260 20.6%	454 35.9%	339 26.8%	343 27.2%	175 13.9%	85 6.7%	0 0.0%	374 29.6%
	中学２年生	1133 —	264 23.3%	263 23.2%	278 24.5%	382 33.7%	161 14.2%	74 6.5%	0 0.0%	364 32.1%	27 2.4%
		高校２年生	1108 —	253 22.8%	130 11.7%	261 23.6%	378 34.1%	103 9.3%	73 6.6%	0 0.0%	421 38.0%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 119-2 学年と生活や心身への影響があったか（Ｄ子どもへの影響）のクロス

		合計	生活や心身への影響があったか D子どもへの影響（2歳児・5歳児）（※複数回答）								
			—	習い事などに支障がでた	遊びや友だちつきあいに支障がでた	生活リズムがくずれた	体力が落ちたり、ケガをしやすくなった	精神的に不安定になったり、ふさぎ込むことが増えた	ゲームや動画の視聴時間が増えた	あてはまるものはない	不明
全体 （2歳児・5歳児）		2529	—	475	668	290	121	207	1315	763	33
		—	—	18.8%	26.4%	11.5%	4.8%	8.2%	52.0%	30.2%	1.3%
学年	2歳児	1398	—	170	351	130	39	95	642	521	18
		—	—	12.2%	25.1%	9.3%	2.8%	6.8%	45.9%	37.3%	1.3%
	5歳児	1131	—	305	317	160	82	112	673	242	15
		—	—	27.0%	28.0%	14.1%	7.3%	9.9%	59.5%	21.4%	1.3%

※2歳、5歳の保護者が回答

表 119-3 学年と生活や心身への影響があったか（Ｄ子どもへの影響）のクロス

		合計	生活や心身への影響があったか D 子どもへの影響（※複数回答）								
			学習に支障がでた	習い事などに支障がでた	遊びや友だちつきあいに支障がでた	生活リズムがくずれた	体力が落ちたり、ケガをしやすくなった	精神的に不安定になったり、ふさぎ込むことが増えた	—	あてはまるものはない	不明
全体（小2・小5・中2・高2）		4753 —	948 19.9%	1258 26.5%	1254 26.4%	1305 27.5%	567 11.9%	314 6.6%	— —	1593 33.5%	115 2.4%
学年	小学2年生	1249	171	411	376	202	128	82	—	434	31
		—	13.7%	32.9%	30.1%	16.2%	10.2%	6.6%	—	34.7%	2.5%
	小学5年生	1263	260	454	339	343	175	85	—	374	27
		—	20.6%	35.9%	26.8%	27.2%	13.9%	6.7%	—	29.6%	2.1%
	中学2年生	1133	264	263	278	382	161	74	—	364	27
		—	23.3%	23.2%	24.5%	33.7%	14.2%	6.5%	—	32.1%	2.4%
	高校2年生	1108	253	130	261	378	103	73	—	421	30
		—	22.8%	11.7%	23.6%	34.1%	9.3%	6.6%	—	38.0%	2.7%

※小２、小５、中２、高２の保護者が回答

表 120 世帯類型と生活や心身への影響があったか（D 子どもへの影響）のクロス

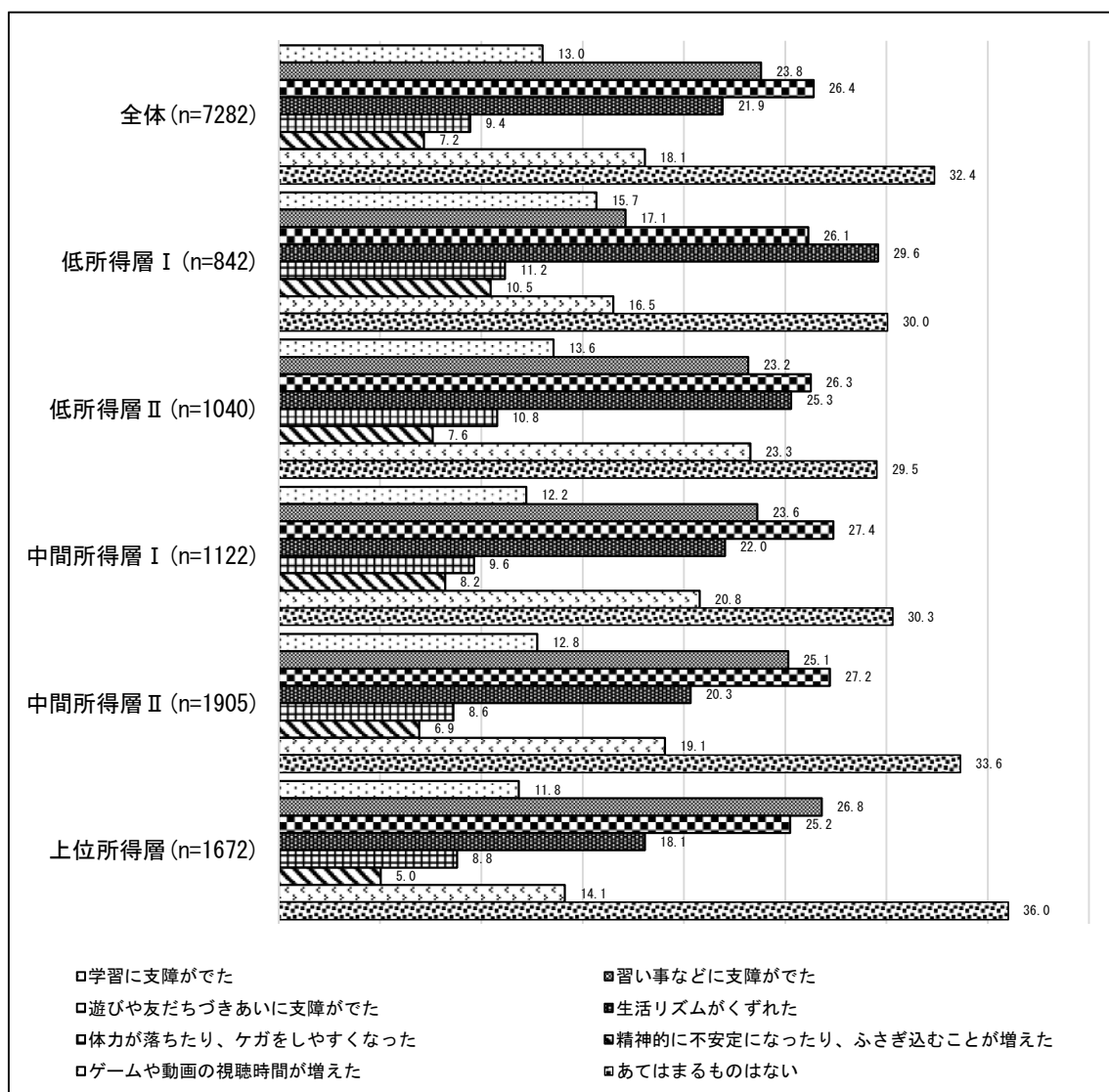
		合計	生活や心身への影響があったか D 子どもへの影響（※複数回答）								
			学習に支障がでた	習い事などに支障がでた	遊びや友だちつきあいに支障がでた	生活リズムがくずれた	体力が落ちたり、ケガをしやすくなった	精神的に不安定になったり、ふさぎ込むことが増えた	ゲームや動画の視聴時間が増えた	あてはまるものはない	不明
全体		7282	948	1733	1922	1595	688	521	1315	2356	148
		—	13.0%	23.8%	26.4%	21.9%	9.4%	7.2%	18.1%	32.4%	2.0%
世帯類型	ひとり親世帯	805	158	144	200	257	95	67	69	249	25
		—	19.6%	17.9%	24.8%	31.9%	11.8%	8.3%	8.6%	30.9%	3.1%
	ふたり親世帯	6371	772	1575	1702	1312	581	445	1231	2082	106
		—	12.1%	24.7%	26.7%	20.6%	9.1%	7.0%	19.3%	32.7%	1.7%
	その他世帯	41	7	4	6	15	4	4	8	8	2
		—	17.1%	9.8%	14.6%	36.6%	9.8%	9.8%	19.5%	19.5%	4.9%
	不明	65	11	10	14	11	8	5	7	17	15
		—	16.9%	15.4%	21.5%	16.9%	12.3%	7.7%	10.8%	26.2%	23.1%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

表 121 所得階層と生活や心身への影響があったか（Ｄ子どもへの影響）のクロス

		合計	生活や心身への影響があったか Ｄ子どもへの影響（※複数回答）								
			学習に支障がでた	習い事などに支障がでた	遊びや友だちつきあいに支障がでた	生活リズムがくずれた	体力が落ちたり、ケガをしやすくなった	精神的に不安定になったり、ふさぎ込むことが増えた	ゲームや動画の視聴時間が増えた	あてはまるものはない	不明
全体		7282	948	1733	1922	1595	688	521	1315	2356	148
		—	13.0%	23.8%	26.4%	21.9%	9.4%	7.2%	18.1%	32.4%	2.0%
所得階層	低所得層Ⅰ	842	132	144	220	249	94	88	139	253	24
		—	15.7%	17.1%	26.1%	29.6%	11.2%	10.5%	16.5%	30.0%	2.9%
	低所得層Ⅱ	1040	141	241	273	263	112	79	242	307	8
		—	13.6%	23.2%	26.3%	25.3%	10.8%	7.6%	23.3%	29.5%	0.8%
	中間所得層Ⅰ	1122	137	265	307	247	108	92	233	340	15
		—	12.2%	23.6%	27.4%	22.0%	9.6%	8.2%	20.8%	30.3%	1.3%
	中間所得層Ⅱ	1905	243	479	518	387	164	132	363	641	13
		—	12.8%	25.1%	27.2%	20.3%	8.6%	6.9%	19.1%	33.6%	0.7%
	上位所得層	1672	198	448	422	302	147	84	236	602	11
		—	11.8%	26.8%	25.2%	18.1%	8.8%	5.0%	14.1%	36.0%	0.7%
	不明	701	97	156	182	147	63	46	102	213	77
		—	13.8%	22.3%	26.0%	21.0%	9.0%	6.6%	14.6%	30.4%	11.0%

※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答



※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

回答の中では、いずれの世帯類型、所得階層でも「あてはまるものはない」の割合が一番多いが、世帯類型別にみると、ひとり親世帯で、学習への支障と生活リズムのくずれの影響がより大きい（「学習に支障がでた」はひとり親世帯では19.6%、ふたり親世帯では12.1%、「生活リズムがくずれた」はひとり親世帯では31.9%、ふたり親世帯では20.6%）。また、ふたり親世帯で、習い事の支障の影響がより大きい。（「習い事などに支障がでた」はひとり親世帯では17.9%、ふたり親世帯では24.7%）（表120）。

所得階層別にみると、低所得層で、学習への支障、生活リズムのくずれ、と精神的不安定への影響がより大きい（「学習に支障がでた」は低所得層Ⅰでは15.7%、上位所得層では11.8%、「生活リズムがくずれた」は低所得層Ⅰでは29.6%、上位所得層では18.1%、「精神的に不安定になったり、ふさぎ込むことが増えた」は低所得層Ⅰでは10.5%、上位所得層では5.0%。）（表121）

表 122 学年と生活や心身への影響があったか（E 家庭の家計への影響）のクロス

		合 計	生活や心身への影響があったか E 家庭の家計への影響（※複数回答）				
			世帯収入が減った	世帯の支出が増えた	世帯の貯蓄が減った	あてはまるものはない	不明
全体		7282	1570	1307	1011	4029	212
		—	21.6%	17.9%	13.9%	55.3%	2.9%
学年	2 歳児	1398	294	224	187	809	9
		—	21.0%	16.0%	13.4%	57.9%	0.6%
	5 歳児	1131	240	215	181	620	28
		—	21.2%	19.0%	16.0%	54.8%	2.5%
	小学 2 年生	1249	265	214	152	711	47
		—	21.2%	17.1%	12.2%	56.9%	3.8%
	小学 5 年生	1263	271	221	165	698	48
		—	21.5%	17.5%	13.1%	55.3%	3.8%
	中学 2 年生	1133	260	228	167	594	38
		—	22.9%	20.1%	14.7%	52.4%	3.4%
	高校 2 年生	1108	240	205	159	597	42
		—	21.7%	18.5%	14.4%	53.9%	3.8%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 123 世帯類型と生活や心身への影響があったか（E 家庭の家計への影響）のクロス

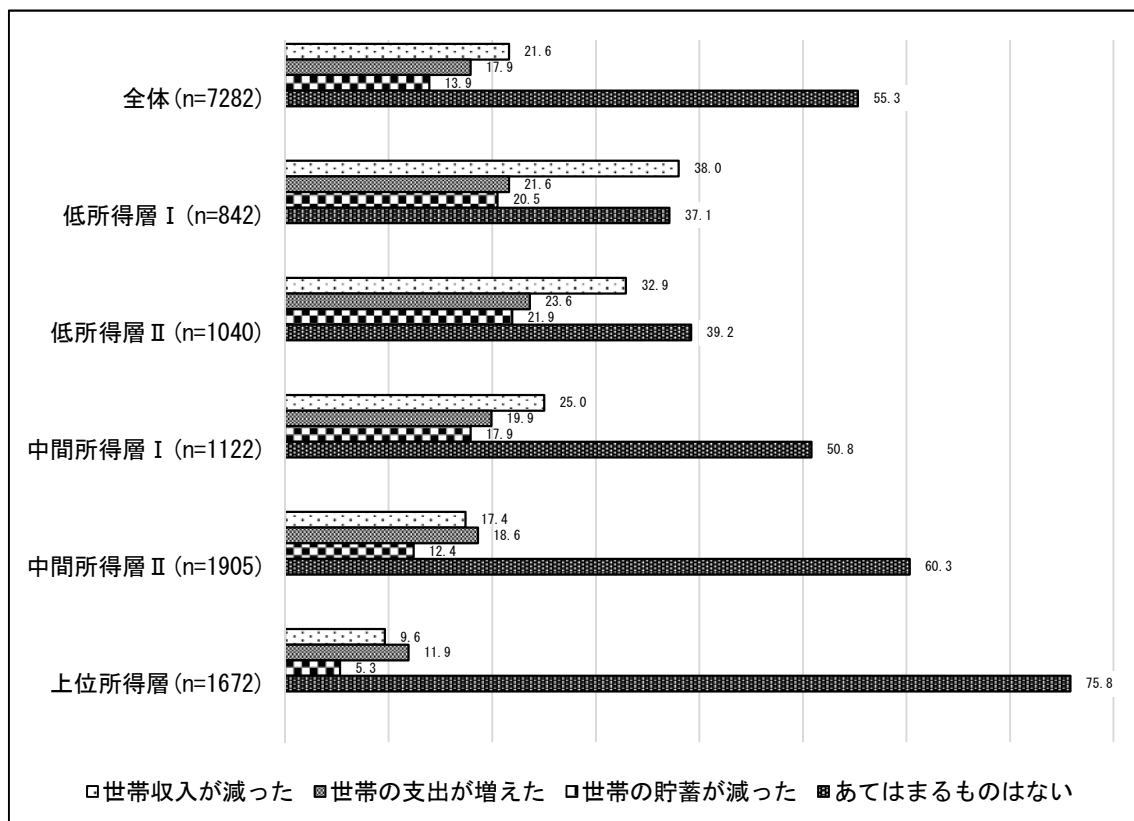
		合計	生活や心身への影響があったか E 家庭の家計への影響（※複数回答）				
			世帯収入が減った	世帯の支出が増えた	世帯の貯蓄が減った	あてはまるものはない	不明
全体		7282	1570	1307	1011	4029	212
		—	21.6%	17.9%	13.9%	55.3%	2.9%
世帯類型	ひとり親世帯	805	224	158	139	370	34
		—	27.8%	19.6%	17.3%	46.0%	4.2%
	ふたり親世帯	6371	1324	1129	857	3617	160
		—	20.8%	17.7%	13.5%	56.8%	2.5%
	その他世帯	41	7	9	7	21	1
		—	17.1%	22.0%	17.1%	51.2%	2.4%
	不明	65	15	11	8	21	17
		—	23.1%	16.9%	12.3%	32.3%	26.2%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答

表 124 所得階層と生活や心身への影響があったか（E 家庭の家計への影響）のクロス

		合計	生活や心身への影響があったか E 家庭の家計への影響（※複数回答）				
			世帯収入が減った	世帯の支出が増えた	世帯の貯蓄が減った	あてはまるものはない	不明
全体		7282	1570	1307	1011	4029	212
		100.0%	21.6%	17.9%	13.9%	55.3%	2.9%
所得階層	低所得層 I	842	320	182	173	312	17
		100.0%	38.0%	21.6%	20.5%	37.1%	2.0%
	低所得層 II	1040	342	245	228	408	14
		100.0%	32.9%	23.6%	21.9%	39.2%	1.3%
	中間所得層 I	1122	280	223	201	570	17
		100.0%	25.0%	19.9%	17.9%	50.8%	1.5%
	中間所得層 II	1905	332	355	237	1149	16
		100.0%	17.4%	18.6%	12.4%	60.3%	0.8%
	上位所得層	1672	161	199	88	1267	17
		100.0%	9.6%	11.9%	5.3%	75.8%	1.0%
	不明	701	135	103	84	323	131
		100.0%	19.3%	14.7%	12.0%	46.1%	18.7%

※2 歳、5 歳、小 2、小 5、中 2、高 2 の保護者が回答



※2歳、5歳、小2、小5、中2、高2の保護者が回答

全体として、「世帯収入が減った」は21.6%、「世帯の支出が増えた」は17.9%、「世帯の貯蓄が減った」は13.9%。

年齢・学年ごとの偏りはみられない（表122）。

世帯類型別にみると、ひとり親世帯において家計への負の影響がより大きい（「世帯収入が減った」はひとり親世帯では27.8%、ふたり親世帯では20.8%、「世帯の支出が増えた」はひとり親世帯では19.6%、ふたり親世帯では17.7%、「世帯の貯蓄が減った」はひとり親世帯では17.3%、ふたり親世帯では13.5%）（表123）。

所得階層別にみると、低所得層において家計への負の影響がより大きい（「世帯収入が減った」は所得階層Iでは38.0%、上位所得層では9.6%、「世帯の支出が増えた」は所得階層Iでは21.6%、上位所得層では11.9%、「世帯の貯蓄が減った」は所得階層Iでは20.5%、上位所得層では5.3%）（表124）。

【総評】新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響

仕事・体調・家計に共通して、ひとり親・母親・低所得層において負の影響が大きい。

2歳児・5歳児保護者では、子育てに関わる苦勞が、小学生以降より増した様子がうかがえる。

子どもへの影響では、影響の出る項目が世帯類型や所得階層の違いにより、やや異なるパターンを示している。

第二部

子ども回答結果より

第二部 子ども回答結果より

1 自分の家の暮らし向き

表 125 学年と自分の家の暮らし向きのクロス

		合計	自分の家の暮らし向き						
			大変 苦しい	やや 苦しい	ふつ う	やや ゆとり がある	大変 ゆとり がある	わ か ら な い	不 明
全体		3513 100.0%	63 1.8%	350 10.0%	1643 46.8%	598 17.0%	247 7.0%	556 15.8%	56 1.6%
学年	小学 5 年生	1262 100.0%	11 0.9%	59 4.7%	541 42.9%	219 17.4%	122 9.7%	284 22.5%	26 2.1%
	中学 2 年生	1132 100.0%	16 1.4%	103 9.1%	552 48.8%	190 16.8%	69 6.1%	186 16.4%	16 1.4%
	高校 2 年生	1119 100.0%	36 3.2%	188 16.8%	550 49.2%	189 16.9%	56 5.0%	86 7.7%	14 1.3%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 126 世帯類型と自分の家の暮らし向きのクロス

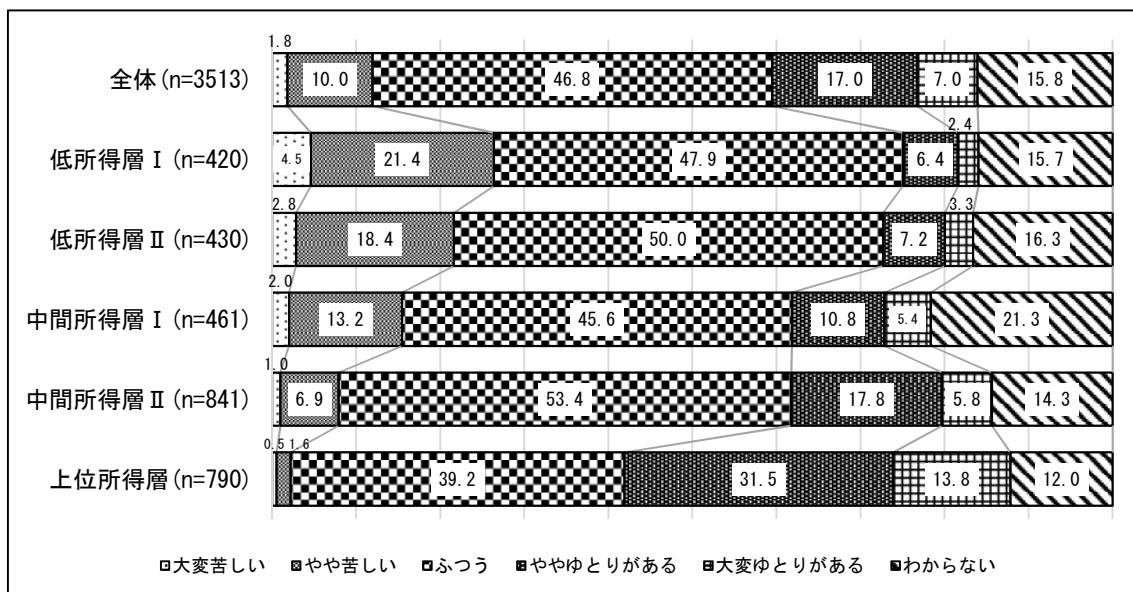
		合計	自分の家の暮らし向き						
			大変 苦しい	やや 苦しい	ふつ う	やや ゆとり がある	大変 ゆとり がある	わ か ら な い	不 明
全体		3513 100.0%	63 1.8%	350 10.0%	1643 46.8%	598 17.0%	247 7.0%	556 15.8%	56 1.6%
世帯 類型	ひとり親世帯	496 100.0%	19 3.8%	109 22.0%	223 45.0%	53 10.7%	11 2.2%	75 15.1%	6 1.2%
	ふたり親世帯	2737 100.0%	37 1.4%	216 7.9%	1288 47.1%	505 18.5%	220 8.0%	430 15.7%	41 1.5%
	その他世帯	24 100.0%	0 0.0%	4 16.7%	18 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 8.3%	0 0.0%
	不明	256 100.0%	7 2.7%	21 8.2%	114 44.5%	40 15.6%	16 6.3%	49 19.1%	9 3.5%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 127 所得階層と自分の家の暮らし向きのカロス

		合計	自分の家の暮らし向き					
			大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	わからない
全体		3513	63	350	1643	598	247	556
		100.0%	1.8%	10.0%	46.8%	17.0%	7.0%	15.8%
所得階層	低所得層Ⅰ	420	19	90	201	27	10	66
		100.0%	4.5%	21.4%	47.9%	6.4%	2.4%	15.7%
	低所得層Ⅱ	430	12	79	215	31	14	70
		100.0%	2.8%	18.4%	50.0%	7.2%	3.3%	16.3%
	中間所得層Ⅰ	461	9	61	210	50	25	98
		100.0%	2.0%	13.2%	45.6%	10.8%	5.4%	21.3%
	中間所得層Ⅱ	841	8	58	449	150	49	120
		100.0%	1.0%	6.9%	53.4%	17.8%	5.8%	14.3%
	上位所得層	790	4	13	310	249	109	95
		100.0%	0.5%	1.6%	39.2%	31.5%	13.8%	12.0%
	不明	571	11	49	258	91	40	107
		100.0%	1.9%	8.6%	45.2%	15.9%	7.0%	18.7%

※小5、中2、高2の子どもが回答



子ども自身が、自分の家の経済状態をどのように認識しているのかを理解するために、自分の家の暮らし向きへの認知を調べた。学年別にみると、学年が上がるにつれて、暮らし向きを「大変苦しい」「やや苦しい」と認知している者の割合が高くなる（「大変苦しい」と「やや苦しい」を足すと小5では5.5%、高2では20.0%）（表125）。

世帯累計別にみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯の子どものほうが、「大変苦しい」「やや苦しい」と認知している者の割合が高い（「大変苦しい」と「やや苦しい」を足すとひとり親では25.8%、ふたり親では9.2%）（表126）。

所得階層別にみると、所得が低い階層になるほど、「大変苦しい」「やや苦しい」と認知している者の割合が高い（「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせると低所得層Ⅰでは26.0%、上位所得層では2.2%）（表127）。

2 居場所・相談相手・食事等について

表 128 学年と平日の放課後一緒に過ごす相手（一人でのいる）のクロス

		合計	平日の放課後一緒に過ごす相手（一人でのいる）				
			まったくない	あまりない	ときどきある	よくある	不明
全体		3513	915	897	880	629	192
		100.0%	26.0%	25.5%	25.0%	17.9%	5.5%
学年	小学 5 年生	1262	428	338	261	155	80
		100.0%	33.9%	26.8%	20.7%	12.3%	6.3%
	中学 2 年生	1132	255	279	307	240	51
		100.0%	22.5%	24.6%	27.1%	21.2%	4.5%
	高校 2 年生	1119	232	280	312	234	61
		100.0%	20.7%	25.0%	27.9%	20.9%	5.5%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 129 世帯類型と平日の放課後一緒に過ごす相手（一人でのいる）のクロス

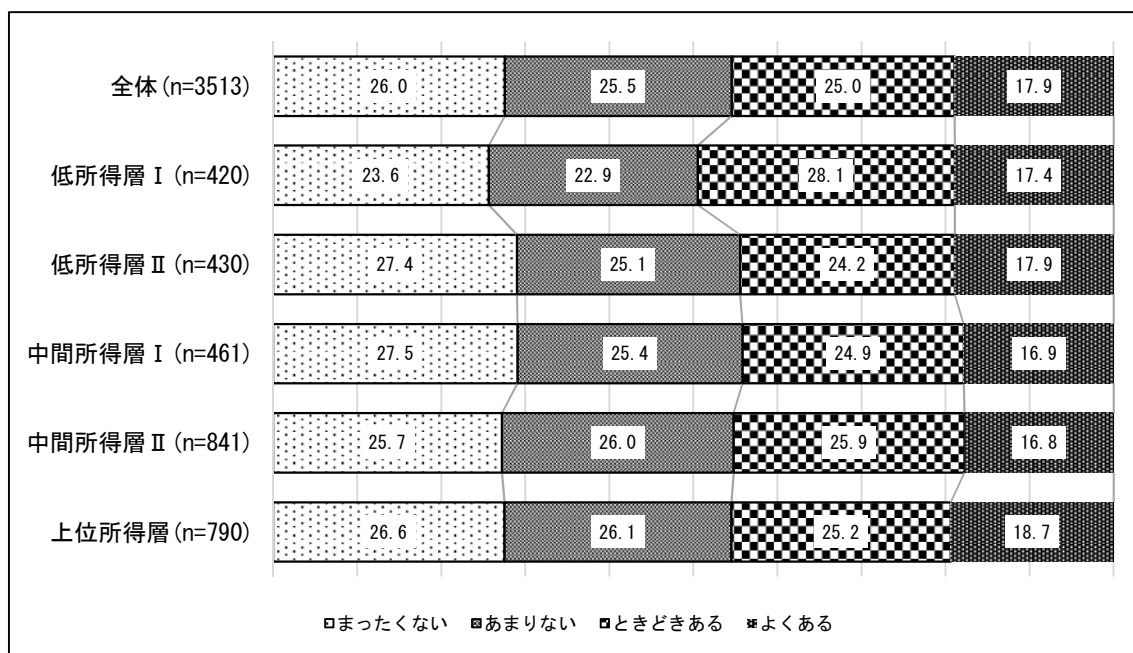
		合計	放課後一緒に過ごす相手（一人でのいる）				
			まったくない	あまりない	ときどきある	よくある	不明
全体		3513	915	897	880	629	192
		100.0%	26.0%	25.5%	25.0%	17.9%	5.5%
世帯類型	ひとり親世帯	496	99	118	119	121	39
		100.0%	20.0%	23.8%	24.0%	24.4%	7.9%
	ふたり親世帯	2737	748	701	707	453	128
		100.0%	27.3%	25.6%	25.8%	16.6%	4.7%
	その他世帯	24	7	6	2	7	2
		100.0%	29.2%	25.0%	8.3%	29.2%	8.3%
	不明	256	61	72	52	48	23
		100.0%	23.8%	28.1%	20.3%	18.8%	9.0%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 130 所得階層と平日の放課後一緒に過ごす相手（一人でのいる）のクロス

		合計	放課後一緒に過ごす相手（一人でのいる）				
			まったくない	あまりない	ときどきある	よくある	不明
全体		3513	915	897	880	629	192
		100.0%	26.0%	25.5%	25.0%	17.9%	5.5%
所得階層	低所得層Ⅰ	420	99	96	118	73	34
		100.0%	23.6%	22.9%	28.1%	17.4%	8.1%
	低所得層Ⅱ	430	118	108	104	77	23
		100.0%	27.4%	25.1%	24.2%	17.9%	5.3%
	中間所得層Ⅰ	461	127	117	115	78	24
		100.0%	27.5%	25.4%	24.9%	16.9%	5.2%
	中間所得層Ⅱ	841	216	219	218	141	47
		100.0%	25.7%	26.0%	25.9%	16.8%	5.6%
上位所得層		790	210	206	199	148	27
		100.0%	26.6%	26.1%	25.2%	18.7%	3.4%
不明		571	145	151	126	112	37
		100.0%	25.4%	26.4%	22.1%	19.6%	6.5%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答



※小5、中2、高2の子どもが回答

放課後、一人でいることが「よくある」「ときどきある」と回答した者の割合は、中学生以降に増え、全体で約半数が「ときどきある」「よくある」と回答している（小5では33.0%、中2では48.3%、高2では48.8%）（表128）。

世帯類型別にみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯の子どものほうが、放課後、一人でいることが「よくある」と回答した者が多く（ひとり親世帯では24.4%、ふたり親世帯では16.6%）、逆に「まったくない」と回答した者が少ない（ひとり親世帯では20.0%、ふたり親世帯では27.3%）（表129）。

所得階層別にみると、放課後、一人で過ごすかどうかに関して、所得階層による違いはほとんどみられない（表130）。

表 131 学年と放課後過ごす場所（自分の家）のクロス

		合計	放課後過ごす場所（自分の家）				
			過 こ さ な い	そ こ で は と く に	週 に 1 ～ 2 日	週 に 3 ～ 4 日	毎 日
全体		4762 100.0%	429 9.0%	1305 27.4%	919 19.3%	1886 39.6%	223 4.7%
	小学 2 年生	1249 100.0%	130 10.4%	322 25.8%	256 20.5%	455 36.4%	86 6.9%
		小学 5 年生	1262 100.0%	108 8.6%	290 23.0%	279 22.1%	510 40.4%
	中学 2 年生	1132 100.0%	35 3.1%	285 25.2%	228 20.1%	562 49.6%	22 1.9%
		高校 2 年生	1119 100.0%	156 13.9%	408 36.5%	156 13.9%	359 32.1%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表 132 世帯類型と放課後過ごす場所（自分の家）のクロス

		合計	放課後過ごす場所（自分の家）				
			過 ぎ な い	そ こ で は と く に	週 に 1 ～ 2 日	週 に 3 ～ 4 日	毎 日
全体		4762 100.0%	429 9.0%	1305 27.4%	919 19.3%	1886 39.6%	223 4.7%
世帯類型	ひとり親世帯	615 100.0%	51 8.3%	160 26.0%	105 17.1%	259 42.1%	40 6.5%
	ふたり親世帯	3857 100.0%	341 8.8%	1082 28.1%	758 19.7%	1508 39.1%	168 4.4%
	その他世帯	28 100.0%	3 10.7%	3 10.7%	5 17.9%	16 57.1%	1 3.6%
	不明	262 100.0%	34 13.0%	60 22.9%	51 19.5%	103 39.3%	14 5.3%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表 133 所得階層と放課後過ごす場所（自分の家）のクロス

		合計	放課後過ごす場所（自分の家）				
			過ごさない そこではとくに	週に 1 ～ 2 日	週に 3 ～ 4 日	毎日	不明
全体		4762 100.0%	429 9.0%	1305 27.4%	919 19.3%	1886 39.6%	223 4.7%
所得階層	低所得層Ⅰ	560 100.0%	40 7.1%	134 23.9%	113 20.2%	243 43.4%	30 5.4%
	低所得層Ⅱ	603 100.0%	41 6.8%	163 27.0%	111 18.4%	260 43.1%	28 4.6%
	中間所得層Ⅰ	654 100.0%	55 8.4%	167 25.5%	135 20.6%	267 40.8%	30 4.6%
	中間所得層Ⅱ	1139 100.0%	102 9.0%	314 27.6%	201 17.6%	474 41.6%	48 4.2%
	上位所得層	1104 100.0%	123 11.1%	348 31.5%	220 19.9%	360 32.6%	53 4.8%
	不明	702 100.0%	68 9.7%	179 25.5%	139 19.8%	282 40.2%	34 4.8%

※小5、中2、高2の子どもが回答

放課後、自宅で毎日過ごす割合は全体で約4割であった。所得階層別では、低所得層Ⅰが43.4%で、所得階層が上がるほどその割合は少なくなる（上位所得層32.6%）（表133）。

表 134 学年と放課後過ごす場所（同じ学校の友達の家）のクロス

		合計	放課後過ごす場所（同じ学校の友達の家）				
			過 ご さ な い	そ こ で は と く に	週 に 1 ～ 2 日	週 に 3 ～ 4 日	毎 日
全体		4762 100.0%	3801 79.8%	512 10.8%	61 1.3%	10 0.2%	378 7.9%
	小学 2 年生	1249 100.0%	838 67.1%	200 16.0%	10 0.8%	2 0.2%	199 15.9%
	小学 5 年生	1262 100.0%	970 76.9%	186 14.7%	33 2.6%	3 0.2%	70 5.5%
	中学 2 年生	1132 100.0%	992 87.6%	85 7.5%	8 0.7%	2 0.2%	45 4.0%
	高校 2 年生	1119 100.0%	1001 89.5%	41 3.7%	10 0.9%	3 0.3%	64 5.7%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表 135 世帯類型と放課後過ごす場所（同じ学校の友達の家）のクロス

		合計	放課後過ごす場所（同じ学校の友達の家）				
			過 こ さ な い	そ こ で は と く に	週 に 1 ～ 2 日	週 に 3 ～ 4 日	毎 日
全体		4762 100.0%	3801 79.8%	512 10.8%	61 1.3%	10 0.2%	378 7.9%
世帯類型	ひとり親世帯	615 100.0%	465 75.6%	68 11.1%	6 1.0%	2 0.3%	74 12.0%
	ふたり親世帯	3857 100.0%	3105 80.5%	416 10.8%	51 1.3%	8 0.2%	277 7.2%
	その他世帯	28 100.0%	21 75.0%	3 10.7%	0 0.0%	0 0.0%	4 14.3%
	不明	262 100.0%	210 80.2%	25 9.5%	4 1.5%	0 0.0%	23 8.8%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表 136 所得階層と放課後過ごす場所（同じ学校の友達の家）のクロス

		合計	放課後過ごす場所（同じ学校の友達の家）				
			過ごさない	そこではとくに	週に1～2日	週に3～4日	毎日
全体		4762 100.0%	3801 79.8%	512 10.8%	61 1.3%	10 0.2%	378 7.9%
所得階層	低所得層Ⅰ	560 100.0%	418 74.6%	76 13.6%	8 1.4%	1 0.2%	57 10.2%
	低所得層Ⅱ	603 100.0%	466 77.3%	79 13.1%	6 1.0%	3 0.5%	49 8.1%
	中間所得層Ⅰ	654 100.0%	515 78.7%	79 12.1%	14 2.1%	2 0.3%	44 6.7%
	中間所得層Ⅱ	1139 100.0%	932 81.8%	112 9.8%	16 1.4%	2 0.2%	77 6.8%
	上位所得層	1104 100.0%	905 82.0%	99 9.0%	12 1.1%	2 0.2%	86 7.8%
	不明	702 100.0%	565 80.5%	67 9.5%	5 0.7%	0 0.0%	65 9.3%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表 137 学年と放課後過ごす場所（同じ学校ではない友達の家）のクロス

		合 計	放課後過ごす場所（同じ学校ではない友達の家）				
			過 ぎ な い	そ こ で は と く に	週 に 1 ～ 2 日	週 に 3 ～ 4 日	毎 日
全体		4762 100.0%	4229 88.8%	96 2.0%	21 0.4%	6 0.1%	410 8.6%
学年	小学 2 年生	1249 100.0%	1011 80.9%	20 1.6%	2 0.2%	0 0.0%	216 17.3%
	小学 5 年生	1262 100.0%	1156 91.6%	19 1.5%	6 0.5%	2 0.2%	79 6.3%
	中学 2 年生	1132 100.0%	1061 93.7%	17 1.5%	4 0.4%	2 0.2%	48 4.2%
	高校 2 年生	1119 100.0%	1001 89.5%	40 3.6%	9 0.8%	2 0.2%	67 6.0%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表 138 世帯類型と放課後過ごす場所（同じ学校ではない友達の家）のクロス

		合計	放課後過ごす場所（同じ学校ではない友達の家）				
			過 ご さ な い	そ こ で は と く に	週 に 1 ～ 2 日	週 に 3 ～ 4 日	毎 日
全体		4762 100.0%	4229 88.8%	96 2.0%	21 0.4%	6 0.1%	410 8.6%
世帯類型	ひとり親世帯	615 100.0%	513 83.4%	21 3.4%	1 0.2%	1 0.2%	79 12.8%
	ふたり親世帯	3857 100.0%	3469 89.9%	64 1.7%	17 0.4%	5 0.1%	302 7.8%
	その他世帯	28 100.0%	21 75.0%	3 10.7%	0 0.0%	0 0.0%	4 14.3%
	不明	262 100.0%	226 86.3%	8 3.1%	3 1.1%	0 0.0%	25 9.5%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 139 所得階層と放課後過ごす場所（同じ学校ではない友達の家）のクロス

		合計	放課後過ごす場所（同じ学校ではない友達の家）				
			過 ご さ な い	そ こ で は と く に	週 に 1 ～ 2 日	週 に 3 ～ 4 日	毎 日
全体		4762 100.0%	4229 88.8%	96 2.0%	21 0.4%	6 0.1%	410 8.6%
所得階層	低所得層Ⅰ	560 100.0%	477 85.2%	16 2.9%	3 0.5%	1 0.2%	63 11.3%
	低所得層Ⅱ	603 100.0%	533 88.4%	14 2.3%	4 0.7%	0 0.0%	52 8.6%
	中間所得層Ⅰ	654 100.0%	593 90.7%	14 2.1%	1 0.2%	0 0.0%	46 7.0%
	中間所得層Ⅱ	1139 100.0%	1024 89.9%	21 1.8%	5 0.4%	2 0.2%	87 7.6%
	上位所得層	1104 100.0%	993 89.9%	12 1.1%	5 0.5%	3 0.3%	91 8.2%
	不明	702 100.0%	609 86.8%	19 2.7%	3 0.4%	0 0.0%	71 10.1%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

放課後、同じ学校の友達の家で過ごすことについては、「とくにそこでは過ごさない」が大半（約 8 割）であった。それ以外の選択肢については、「週に 1～2 日」が 10%ほどで、大きな差は無いが低所得層ほどややその割合が高い（低所得層Ⅰでは

13.6%、上位所得層では9%）（表 136）。「週 3～4 日」、「毎日」という回答は全体的にかなり低い割合であった。

なお、同じ学校ではない友達の家で過ごさない割合については、同じ学校の友達の家と比較し更に高い傾向にあった。

表 140 学年と放課後過ごす場所（児童会館・ミニ児童会館）のクロス

		合計	放課後過ごす場所（児童会館・ミニ児童会館）				
			過ごさない そこではとくに	週に 1 ～ 2 日	週に 3 ～ 4 日	毎日	不明
全体		4762 100.0%	3896 81.8%	236 5.0%	180 3.8%	146 3.1%	304 6.4%
	小学 2 年生	1249 100.0%	665 53.2%	172 13.8%	160 12.8%	127 10.2%	125 10.0%
	小学 5 年生	1262 100.0%	1121 88.8%	41 3.2%	13 1.0%	17 1.3%	70 5.5%
	中学 2 年生	1132 100.0%	1070 94.5%	13 1.1%	3 0.3%	0 0.0%	46 4.1%
	高校 2 年生	1119 100.0%	1040 92.9%	10 0.9%	4 0.4%	2 0.2%	63 5.6%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 141 世帯類型と放課後過ごす場所（児童会館・ミニ児童会館）のクロス

		合計	放課後過ごす場所（児童会館・ミニ児童会館）				
			に 過 さ な い そ こ で は と く	週に 1 ～ 2 日	週に 3 ～ 4 日	毎日	不明
全体		4762 100.0%	3896 81.8%	236 5.0%	180 3.8%	146 3.1%	304 6.4%
世帯類型	ひとり親世帯	615 100.0%	473 76.9%	38 6.2%	19 3.1%	30 4.9%	55 8.9%
	ふたり親世帯	3857 100.0%	3169 82.2%	194 5.0%	157 4.1%	113 2.9%	224 5.8%
	その他世帯	28 100.0%	23 82.1%	0 0.0%	1 3.6%	1 3.6%	3 10.7%
	不明	262 100.0%	231 88.2%	4 1.5%	3 1.1%	2 0.8%	22 8.4%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 142 所得階層と放課後過ごす場所（児童会館・ミニ児童会館）のクロス

		合計	放課後過ごす場所（児童会館・ミニ児童会館）				
			過 こ さ な い	そ こ で は と く に	週 に 1 ～ 2 日	週 に 3 ～ 4 日	毎 日
全体		4762 100.0%	3896 81.8%	236 5.0%	180 3.8%	146 3.1%	304 6.4%
所得階層	低所得層Ⅰ	560 100.0%	430 76.8%	44 7.9%	27 4.8%	20 3.6%	39 7.0%
	低所得層Ⅱ	603 100.0%	496 82.3%	23 3.8%	21 3.5%	18 3.0%	45 7.5%
	中間所得層Ⅰ	654 100.0%	534 81.7%	39 6.0%	29 4.4%	18 2.8%	34 5.2%
	中間所得層Ⅱ	1139 100.0%	959 84.2%	52 4.6%	34 3.0%	27 2.4%	67 5.9%
	上位所得層	1104 100.0%	890 80.6%	49 4.4%	54 4.9%	49 4.4%	62 5.6%
	不明	702 100.0%	587 83.6%	29 4.1%	15 2.1%	14 2.0%	57 8.1%

※小5、中2、高2の子どもが回答

児童会館・ミニ児童会館については、学年が小さいほど利用者が多い（表 140）。所得階層などについて大きな差はみられない（表 142）。

表 143 学年と放課後過ごす場所（塾や習い事）のクロス

		合計	放課後過ごす場所（塾や習い事）				
			過ごさない そこではとくに	週に 1 ～ 2 日	週に 3 ～ 4 日	毎日	不明
全体		4762 100.0%	2297 48.2%	1449 30.4%	594 12.5%	89 1.9%	333 7.0%
	小学 2 年生	1249 100.0%	413 33.1%	494 39.6%	184 14.7%	9 0.7%	149 11.9%
	小学 5 年生	1262 100.0%	444 35.2%	492 39.0%	222 17.6%	38 3.0%	66 5.2%
	中学 2 年生	1132 100.0%	602 53.2%	332 29.3%	131 11.6%	17 1.5%	50 4.4%
	高校 2 年生	1119 100.0%	838 74.9%	131 11.7%	57 5.1%	25 2.2%	68 6.1%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 144 世帯類型と放課後過ごす場所（塾や習い事）のクロス

		合計	放課後過ごす場所（塾や習い事）				
			過ごさない そこではとくに	週に 1 ～ 2 日	週に 3 ～ 4 日	毎日	不明
全体		4762 100.0%	2297 48.2%	1449 30.4%	594 12.5%	89 1.9%	333 7.0%
世帯類型	ひとり親世帯	615 100.0%	347 56.4%	130 21.1%	59 9.6%	8 1.3%	71 11.5%
	ふたり親世帯	3857 100.0%	1809 46.9%	1237 32.1%	497 12.9%	74 1.9%	240 6.2%
	その他世帯	28 100.0%	21 75.0%	4 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 10.7%
	不明	262 100.0%	120 45.8%	78 29.8%	38 14.5%	7 2.7%	19 7.3%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 145 所得階層と放課後過ごす場所（塾や習い事）のクロス

		合計	放課後過ごす場所（塾や習い事）				
			過 こ さ な い	そ こ で は と く に	週 に 1 ～ 2 日	週 に 3 ～ 4 日	毎 日
全体		4762 100.0%	2297 48.2%	1449 30.4%	594 12.5%	89 1.9%	333 7.0%
所得階層	低所得層Ⅰ	560 100.0%	322 57.5%	118 21.1%	59 10.5%	8 1.4%	53 9.5%
	低所得層Ⅱ	603 100.0%	354 58.7%	152 25.2%	37 6.1%	11 1.8%	49 8.1%
	中間所得層Ⅰ	654 100.0%	337 51.5%	204 31.2%	61 9.3%	7 1.1%	45 6.9%
	中間所得層Ⅱ	1139 100.0%	543 47.7%	370 32.5%	136 11.9%	21 1.8%	69 6.1%
	上位所得層	1104 100.0%	387 35.1%	404 36.6%	221 20.0%	34 3.1%	58 5.3%
	不明	702 100.0%	354 50.4%	201 28.6%	80 11.4%	8 1.1%	59 8.4%

※小5、中2、高2の子どもが回答

塾や習い事については、週に1～2日の割合が30.4%、週に3～4日が12.5%であり、小学2年生、小学5年生が他よりも高い傾向にある（表143）。

世帯類型別の塾や習い事をしている（週に1日以上）割合は、ふたり親世帯が46.9%であり、ひとり親世帯32%よりも高い（表144）。

所得階層別にみると、その割合は階層が高くなるほど高い（低所得層Ⅰ：33.0%、低所得層Ⅱ：33.2%、中間所得層Ⅰ：41.6%、中間所得層Ⅱ：46.3%、上位所得層：59.7%）（表145）。

表 146 学年とほっとできる場所のクロス

		合計	ほっとできる居場所											
			自分の家	同じ学校の友だちの家	同じ学校ではない友だちの家	塾や習い事	学校（部活など）	スポーツクラブの活動の場 （野球場、サッカー場など）	公園	図書館や公共の施設	ショッピングセンター	児童会館	ない	不明
全体		3513 100.0%	2894 82.4%	45 1.3%	16 0.5%	42 1.2%	110 3.1%	16 0.5%	74 2.1%	19 0.5%	7 0.2%	6 0.2%	144 4.1%	140 4.0%
学年	小学5年生	1262 100.0%	1043 82.6%	13 1.0%	1 0.1%	21 1.7%	17 1.3%	8 0.6%	49 3.9%	5 0.4%	1 0.1%	5 0.4%	31 2.5%	68 5.4%
		1132 100.0%	906 80.0%	18 1.6%	7 0.6%	10 0.9%	44 3.9%	6 0.5%	18 1.6%	12 1.1%	3 0.3%	1 0.1%	63 5.6%	44 3.9%
	高校2年生	1119 100.0%	945 84.5%	14 1.3%	8 0.7%	11 1.0%	49 4.4%	2 0.2%	7 0.6%	2 0.2%	3 0.3%	0 0.0%	50 4.5%	28 2.5%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表 147 世帯類型とほっとできる場所のクロス

		合計	ほっとできる居場所											
			自分の家	同じ学校の友だちの家	同じ学校ではない友だちの家	塾や習い事	学校（部活など）	スポーツクラブの活動の場 （野球場、サッカー場など）	公園	図書館や公共の施設	ショッピングセンター	児童会館	ない	不明
全体		3513 100.0%	2894 82.4%	45 1.3%	16 0.5%	42 1.2%	110 3.1%	16 0.5%	74 2.1%	19 0.5%	7 0.2%	6 0.2%	144 4.1%	140 4.0%
世帯 類型	ひとり 親世帯	496 100.0%	405 81.7%	7 1.4%	5 1.0%	1 0.2%	11 2.2%	1 0.2%	15 3.0%	2 0.4%	2 0.4%	1 0.2%	25 5.0%	21 4.2%
	ふたり 親世帯	2737 100.0%	2269 82.9%	36 1.3%	11 0.4%	38 1.4%	89 3.3%	11 0.4%	52 1.9%	17 0.6%	4 0.1%	5 0.2%	98 3.6%	107 3.9%
	その他 世帯	24 100.0%	20 83.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.2%	0 0.0%	1 4.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 8.3%	0 0.0%
	不明	256 100.0%	200 78.1%	2 0.8%	0 0.0%	3 1.2%	9 3.5%	4 1.6%	6 2.3%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	19 7.4%	12 4.7%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表 148 所得階層とほっとできる場所のクロス

		合計	ほっとできる居場所											
			自分の家	同じ学校の友だちの家	同じ学校ではない友だちの家	塾や習い事	学校（部活など）	スポーツクラブの活動の場 （野球場、サッカー場など）	公園	図書館や公共の施設	ショッピングセンター	児童会館	ない	不明
全体		3513 100.0%	2894 82.4%	45 1.3%	16 0.5%	42 1.2%	110 3.1%	16 0.5%	74 2.1%	19 0.5%	7 0.2%	6 0.2%	144 4.1%	140 4.0%
所得 階層	低所得 層Ⅰ	420 100.0%	346 82.4%	9 2.1%	2 0.5%	0 0.0%	12 2.9%	0 0.0%	12 2.9%	3 0.7%	1 0.2%	1 0.2%	15 3.6%	19 4.5%
	低所得 層Ⅱ	430 100.0%	364 84.7%	4 0.9%	3 0.7%	4 0.9%	10 2.3%	2 0.5%	10 2.3%	1 0.2%	1 0.2%	1 0.2%	20 4.7%	10 2.3%
	中間所 得層Ⅰ	461 100.0%	382 82.9%	6 1.3%	3 0.7%	4 0.9%	14 3.0%	2 0.4%	6 1.3%	4 0.9%	1 0.2%	0 0.0%	18 3.9%	21 4.6%
	中間所 得層Ⅱ	841 100.0%	701 83.4%	7 0.8%	5 0.6%	10 1.2%	26 3.1%	4 0.5%	17 2.0%	5 0.6%	2 0.2%	1 0.1%	30 3.6%	33 3.9%
	上位所 得層	790 100.0%	652 82.5%	10 1.3%	2 0.3%	16 2.0%	27 3.4%	2 0.3%	19 2.4%	3 0.4%	1 0.1%	1 0.1%	28 3.5%	29 3.7%
	不明	571 100.0%	449 78.6%	9 1.6%	1 0.2%	8 1.4%	21 3.7%	6 1.1%	10 1.8%	3 0.5%	1 0.2%	2 0.4%	33 5.8%	28 4.9%

※小5、中2、高2の子どもが回答

ほっとできる居場所に関しては、学年（表 146）、世帯類型（表 147）、所得階層（表 148）、いずれに関しても「自分の家」と回答する者が8割を超えており、顕著な違いは見られない。

表 149 学年とあれば使ってみたい場所（平日の放課後に夜までいることができる場所）のクロス

		合計	あれば使ってみたい場所（平日の放課後に夜までいることができる場所）				
			まったくそう 思わない	そう 思わない	少し そう 思う	とても そう 思う	不明
全体		3513 100.0%	1160 33.0%	793 22.6%	953 27.1%	556 15.8%	51 1.5%
学年	小学 5 年生	1262 100.0%	565 44.8%	290 23.0%	286 22.7%	100 7.9%	21 1.7%
	中学 2 年生	1132 100.0%	345 30.5%	279 24.6%	318 28.1%	178 15.7%	12 1.1%
	高校 2 年生	1119 100.0%	250 22.3%	224 20.0%	349 31.2%	278 24.8%	18 1.6%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 150 世帯類型とあれば使ってみたい場所（平日の放課後に夜までいることができる場所）のクロス

		合計	あれば使ってみたい場所（平日の放課後に夜までいることができる場所）				
			まったくそう 思わない	そう 思わない	少し そう 思う	とても そう 思う	不明
全体		3513 100.0%	1160 33.0%	793 22.6%	953 27.1%	556 15.8%	51 1.5%
世帯類型	ひとり親世帯	496 100.0%	146 29.4%	114 23.0%	139 28.0%	91 18.3%	6 1.2%
	ふたり親世帯	2737 100.0%	914 33.4%	633 23.1%	744 27.2%	414 15.1%	32 1.2%
	その他世帯	24 100.0%	6 25.0%	4 16.7%	11 45.8%	3 12.5%	0 0.0%
	不明	256 100.0%	94 36.7%	42 16.4%	59 23.0%	48 18.8%	13 5.1%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 151 所得階層とあれば使ってみたい場所（平日の放課後に夜までいることができる場所）のクロス

		合 計	あれば使ってみたい場所（平日の放課後に夜までいることができる場所）				
			まったく そう 思わない	そう 思わ ない	少し そう 思う	とても そう 思う	不 明
全体		3513 100.0%	1160 33.0%	793 22.6%	953 27.1%	556 15.8%	51 1.5%
所得階層	低所得層Ⅰ	420 100.0%	135 32.1%	86 20.5%	109 26.0%	83 19.8%	7 1.7%
	低所得層Ⅱ	430 100.0%	148 34.4%	89 20.7%	116 27.0%	69 16.0%	8 1.9%
	中間所得層Ⅰ	461 100.0%	145 31.5%	116 25.2%	141 30.6%	58 12.6%	1 0.2%
	中間所得層Ⅱ	841 100.0%	275 32.7%	194 23.1%	229 27.2%	135 16.1%	8 1.0%
	上位所得層	790 100.0%	264 33.4%	189 23.9%	216 27.3%	119 15.1%	2 0.3%
	不明	571 100.0%	193 33.8%	119 20.8%	142 24.9%	92 16.1%	25 4.4%

※小5、中2、高2の子どもが回答

平日の放課後に夜までいることができる場所があれば使ってみたいかという質問に「少しそう思う」「とてもそう思う」と回答した割合は、全体で43.0%と約4割を占めている。また、学年が上がるにつれて高くなる（小学5年生では30.6%、高校2年生では56.0%）（表149）。

一方、世帯類型や所得階層ごとにみると大きな差は見られない（表150、表151）。

表 152 学校とあれば使ってみたい場所（休日にいることができる場所）のクロス

		合計	あれば使ってみたい場所（休日にいることができる場所）				
			まったくそう 思わない	そう 思わない	少し そう 思う	とても そう 思う	不明
全体		3513 100.0%	976 27.8%	763 21.7%	1112 31.7%	588 16.7%	74 2.1%
学年	小学 5 年生	1262 100.0%	448 35.5%	287 22.7%	372 29.5%	122 9.7%	33 2.6%
	中学 2 年生	1132 100.0%	299 26.4%	256 22.6%	357 31.5%	205 18.1%	15 1.3%
	高校 2 年生	1119 100.0%	229 20.5%	220 19.7%	383 34.2%	261 23.3%	26 2.3%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 153 世帯類型とあれば使ってみたい場所（休日にいることができる場所）のクロス

		合計	あれば使ってみたい場所（休日にいることができる場所）				
			まったくそう 思わない	そう 思わない	少し そう 思う	とても そう 思う	不明
全体		3513 100.0%	976 27.8%	763 21.7%	1112 31.7%	588 16.7%	74 2.1%
世帯類型	ひとり親世帯	496 100.0%	129 26.0%	100 20.2%	158 31.9%	95 19.2%	14 2.8%
	ふたり親世帯	2737 100.0%	765 28.0%	603 22.0%	879 32.1%	443 16.2%	47 1.7%
	その他世帯	24 100.0%	6 25.0%	5 20.8%	7 29.2%	6 25.0%	0 0.0%
	不明	256 100.0%	76 29.7%	55 21.5%	68 26.6%	44 17.2%	13 5.1%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 154 所得階層とあれば使ってみたい場所（休日にいることができる場所）のクロス

		合計	あれば使ってみたい場所（休日にいることができる場所）				
			まったくそう 思わない	そう 思わない	少し そう 思う	とても そう 思う	不明
全体		3513 100.0%	976 27.8%	763 21.7%	1112 31.7%	588 16.7%	74 2.1%
所得階層	低所得層Ⅰ	420 100.0%	107 25.5%	93 22.1%	128 30.5%	81 19.3%	11 2.6%
	低所得層Ⅱ	430 100.0%	136 31.6%	83 19.3%	130 30.2%	67 15.6%	14 3.3%
	中間所得層Ⅰ	461 100.0%	121 26.2%	105 22.8%	160 34.7%	70 15.2%	5 1.1%
	中間所得層Ⅱ	841 100.0%	222 26.4%	185 22.0%	287 34.1%	131 15.6%	16 1.9%
	上位所得層	790 100.0%	229 29.0%	188 23.8%	223 28.2%	143 18.1%	7 0.9%
	不明	571 100.0%	161 28.2%	109 19.1%	184 32.2%	96 16.8%	21 3.7%

※小5、中2、高2の子どもが回答

休日にいることができる場所があれば使ってみたいかという質問に「少しそう思う」「とてもそう思う」と回答した割合は、全体で48.4%と約5割を占めている。また、学年が上がるにつれて高くなる（小学5年生では39.2%、高校2年生では57.5%）（表152）。

一方、世帯類型や所得階層ごとにみると大きな差は見られない（表153、表154）。

表 155 学年とあれば使ってみたい場所（家の人がいないとき夕ご飯をみんなで食べることができる場所）のクロス

		合計	あれば使ってみたい場所（家の人がいないとき夕ご飯をみんなで食べることがで				
			まったくそう 思わない	そう 思わない	少しそう 思う	とてもそう 思う	不明
全体		3513 100.0%	1340 38.1%	904 25.7%	768 21.9%	426 12.1%	75 2.1%
学年	小学 5 年生	1262 100.0%	505 40.0%	248 19.7%	305 24.2%	173 13.7%	31 2.5%
	中学 2 年生	1132 100.0%	444 39.2%	338 29.9%	205 18.1%	127 11.2%	18 1.6%
	高校 2 年生	1119 100.0%	391 34.9%	318 28.4%	258 23.1%	126 11.3%	26 2.3%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 156 世帯類型とあれば使ってみたい場所（家の人がいないとき夕ご飯をみんなで食べることができる場所）のクロス

		合計	あれば使ってみたい場所（家の人がいないとき夕ご飯をみんなで食べることがで				
			まったくそう 思わない	そう 思わない	少しそう 思う	とてもそう 思う	不明
全体		3513 100.0%	1340 38.1%	904 25.7%	768 21.9%	426 12.1%	75 2.1%
世帯類型	ひとり親世帯	496 100.0%	187 37.7%	117 23.6%	111 22.4%	66 13.3%	15 3.0%
	ふたり親世帯	2737 100.0%	1045 38.2%	712 26.0%	597 21.8%	334 12.2%	49 1.8%
	その他世帯	24 100.0%	10 41.7%	6 25.0%	6 25.0%	2 8.3%	0 0.0%
	不明	256 100.0%	98 38.3%	69 27.0%	54 21.1%	24 9.4%	11 4.3%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 157 所得階層とあれば使ってみたい場所(家の人がいないとき夕ご飯をみんなで食べることができる場所)のクロス

		合計	あれば使ってみたい場所（家の人がいないとき夕ご飯をみんなで食べることがで				
			まったくそう 思わない	そう 思わない	少しそう 思う	とてもそう 思う	不 明
全体		3513 100.0%	1340 38.1%	904 25.7%	768 21.9%	426 12.1%	75 2.1%
所得階層	低所得層Ⅰ	420 100.0%	157 37.4%	106 25.2%	88 21.0%	56 13.3%	13 3.1%
	低所得層Ⅱ	430 100.0%	171 39.8%	101 23.5%	96 22.3%	49 11.4%	13 3.0%
	中間所得層Ⅰ	461 100.0%	161 34.9%	124 26.9%	114 24.7%	58 12.6%	4 0.9%
	中間所得層Ⅱ	841 100.0%	330 39.2%	213 25.3%	177 21.0%	102 12.1%	19 2.3%
	上位所得層	790 100.0%	316 40.0%	209 26.5%	158 20.0%	103 13.0%	4 0.5%
	不明	571 100.0%	205 35.9%	151 26.4%	135 23.6%	58 10.2%	22 3.9%

※小5、中2、高2の子どもが回答

家の人がいないとき夕ご飯をみんなで食べることができる場所があれば使ってみたいかという質問に「少しそう思う」「とてもそう思う」と回答した割合は、全体で34.0%と3割を上回っている。また、学年ごとにみると小学5年生で最も高く、中学生でやや低い（小学5年生では37.9%、中学2年生では29.3%、高校2年生では34.3%）（表155）。

一方、世帯類型や所得階層ごとにみると大きな差は見られない（表156、表157）。

表 158 学年とあれば使ってみたい場所（大学生のお兄さんやお姉さんが勉強を無料でみてくれる場所）のクロス

		合計	あれば使ってみたい場所（大学生のお兄さんやお姉さんが勉強を無料でみてくれる場所）				
			まったくそう 思わない	そう 思わない	少し そう 思う	とても そう 思う	不明
全体		3513 100.0%	1279 36.4%	781 22.2%	900 25.6%	483 13.7%	70 2.0%
学年	小学 5 年生	1262 100.0%	567 44.9%	236 18.7%	286 22.7%	143 11.3%	30 2.4%
	中学 2 年生	1132 100.0%	409 36.1%	280 24.7%	275 24.3%	155 13.7%	13 1.1%
	高校 2 年生	1119 100.0%	303 27.1%	265 23.7%	339 30.3%	185 16.5%	27 2.4%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 159 世帯類型とあれば使ってみたい場所（大学生のお兄さんやお姉さんが勉強を無料でみてくれる場所）のクロス

		合計	あれば使ってみたい場所（大学生のお兄さんやお姉さんが勉強を無料でみてくれる場所）				
			まったくそう 思わない	そう 思わない	少し そう 思う	とても そう 思う	不明
全体		3513 100.0%	1279 36.4%	781 22.2%	900 25.6%	483 13.7%	70 2.0%
世帯類型	ひとり親世帯	496 100.0%	168 33.9%	106 21.4%	136 27.4%	70 14.1%	16 3.2%
	ふたり親世帯	2737 100.0%	993 36.3%	623 22.8%	702 25.6%	377 13.8%	42 1.5%
	その他世帯	24 100.0%	10 41.7%	3 12.5%	5 20.8%	6 25.0%	0 0.0%
	不明	256 100.0%	108 42.2%	49 19.1%	57 22.3%	30 11.7%	12 4.7%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 160 所得階層とあれば使ってみたい場所（大学生のお兄さんやお姉さんが勉強を無料でみてくれる場所）のクロス

		合計	あれば使ってみたい場所（大学生のお兄さんやお姉さんが勉強を無料でみてくれる場所）				
			まったくそう 思わない	そう 思わない	少し そう 思う	とても そう 思う	不明
全体		3513 100.0%	1279 36.4%	781 22.2%	900 25.6%	483 13.7%	70 2.0%
所得階層	低所得層Ⅰ	420 100.0%	147 35.0%	90 21.4%	103 24.5%	68 16.2%	12 2.9%
	低所得層Ⅱ	430 100.0%	161 37.4%	92 21.4%	112 26.0%	53 12.3%	12 2.8%
	中間所得層Ⅰ	461 100.0%	170 36.9%	110 23.9%	127 27.5%	52 11.3%	2 0.4%
	中間所得層Ⅱ	841 100.0%	297 35.3%	206 24.5%	201 23.9%	120 14.3%	17 2.0%
	上位所得層	790 100.0%	287 36.3%	173 21.9%	204 25.8%	123 15.6%	3 0.4%
	不明	571 100.0%	217 38.0%	110 19.3%	153 26.8%	67 11.7%	24 4.2%

※小5、中2、高2の子どもが回答

大学生のお兄さんやお姉さんが勉強を無料でみてくれる場所があれば使ってみたいかという質問に「少しそう思う」「とてもそう思う」と回答した割合は、全体で39.4%と約4割を占めている。また、学年が上がるにつれて高くなる（小学5年生では34.0%、高校2年生では46.8%）（表158）。

一方、世帯類型や所得階層ごとにみると大きな差は見られない（表159、表160）。

表 161 学年とあれば使ってみたい場所（なんでも相談できる場所）のクロス

		合計	あれば使ってみたい場所（なんでも相談できる場所）				
			まったくそう 思わない	そう 思わない	少しそう 思う	とてもそう 思う	不明
全体		3513 100.0%	1202 34.2%	986 28.1%	836 23.8%	412 11.7%	77 2.2%
学年	小学 5 年生	1262 100.0%	459 36.4%	283 22.4%	312 24.7%	177 14.0%	31 2.5%
	中学 2 年生	1132 100.0%	416 36.7%	343 30.3%	237 20.9%	120 10.6%	16 1.4%
	高校 2 年生	1119 100.0%	327 29.2%	360 32.2%	287 25.6%	115 10.3%	30 2.7%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 162 世帯類型とあれば使ってみたい場所（なんでも相談できる場所）のクロス

		合計	あれば使ってみたい場所（なんでも相談できる場所）				
			まったくそう 思わない	そう 思わない	少しそう 思う	とてもそう 思う	不明
全体		3513 100.0%	1202 34.2%	986 28.1%	836 23.8%	412 11.7%	77 2.2%
世帯類型	ひとり親世帯	496 100.0%	157 31.7%	154 31.0%	102 20.6%	65 13.1%	18 3.6%
	ふたり親世帯	2737 100.0%	924 33.8%	776 28.4%	675 24.7%	313 11.4%	49 1.8%
	その他世帯	24 100.0%	11 45.8%	4 16.7%	8 33.3%	1 4.2%	0 0.0%
	不明	256 100.0%	110 43.0%	52 20.3%	51 19.9%	33 12.9%	10 3.9%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 163 所得階層とあれば使ってみたい場所（なんでも相談できる場所）のクロス

		合計	あれば使ってみたい場所（なんでも相談できる場所）				
			まったくそう 思わない	そう 思わない	少し そう 思う	とても そう 思う	不明
全体		3513 100.0%	1202 34.2%	986 28.1%	836 23.8%	412 11.7%	77 2.2%
所得階層	低所得層Ⅰ	420 100.0%	142 33.8%	112 26.7%	93 22.1%	60 14.3%	13 3.1%
	低所得層Ⅱ	430 100.0%	146 34.0%	112 26.0%	97 22.6%	61 14.2%	14 3.3%
	中間所得層Ⅰ	461 100.0%	149 32.3%	135 29.3%	109 23.6%	63 13.7%	5 1.1%
	中間所得層Ⅱ	841 100.0%	273 32.5%	248 29.5%	208 24.7%	94 11.2%	18 2.1%
	上位所得層	790 100.0%	277 35.1%	240 30.4%	192 24.3%	76 9.6%	5 0.6%
	不明	571 100.0%	215 37.7%	139 24.3%	137 24.0%	58 10.2%	22 3.9%

※小5、中2、高2の子どもが回答

なんでも相談できる場所があれば使ってみたいかという質問に「少しそう思う」「とてもそう思う」と回答した割合は、全体で35.5%と3割を上回っている。また、学年ごとにみると小学5年生で最も高く、中学生でやや低い（小学5年生では38.7%、中学2年生では31.5%、高校2年生では35.9%）（表161）。

一方、世帯類型や所得階層ごとにみると大きな差は見られない（表162、表163）。

表 164 学年と悩みごとの相談相手のクロス

		合計	悩みごとの相談相手（※複数回答）													
			親	きょうだい	祖父母など	学校の先生	同じ学校の友だち	同じ学校ではない友だち	スクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカーなど	その他の大人（学童保育所の人、塾・ 習い事の先生、地域の人など）	バイト先の人	ネットで知り合った人	その他（左記以外の人）	だれにも相談できない	だれにも相談したくない	不明
全体		3513	2508	840	516	1271	2253	665	215	215	16	157	63	131	294	169
		—	71.4%	23.9%	14.7%	36.2%	64.1%	18.9%	6.1%	6.1%	0.5%	4.5%	1.8%	3.7%	8.4%	4.8%
学 年	小学 5年生	1262	968	317	276	571	739	94	92	83	0	29	18	52	89	95
		—	76.7%	25.1%	21.9%	45.2%	58.6%	7.4%	7.3%	6.6%	0.0%	2.3%	1.4%	4.1%	7.1%	7.5%
	中学 2年生	1132	787	263	158	438	760	159	76	81	0	58	22	45	123	40
		—	69.5%	23.2%	14.0%	38.7%	67.1%	14.0%	6.7%	7.2%	0.0%	5.1%	1.9%	4.0%	10.9%	3.5%
	高校 2年生	1119	753	260	82	262	754	412	47	51	16	70	23	34	82	34
		—	67.3%	23.2%	7.3%	23.4%	67.4%	36.8%	4.2%	4.6%	1.4%	6.3%	2.1%	3.0%	7.3%	3.0%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表 165 世帯類型と悩みごとの相談相手のクロス

		合計	悩みごとの相談相手（※複数回答）													
			親	きょうだい	祖父母など	学校の先生	同じ学校の友だち	同じ学校ではない友だち	スクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカーなど	その他の大人（学童保育所の人、 塾・習い事の先生、地域の人など）	バイト先の人	ネットで知り合った人	その他（左記以外の人）	だれにも相談できない	だれにも相談したくない	不明
全体		3513 —	2508 71.4%	840 23.9%	516 14.7%	1271 36.2%	2253 64.1%	665 18.9%	215 6.1%	215 6.1%	16 0.5%	157 4.5%	63 1.8%	131 3.7%	294 8.4%	169 4.8%
世帯 類型	ひとり親世帯	496 —	332 66.9%	103 20.8%	76 15.3%	174 35.1%	304 61.3%	99 20.0%	26 5.2%	22 4.4%	7 1.4%	32 6.5%	14 2.8%	27 5.4%	53 10.7%	15 3.0%
	ふたり親世帯	2737 —	2000 73.1%	671 24.5%	391 14.3%	1006 36.8%	1788 65.3%	520 19.0%	171 6.2%	172 6.3%	7 0.3%	115 4.2%	45 1.6%	91 3.3%	211 7.7%	129 4.7%
	その他世帯	24 —	16 66.7%	6 25.0%	6 25.0%	6 25.0%	18 75.0%	3 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.2%	1 4.2%	2 8.3%
	不明	256 —	160 62.5%	60 23.4%	43 16.8%	85 33.2%	143 55.9%	43 16.8%	18 7.0%	21 8.2%	2 0.8%	10 3.9%	4 1.6%	12 4.7%	29 11.3%	23 9.0%

※小5、中2、高2の子どもが回答

表 166 所得階層と悩みごとの相談相手のクロス

		悩みごとの相談相手（※複数回答）														
		合計	親	きょうだい	祖父母など	学校の先生	同じ学校の友だち	同じ学校ではない友だち	スクールソーシャルワーカーなど	その他の大人（学童保育所の人、塾・習い事の先生、地域の人など）	バイト先の人	ネットで知り合った人	その他（左記以外の人）	だれにも相談できない	だれにも相談したくない	不明
全体		3513	2508	840	516	1271	2253	665	215	215	16	157	63	131	294	169
		—	71.4%	23.9%	14.7%	36.2%	64.1%	18.9%	6.1%	6.1%	0.5%	4.5%	1.8%	3.7%	8.4%	4.8%
所得階層	低所得層Ⅰ	420	274	98	59	139	262	73	29	18	5	22	7	20	36	20
	—	—	65.2%	23.3%	14.0%	33.1%	62.4%	17.4%	6.9%	4.3%	1.2%	5.2%	1.7%	4.8%	8.6%	4.8%
	低所得層Ⅱ	430	315	94	68	158	274	76	31	16	3	16	10	18	37	17
	—	—	73.3%	21.9%	15.8%	36.7%	63.7%	17.7%	7.2%	3.7%	0.7%	3.7%	2.3%	4.2%	8.6%	4.0%
	中間所得層Ⅰ	461	324	102	71	170	300	83	26	28	2	27	7	21	40	19
	—	—	70.3%	22.1%	15.4%	36.9%	65.1%	18.0%	5.6%	6.1%	0.4%	5.9%	1.5%	4.6%	8.7%	4.1%
	中間所得層Ⅱ	841	624	209	121	316	547	176	44	53	2	37	9	28	74	40
	—	—	74.2%	24.9%	14.4%	37.6%	65.0%	20.9%	5.2%	6.3%	0.2%	4.4%	1.1%	3.3%	8.8%	4.8%
上位所得層	790	590	211	120	283	523	160	56	65	0	34	19	23	59	32	
—	—	74.7%	26.7%	15.2%	35.8%	66.2%	20.3%	7.1%	8.2%	0.0%	4.3%	2.4%	2.9%	7.5%	4.1%	
不明	571	381	126	77	205	347	97	29	35	4	21	11	21	48	41	
—	—	66.7%	22.1%	13.5%	35.9%	60.8%	17.0%	5.1%	6.1%	0.7%	3.7%	1.9%	3.7%	8.4%	7.2%	

※小5、中2、高2の子どもが回答

悩みごとの相談相手に関しては、学年が上がるにつれて、親の割合が減少し（小5では76.7%、中2では69.5%、高2では67.3%）、同じ学校の友だちが増える傾向がみられる。また中高生で顕著に減るのが祖父母（小5では21.9%、中2では14.0%、高2では7.3%）や学校の先生（小5では45.2%、中2では38.7%、高2では23.4%）であり、逆に高校生で顕著に増えるのが、同じ学校ではない友だちである（小5では7.4%、中2では14.0%、高2では36.8%）（表164）。

世帯類型別にみると、親を相談相手とする者の割合が、ひとり親世帯のほうがやや少ない（ひとり親世帯では66.9%、ふたり親世帯では73.1%）。またわずかではあるが、だれにも相談できない、だれにも相談したくない者の割合が、ひとり親世帯のほうが多い（合わせるとひとり親世帯では16.1%、ふたり親世帯では11.0%）（表165）。

所得階層別にみると、親を相談相手とする者の割合が、他の階層がすべて7割を超えている中で、低所得層Ⅰのみが65.2%とやや低い値を示している。その一方で、だれにも相談できない者の割合は、低所得層Ⅰ～中間所得層Ⅰの間では差は見られないものの、中間所得層Ⅱ、上位所得層では他の階層に比べ、さらに低い値を示している（表166）。

表 167 学年と平日に夕食をだれと食べるかのクロス

		合計	平日に夕食をだれと食べるか（※小学 2 年生は保護者が回答）				
			家族	家族以外の人	きょうだいだけで食べる	一人で食べる	不明
全体		4762 100.0%	4188 84.3%	38 0.8%	153 3.1%	280 5.6%	103 6.2%
学年	小学 2 年生	1249 100.0%	1142 91.4%	13 1.0%	45 3.6%	10 0.8%	39 3.1%
	小学 5 年生	1262 100.0%	1155 91.5%	6 0.5%	37 2.9%	32 2.5%	32 2.5%
	中学 2 年生	1132 100.0%	989 87.4%	5 0.4%	47 4.2%	72 6.4%	19 1.7%
	高校 2 年生	1119 100.0%	902 80.6%	14 1.3%	24 2.1%	166 14.8%	13 1.2%

※小 2 の保護者と小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 168 世帯類型と平日に夕食をだれと食べるかのクロス

		合計	平日に夕食をだれと食べるか（※小学 2 年生は保護者が回答）				
			家族	家族以外の人	きょうだいだけで食べる	一人で食べる	不明
全体		4762 100.0%	4188 87.9%	38 0.8%	153 3.2%	280 5.9%	103 2.2%
世帯類型	ひとり親世帯	615 100.0%	500 81.3%	6 1.0%	24 3.9%	62 10.1%	23 3.7%
	ふたり親世帯	3857 100.0%	3450 89.4%	26 0.7%	117 3.0%	189 4.9%	75 1.9%
	その他世帯	28 100.0%	25 89.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 10.7%	0 0.0%
	不明	262 100.0%	213 81.3%	6 2.3%	12 4.6%	26 9.9%	5 1.9%

※小 2 の保護者と小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 169 所得階層と平日に夕食をだれと食べるかのクロス

		合 計	平日に夕食をだれと食べるか（※小学 2 年生は保護者が回答）				
			家 族	家 族 以 外 の 人	き ょう だ い だ け で 食 べ る	一 人 で 食 べ る	不 明
全体		4762 100.0%	4188 87.9%	38 0.8%	153 3.2%	280 5.9%	103 2.2%
所得階層	低所得層Ⅰ	560 100.0%	471 84.1%	4 0.7%	21 3.8%	43 7.7%	21 3.8%
	低所得層Ⅱ	603 100.0%	527 87.4%	5 0.8%	29 4.8%	29 4.8%	13 2.2%
	中間所得層Ⅰ	654 100.0%	580 88.7%	5 0.8%	24 3.7%	29 4.4%	16 2.4%
	中間所得層Ⅱ	1139 100.0%	1022 89.7%	3 0.3%	31 2.7%	69 6.1%	14 1.2%
	上位所得層	1104 100.0%	982 88.9%	10 0.9%	28 2.5%	65 5.9%	19 1.7%
	不明	702 100.0%	606 86.3%	11 1.6%	20 2.8%	45 6.4%	20 2.8%

※小 2 の保護者と小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

夕食を誰と食べるかについては、学年が高くなるにつれて、家族と回答する者の割合が減り（小 2 では 91.4%、小 5 では 91.5%、中 2 では 87.4%、高 2 では 80.6%）、一人で食べると回答する者の割合が増え（小 2 では 0.8%、小 5 では 2.5%、中 2 では 6.4%、高 2 では 14.8%）、特に高校生で顕著である（表 167）。

世帯類型別にみると、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯の子どものほうが、家族と食べると回答する者の割合がやや低く（ひとり親世帯では 81.3%、ふたり親世帯では 89.4%）、一人で食べると回答する者の割合が高い（ひとり親世帯では 10.1%、ふたり親世帯では 4.9%）（表 168）。

所得階層別にみると、低所得層Ⅰにおいて、若干ではあるが、家族と回答する者の割合が低く（84.1%）、一人で食べると回答する者の割合が高い（7.7%）（表 169）。

3 進学・勉強時間・成績について

表 170 学年とどの段階まで進学したいかのクロス

		合計	どの段階まで進学したいか							
			(小学 5 年生 中学 2 年生)	高校まで	短大	高等専門学校	専門学校	大学またはそれ以上	まだわからない	不明
全体		3513 100.0%	10 0.3%	308 8.8%	53 1.5%	45 1.3%	367 10.4%	1824 51.9%	882 25.1%	24 0.7%
学年	小学 5 年生	1262 100.0%	8 0.6%	142 11.3%	11 0.9%	24 1.9%	124 9.8%	469 37.2%	466 36.9%	18 1.4%
		1132 100.0%	2 0.2%	108 9.5%	23 2.0%	13 1.1%	126 11.1%	541 47.8%	315 27.8%	4 0.4%
	高校 2 年生	1119 100.0%	0 0.0%	58 5.2%	19 1.7%	8 0.7%	117 10.5%	814 72.7%	101 9.0%	2 0.2%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 171 世帯類型とどの段階まで進学したいかのクロス

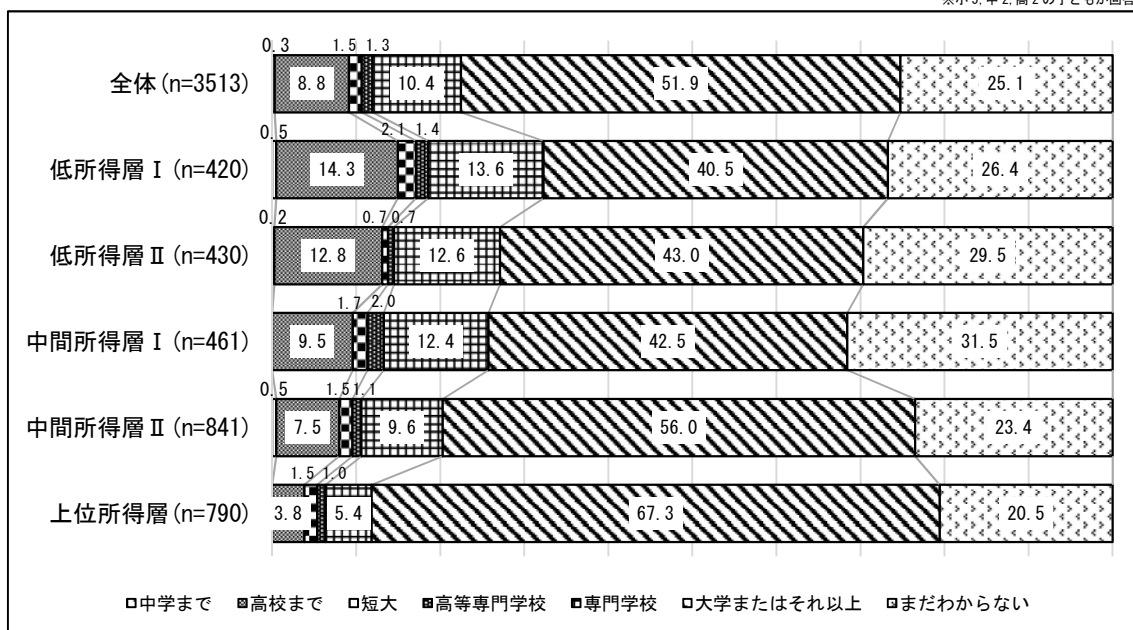
		合計	どの段階まで進学したいか							
			中学まで	高校まで	短大	高等専門学校	専門学校	大学またはそれ以上	まだわからない	不明
全体		3513 100.0%	10 0.3%	308 8.8%	53 1.5%	45 1.3%	367 10.4%	1824 51.9%	882 25.1%	24 0.7%
世帯 類型	ひとり親世帯	496 100.0%	2 0.4%	57 11.5%	7 1.4%	8 1.6%	87 17.5%	211 42.5%	120 24.2%	4 0.8%
		2737 100.0%	7 0.3%	220 8.0%	43 1.6%	33 1.2%	241 8.8%	1499 54.8%	680 24.8%	14 0.5%
	その他世帯	24 100.0%	0 0.0%	2 8.3%	0 0.0%	1 4.2%	3 12.5%	9 37.5%	9 37.5%	0 0.0%
		256 100.0%	1 0.4%	29 11.3%	3 1.2%	3 1.2%	36 14.1%	105 41.0%	73 28.5%	6 2.3%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 172 所得階層とどの段階まで進学したいかのクロス

		合計	どの段階まで進学したいか							
			中学まで	高校まで	短大	高等専門学校	専門学校	大学またはそれ以上	まだわからない	不明
全体		3513	10	308	53	45	367	1824	882	24
		100.0%	0.3%	8.8%	1.5%	1.3%	10.4%	51.9%	25.1%	0.7%
所得階層	低所得層Ⅰ	420	2	60	9	6	57	170	111	5
		100.0%	0.5%	14.3%	2.1%	1.4%	13.6%	40.5%	26.4%	1.2%
	低所得層Ⅱ	430	1	55	3	3	54	185	127	2
		100.0%	0.2%	12.8%	0.7%	0.7%	12.6%	43.0%	29.5%	0.5%
	中間所得層Ⅰ	461	0	44	8	9	57	196	145	2
		100.0%	0.0%	9.5%	1.7%	2.0%	12.4%	42.5%	31.5%	0.4%
	中間所得層Ⅱ	841	4	63	13	9	81	471	197	3
		100.0%	0.5%	7.5%	1.5%	1.1%	9.6%	56.0%	23.4%	0.4%
上位所得層	790	0	30	12	8	43	532	162	3	
	100.0%	0.0%	3.8%	1.5%	1.0%	5.4%	67.3%	20.5%	0.4%	
不明	571	3	56	8	10	75	270	140	9	
	100.0%	0.5%	9.8%	1.4%	1.8%	13.1%	47.3%	24.5%	1.6%	

※小5、中2、高2の子どもが回答



※小5、中2、高2の子どもが回答

進学について、全体で「大学またはそれ以上」を約半数（51.9%）の子どもが選択した。「高校まで」と回答する割合は、全体で8.8%であり、学年が上がるごとにその割合は低くなっている（小5では11.3%、高2では5.2%）（表170）。

ひとり親世帯はふたり親世帯よりも10%以上「大学以上」を希望する割合が少ない（ひとり親世帯では42.5%、ふたり親世帯では54.8%）（表171）。

所得階層ごとにみると、上位 2 層（上位所得層、中間所得層Ⅱ）は低所得層Ⅰ～中間所得層Ⅰに比べて「大学以上」の希望が多い（上位所得層では 67.3%、中間所得層Ⅱでは 56.0%）。一方、低所得層Ⅰ～中間所得層Ⅰにおいても約 4 割の子どもが「大学以上」を希望している（表 172）。

「高校まで」、「専門学校」は上記と逆のパターンを示しており、ひとり親世帯はふたり親世帯よりも「高校まで」、「専門学校」を希望する割合が多く（合わせるとひとり親世帯では 29.0%、ふたり親世帯では 16.8%）、所得階層が高い世帯よりも所得階層が低い世帯ほど「高校まで」、「専門学校」を希望する割合が多い（合わせると低所得層Ⅰでは 27.9%、上位所得層では 9.2%）。

表 173 学年とどの段階まで進学したいかという問いに「高校まで」と答えた理由のクロス

		合計	どの段階まで進学したいかという問いに「高校まで」と答えた理由（※複数回答）													
			希望する学校や職業があるから	自分の成績から考えて	親がそう言っているから	兄・姉がそうしているから	まわりの先輩や友達がそうしているから	家にお金がないと思うから	早く働く必要があるから	よい仕事につけないから	親もその進路を選択しているから	勉強する意味がわからないから	学びたいことがあるから	その他	とくに理由はない	不明
全体		308 —%	116 37.7%	68 22.1%	31 10.1%	16 5.2%	17 5.5%	32 10.4%	34 11.0%	36 11.7%	14 4.5%	21 6.8%	40 13.0%	27 8.8%	68 22.1%	9 2.9%
学年	小学5年生	142 —%	49 34.5%	29 20.4%	7 4.9%	9 6.3%	3 2.1%	10 7.0%	15 10.6%	21 14.8%	7 4.9%	8 5.6%	30 21.1%	18 12.7%	30 21.1%	4 2.8%
	中学2年生	108 —%	41 38.0%	31 28.7%	20 18.5%	5 4.6%	14 13.0%	14 13.0%	12 11.1%	14 13.0%	6 5.6%	9 8.3%	10 9.3%	7 6.5%	26 24.1%	1 0.9%
	高校2年生	58 —%	26 44.8%	8 13.8%	4 6.9%	2 3.4%	0 0.0%	8 13.8%	7 12.1%	1 1.7%	1 1.7%	4 6.9%	0 0.0%	2 3.4%	12 20.7%	4 6.9%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答（表 170～172 の問いに「高校まで」と答えた人のみで集計）

どの段階まで進学したいかという問いに「高校まで」と答えた子どものうちで（308 名）、一番大きな理由は「希望する学校や職業があるから」（37.7%）であった。「自分の成績から考えて」は 2 割ほどで、「親がそう言っているから」、「家にお金がないと思うから」、「早く働く必要があるから」など、家庭の経済状況を反映する理由付けも各 1 割程度見られた（表 173）。

表 174 学年と授業以外の一日あたりの勉強時間（学校がある日）のクロス

		合計	授業以外の一日あたりの勉強時間（学校がある日）（小学 2 年生は保護者が回答）							
			まったくしない	30分未満	30分～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	わからない	不明
全体		4762 100.0%	377 7.9%	1104 23.2%	1465 30.8%	1078 22.6%	489 10.3%	180 3.8%	3 0.1%	66 1.4%
学年	小学 2 年生	1249 100.0%	16 1.3%	497 39.8%	564 45.2%	140 11.2%	15 1.2%	5 0.4%	3 0.2%	9 0.7%
		小学 5 年生	1262 100.0%	46 3.6%	260 20.6%	438 34.7%	325 25.8%	100 7.9%	64 5.1%	0 0.0%
	中学 2 年生	1132 100.0%	90 8.0%	152 13.4%	236 20.8%	362 32.0%	231 20.4%	48 4.2%	0 0.0%	13 1.1%
		高校 2 年生	1119 100.0%	225 20.1%	195 17.4%	227 20.3%	251 22.4%	143 12.8%	63 5.6%	0 0.0%

※小 2 の保護者と小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 175 世帯類型と授業以外の一日あたりの勉強時間（学校がある日）のクロス

		合計	授業以外の一日あたりの勉強時間（学校がある日）（小学２年生は保護者が回答）							
			まったくしない	30分未満	30分～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	わからない	不明
全体		4762 100.0%	377 7.9%	1104 23.2%	1465 30.8%	1078 22.6%	489 10.3%	180 3.8%	3 0.1%	66 1.4%
世帯類型	ひとり親世帯	615 100.0%	77 12.5%	168 27.3%	153 24.9%	127 20.7%	64 10.4%	17 2.8%	0 0.0%	9 1.5%
	ふたり親世帯	3857 100.0%	259 6.7%	879 22.8%	1241 32.2%	886 23.0%	386 10.0%	151 3.9%	3 0.1%	52 1.3%
	その他世帯	28 100.0%	5 17.9%	7 25.0%	8 28.6%	4 14.3%	4 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	不明	262 100.0%	36 13.7%	50 19.1%	63 24.0%	61 23.3%	35 13.4%	12 4.6%	0 0.0%	5 1.9%

※小 2 の保護者と小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 176 所得階層と授業以外の一日あたりの勉強時間（学校がある日）のクロス

		合計	授業以外の一日あたりの勉強時間（学校がある日）（小学2年生は保護者が回答）							
			まったくしない	30分未満	30分～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	わからない	不明
全体		4762 100.0%	377 7.9%	1104 23.2%	1465 30.8%	1078 22.6%	489 10.3%	180 3.8%	3 0.1%	66 1.4%
所得階層	低所得層Ⅰ	560 100.0%	73 13.0%	151 27.0%	158 28.2%	112 20.0%	46 8.2%	13 2.3%	0 0.0%	7 1.3%
	低所得層Ⅱ	603 100.0%	59 9.8%	167 27.7%	203 33.7%	114 18.9%	38 6.3%	16 2.7%	0 0.0%	6 1.0%
	中間所得層Ⅰ	654 100.0%	42 6.4%	160 24.5%	240 36.7%	121 18.5%	60 9.2%	20 3.1%	0 0.0%	11 1.7%
	中間所得層Ⅱ	1139 100.0%	76 6.7%	258 22.7%	357 31.3%	282 24.8%	104 9.1%	49 4.3%	0 0.0%	13 1.1%
	上位所得層	1104 100.0%	56 5.1%	192 17.4%	332 30.1%	293 26.5%	159 14.4%	57 5.2%	1 0.1%	14 1.3%
	不明	702	71	176	175	156	82	25	2	15
		100.0%	10.1%	25.1%	24.9%	22.2%	11.7%	3.6%	0.3%	2.1%

※小2の保護者と小5、中2、高2の子どもが回答

勉強時間について、学校段階が上がるにつれて「全くしない」と答える割合が高くなる（小2では1.3%、高2では20.1%）。それぞれの学校段階で最頻値は、小学生（小2・小5）が「30分～1時間未満」、中学生（中2）、高校生（高2）が「1～2時間」であった（表174）。

ひとり親世帯はふたり親世帯よりも勉強時間が短い傾向にある。例えば、ふたり親世帯と比較すると5～6%ほど「まったくしない」、「30分未満」の割合が高い（合わせるとひとり親世帯では39.8%、ふたり親世帯では29.5%）（表175）。

所得階層が低いほど「全くしない」「30分未満」のカテゴリの割合がやや高くなっている。一方、1時間以上の各カテゴリではこの傾向が逆転し、所得階層が高いほど該当する者の割合がやや高くなっている。中程度の勉強時間（30分～1時間）や長い勉強時間（3時間以上）では、それほど明確な差はみられない（表176）。

表 177 学年と成績がクラス、学年の中でどのくらいだと思うかのクロス

		合計	成績がクラス、学年の中でどのくらいだと思うか					
			よいほう	どちらかというといほう	まんなかあたり	どちらというといくなくほう	よくないほう	不明
全体		3513 100.0%	492 14.0%	716 20.4%	1127 32.1%	575 16.4%	552 15.7%	51 1.5%
学年	小学 5 年生	1262 100.0%	228 18.1%	264 20.9%	463 36.7%	174 13.8%	105 8.3%	28 2.2%
	中学 2 年生	1132 100.0%	121 10.7%	206 18.2%	328 29.0%	206 18.2%	258 22.8%	13 1.1%
	高校 2 年生	1119 100.0%	143 12.8%	246 22.0%	336 30.0%	195 17.4%	189 16.9%	10 0.9%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 178 世帯類型と成績がクラス、学年の中でどのくらいだと思うかのクロス

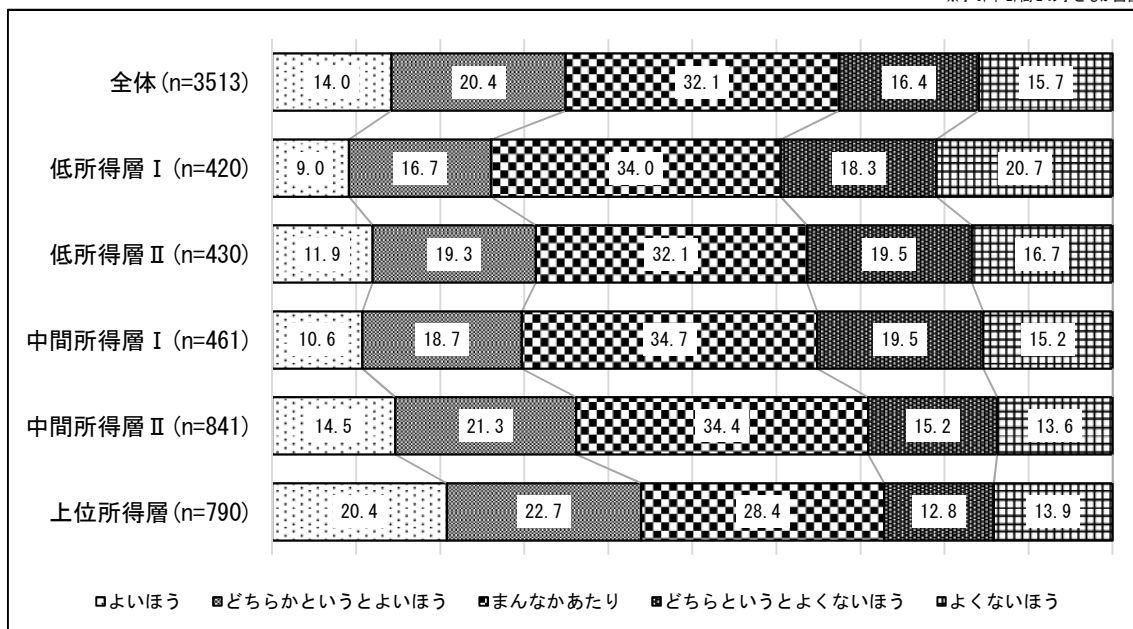
		合計	成績がクラス、学年の中でどのくらいだと思うか					
			よいほう	どちらかというといほう	まんなかあたり	どちらというといくなくほう	よくないほう	不明
全体		3513 100.0%	492 14.0%	716 20.4%	1127 32.1%	575 16.4%	552 15.7%	51 1.5%
世帯類型	ひとり親世帯	496 100.0%	45 9.1%	92 18.5%	145 29.2%	96 19.4%	110 22.2%	8 1.6%
	ふたり親世帯	2737 100.0%	418 15.3%	567 20.7%	892 32.6%	430 15.7%	393 14.4%	37 1.4%
	その他世帯	24 100.0%	1 4.2%	6 25.0%	9 37.5%	4 16.7%	4 16.7%	0 0.0%
	不明	256 100.0%	28 10.9%	51 19.9%	81 31.6%	45 17.6%	45 17.6%	6 2.3%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答

表 179 所得階層と成績がクラス、学年の中でどのくらいだと思うかのクロス

		合計	成績がクラス、学年の中でどのくらいだと思うか				
			よいほう	どちらかというといほう	まんなかあたり	どちらというといくはないほう	よくないほう
全体		3513	492	716	1127	575	552
		100.0%	14.0%	20.4%	32.1%	16.4%	15.7%
所得階層	低所得層Ⅰ	420	38	70	143	77	87
		100.0%	9.0%	16.7%	34.0%	18.3%	20.7%
	低所得層Ⅱ	430	51	83	138	84	72
		100.0%	11.9%	19.3%	32.1%	19.5%	16.7%
	中間所得層Ⅰ	461	49	86	160	90	70
		100.0%	10.6%	18.7%	34.7%	19.5%	15.2%
所得階層	中間所得層Ⅱ	841	122	179	289	128	114
		100.0%	14.5%	21.3%	34.4%	15.2%	13.6%
所得階層	上位所得層	790	161	179	224	101	110
		100.0%	20.4%	22.7%	28.4%	12.8%	13.9%
不明		571	71	119	173	95	99
		100.0%	12.4%	20.8%	30.3%	16.6%	17.3%

※小5、中2、高2の子どもが回答



※小5、中2、高2の子どもが回答

成績の自己認知についての設問であるが、小5で「よいほう」と答える割合が中2、高2に比べて高い傾向が見られた（小5では18.1%、中2では10.7%、高2では

12.8%)。「よくないほう」については、中2が最も高い割合を示した（小2では8.3%、中2では22.8%、高2では16.9%）（表177）。

ふたり親世帯のほうが、ひとり親世帯に比べて「よいほう」に回答する割合が高く（ひとり親世帯では9.1%、ふたり親世帯では15.3%）、「よくないほう」ではひとり親世帯の方が高い傾向にある（ひとり親世帯では22.2%、ふたり親世帯では14.4%）（表178）。

所得階層別では、「よいほう」、「どちらかというとよいほう」と答える割合が所得上位層ほど多い（合わせると低所得層Ⅰでは25.7%、上位所得層では43.0%）（表179）。

4 健康（精神衛生）について

表 180 学年と抑うつ尺度のクロス

		合計	抑うつ尺度		
			一般群	抑うつ群	不明
全体		3513 100.0%	2427 69.1%	1052 29.9%	34 1.0%
学年	小学 5 年生	1262 100.0%	1042 82.6%	208 16.5%	12 1.0%
	中学 2 年生	1132 100.0%	750 66.3%	376 33.2%	6 0.5%
	高校 2 年生	1119 100.0%	635 56.7%	468 41.8%	16 1.4%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答した
選択肢から分類

表 181 世帯類型と抑うつ尺度のクロス

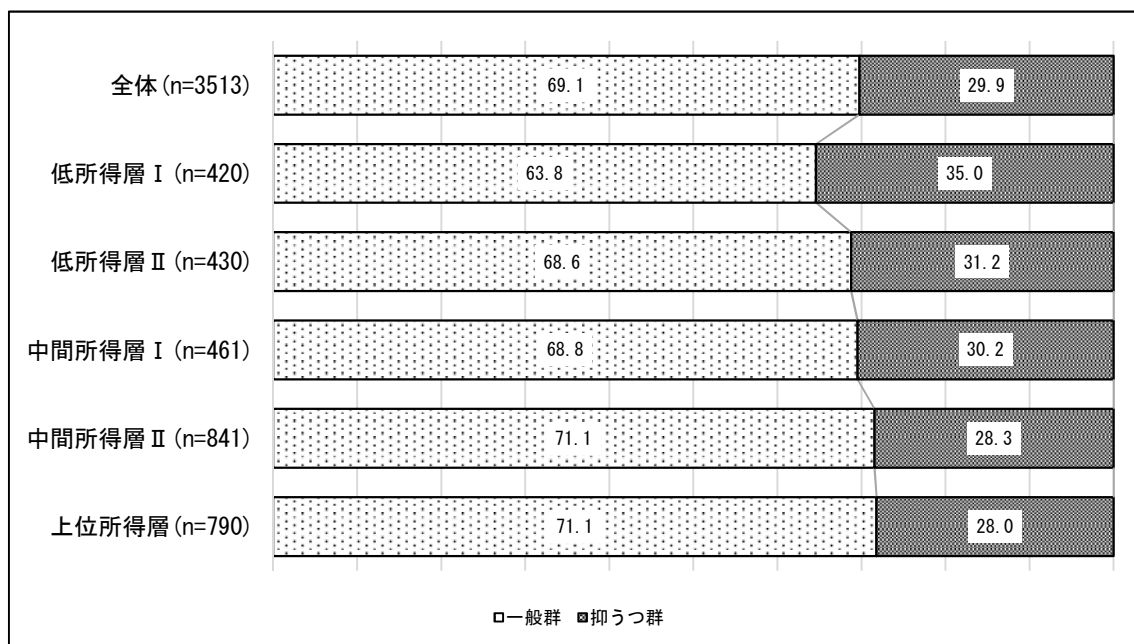
		合計	抑うつ尺度		
			一般群	抑うつ群	不明
全体		3513 100.0%	2427 69.1%	1052 29.9%	34 1.0%
世帯類型	ひとり親世帯	496 100.0%	338 68.1%	154 31.0%	4 0.8%
	ふたり親世帯	2737 100.0%	1904 69.6%	808 29.5%	25 0.9%
	その他世帯	24 100.0%	16 66.7%	8 33.3%	0 0.0%
	不明	256 100.0%	169 66.0%	82 32.0%	5 2.0%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答した
選択肢から分類

表 182 所得階層と抑うつ尺度のクロス

		合計	抑うつ尺度		
			一般群	抑うつ群	不明
全体		3513 100.0%	2427 69.1%	1052 29.9%	34 1.0%
所得階層	低所得層 I	420 100.0%	268 63.8%	147 35.0%	5 1.2%
	低所得層 II	430 100.0%	295 68.6%	134 31.2%	1 0.2%
	中間所得層 I	461 100.0%	317 68.8%	139 30.2%	5 1.1%
	中間所得層 II	841 100.0%	598 71.1%	238 28.3%	5 0.6%
	上位所得層	790 100.0%	562 71.1%	221 28.0%	7 0.9%
	不明	571 100.0%	387 67.8%	173 30.3%	11 1.9%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答した選択肢から分類



※小5、中2、高2の子どもが回答した選択肢から分類

うつとは、気分がふさぎ込む憂うつな状態を表している。今回の調査では、子どもに対し、過去1週間どんな気持であったかを聞く設問に対する回答を点数化している。

今回、子どもを対象に使用した抑うつを測定する尺度は、7点にカットオフ値が設定されており、7点以上を取っていると、心理的な問題が生じる可能性が高くなることを意味している。今回の調査では、この尺度の得点が7点より低かった群を「一般群」、7点以上の群を「抑うつ群」と定義し分析を行った。

まず学年による違いについては、学年が上がるにつれて、抑うつ群の割合が高くなり、一般群の割合が低くなる（抑うつ群が小5では16.5%、高2では41.8%）（表180）。

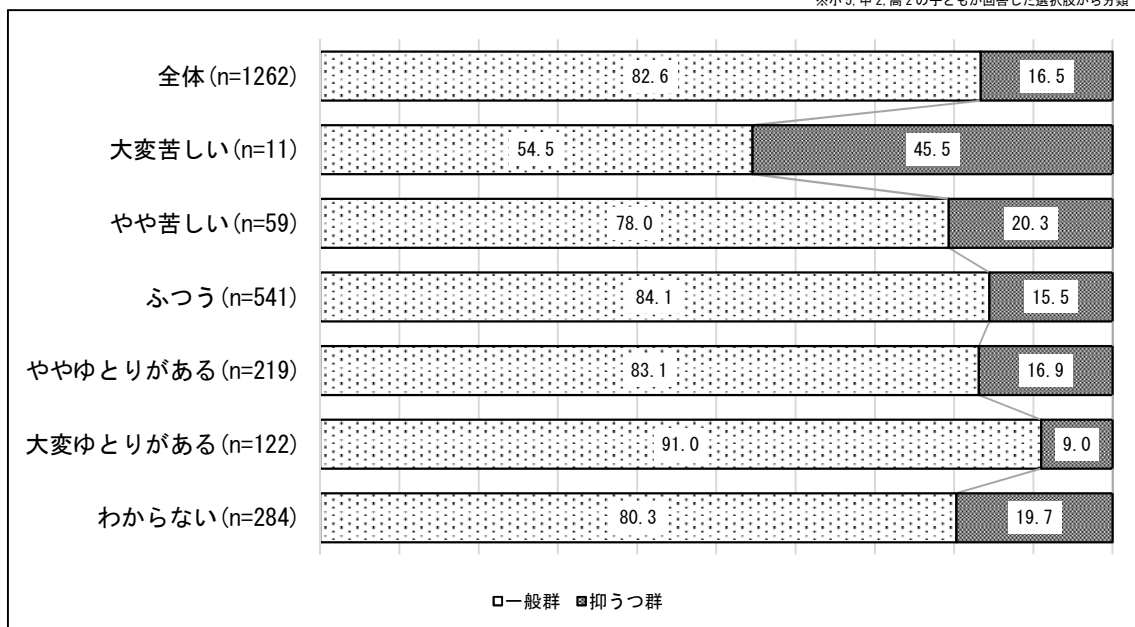
世帯類型別にみると、ひとり親世帯とふたり親世帯で、ほとんど差はみられない（表181）。つまり、世帯類型は、子どもの精神衛生にほとんど影響を与えていないと考えられる。

所得階層別にみると、所得階層が低い層において抑うつ群の割合が若干ではあるが高くなり、一般群の割合が低くなる傾向がみられる（抑うつ群が低所得層Iでは35.0%、上位所得層では28.0%）（表182）。

表 183 自分の家の暮らし向きと抑うつ尺度のクロス（小学5年生）

		合計	分類		
			一般群	抑うつ群	不明
全体		1262	1042	208	12
		100.0%	82.6%	16.5%	1.0%
自分の家の暮らし向き	大変苦しい	11	6	5	0
		100.0%	54.5%	45.5%	0.0%
	やや苦しい	59	46	12	1
		100.0%	78.0%	20.3%	1.7%
	ふつう	541	455	84	2
		100.0%	84.1%	15.5%	0.4%
	ややゆとりがある	219	182	37	0
		100.0%	83.1%	16.9%	0.0%
大変ゆとりがある		122	111	11	0
		100.0%	91.0%	9.0%	0.0%
	わからない	284	228	56	0
		100.0%	80.3%	19.7%	0.0%
不明		26	14	3	9
		100.0%	53.8%	11.5%	34.6%

※小5、中2、高2の子どもが回答した選択肢から分類

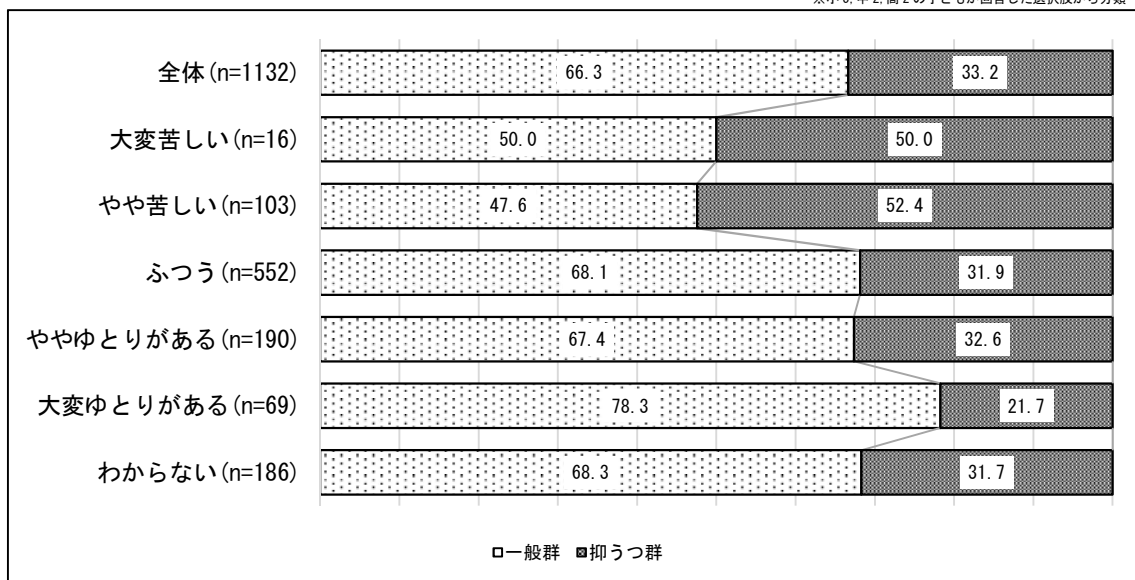


※小5、中2、高2の子どもが回答した選択肢から分類

表 184 自分の家の暮らし向きと抑うつ尺度のクロス（中学 2 年生）

		合計	分類		
			一般群	抑うつ群	不明
全体		1132	750	376	6
		100.0%	66.3%	33.2%	0.5%
自分の家の暮らし向き	大変苦しい	16	8	8	0
		100.0%	50.0%	50.0%	0.0%
	やや苦しい	103	49	54	0
		100.0%	47.6%	52.4%	0.0%
	ふつう	552	376	176	0
		100.0%	68.1%	31.9%	0.0%
	ややゆとりがある	190	128	62	0
		100.0%	67.4%	32.6%	0.0%
大変ゆとりがある		69	54	15	0
		100.0%	78.3%	21.7%	0.0%
	わからない	186	127	59	0
		100.0%	68.3%	31.7%	0.0%
不明		16	8	2	6
		100.0%	50.0%	12.5%	37.5%

※小 5, 中 2, 高 2 の子どもが回答した選択肢から分類

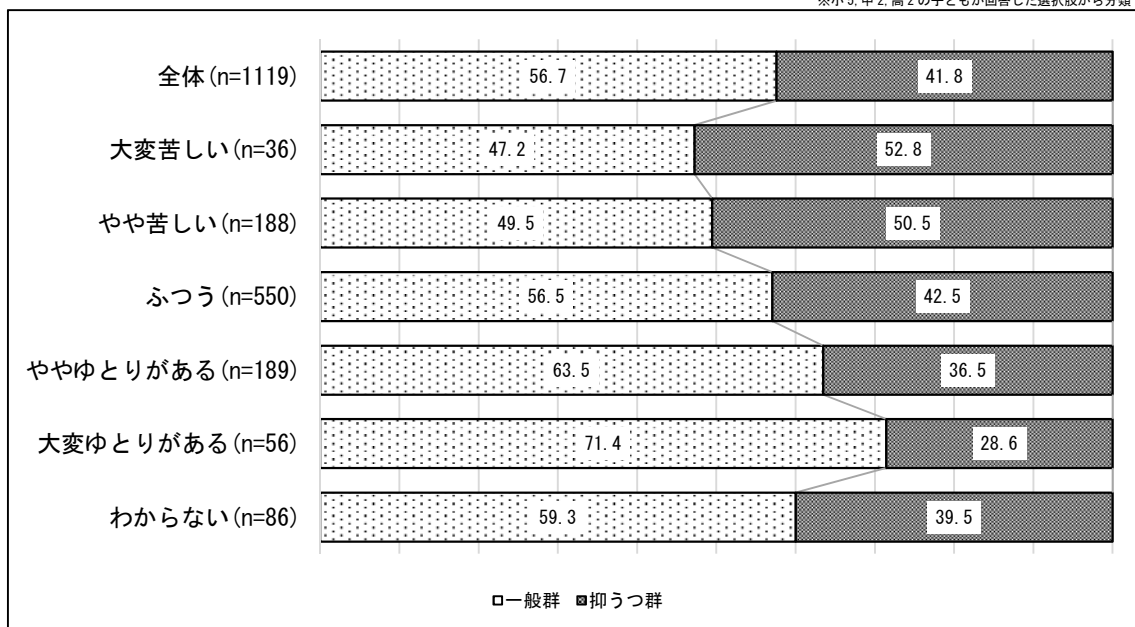


※小 5, 中 2, 高 2 の子どもが回答した選択肢から分類

表 185 自分の家の暮らし向きと抑うつ尺度のクロス（高校 2 年生）

		合計	分類		
			一般群	抑うつ群	不明
全体		1119	635	468	16
		100.0%	56.7%	41.8%	1.4%
自分の家の暮らし向き	大変苦しい	36	17	19	0
		100.0%	47.2%	52.8%	0.0%
	やや苦しい	188	93	95	0
		100.0%	49.5%	50.5%	0.0%
	ふつう	550	311	234	5
		100.0%	56.5%	42.5%	0.9%
	ややゆとりがある	189	120	69	0
		100.0%	63.5%	36.5%	0.0%
大変ゆとりがある		56	40	16	0
		100.0%	71.4%	28.6%	0.0%
	わからない	86	51	34	1
		100.0%	59.3%	39.5%	1.2%
不明		14	3	1	10
		100.0%	21.4%	7.1%	71.4%

※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答した選択肢から分類



※小 5、中 2、高 2 の子どもが回答した選択肢から分類

表 183～185 は、学年別に自分の家の暮らし向きの認知と抑うつとの関係を見たものである。自分の家の暮らし向きを苦しいと感じている者のほうが、抑うつ群に該当する者の割合が高くなる傾向が見られるが、特に中学生・高校生においてその傾向が顕著である。

5 家族のお世話について

表 186 学年と家族の中のお世話が必要な人のお世話は誰がしているかのクロス

		合計	家族の中のお世話が必要な人のお世話は誰がしているか（※複数回答）									
			母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	しんせきの人	自分	福祉サービス（ヘルパー）などを利用	その他	不明
全体		201 —	131 65.2%	84 41.8%	37 18.4%	18 9.0%	54 26.9%	19 9.5%	89 44.3%	35 17.4%	8 4.0%	9 4.5%
学 年	中学 2 年生	114 —	72 63.2%	54 47.4%	27 23.7%	10 8.8%	33 28.9%	9 7.9%	49 43.0%	21 18.4%	5 4.4%	6 5.3%
	高校 2 年生	87 —	59 67.8%	30 34.5%	10 11.5%	8 9.2%	21 24.1%	10 11.5%	40 46.0%	14 16.1%	3 3.4%	3 3.4%

※中 2、高 2 の子どものうち、家族の中にお世話が必要な人がいると回答した人が回答

表 187 世帯類型と家族の中のお世話が必要な人のお世話は誰がしているかのクロス

		合計	家族の中のお世話が必要な人のお世話は誰がしているか（※複数回答）									
			母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	しんせきの人	自分	福祉サービス（ヘルパー）などを利用	その他	不明
全体		201 —	131 65.2%	84 41.8%	37 18.4%	18 9.0%	54 26.9%	19 9.5%	89 44.3%	35 17.4%	8 4.0%	9 4.5%
世帯類型	ひとり親世帯	36 —	18 50.0%	6 16.7%	5 13.9%	5 13.9%	9 25.0%	5 13.9%	19 52.8%	7 19.4%	0 0.0%	2 5.6%
	ふたり親世帯	152 —	102 67.1%	73 48.0%	29 19.1%	13 8.6%	41 27.0%	13 8.6%	65 42.8%	27 17.8%	8 5.3%	6 3.9%
	その他世帯	3 —	3 100.0	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	不明	10 —	8 80.0%	3 30.0%	3 30.0%	0 0.0%	2 20.0%	1 10.0%	4 40.0%	1 10.0%	0 0.0%	1 10.0%

※中 2、高 2 の子どものうち、家族の中にお世話が必要な人がいると回答した人が回答

表 188 所得階層と家族の中のお世話が必要な人のお世話は誰がしているかのクロス

		合計	家族の中のお世話が必要な人のお世話は誰がしているか（※複数回答）									
			母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	しんせきの人	自分	福祉サービス（ヘルパー）などを利用	その他	不明
全体		201 —	131 65.2%	84 41.8%	37 18.4%	18 9.0%	54 26.9%	19 9.5%	89 44.3%	35 17.4%	8 4.0%	9 4.5%
所得階層	低所得層Ⅰ	28 —	16 57.1%	7 25.0%	7 25.0%	1 3.6%	5 17.9%	3 10.7%	12 42.9%	5 17.9%	1 3.6%	2 7.1%
	低所得層Ⅱ	40 —	31 77.5%	18 45.0%	5 12.5%	4 10.0%	12 30.0%	5 12.5%	21 52.5%	5 12.5%	1 2.5%	2 5.0%
	中間所得層Ⅰ	26 —	17 65.4%	13 50.0%	6 23.1%	4 15.4%	7 26.9%	1 3.8%	13 50.0%	6 23.1%	3 11.5%	0 0.0%
	中間所得層Ⅱ	53 —	35 66.0%	26 49.1%	10 18.9%	5 9.4%	18 34.0%	4 7.5%	24 45.3%	10 18.9%	0 0.0%	2 3.8%
	上位所得層	28 —	16 57.1%	11 39.3%	5 17.9%	2 7.1%	7 25.0%	5 17.9%	9 32.1%	5 17.9%	2 7.1%	0 0.0%
	不明	26 —	16 61.5%	9 34.6%	4 15.4%	2 7.7%	5 19.2%	1 3.8%	10 38.5%	4 15.4%	1 3.8%	3 11.5%

※中2、高2の子どものうち、家族の中にお世話が必要な人がいると回答した人が回答

中2、高2の子どものうち、家族の中にお世話が必要な人がいると回答した人を対象に、お世話をだれがしているかという質問を行った。選択肢から複数を選択する設問であるが、「自分」と回答した割合は、44.3%と4割を上回っている。

また、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ高く（ひとり親世帯では52.8%、ふたり親世帯では42.8%）、所得階層ごとにみるとばらつきがあるが、上位所得層が32.1%と最も低い（表187、表188）。

なお、表中に表していないが、今回の調査において中2、高2の子ども全てを母数とすると、お世話を自分がしていると回答した割合は中2では4.3%で、高2では3.6%である。

表 189 学年とお世話によりあなた自身の生活に問題が生じているかのクロス

		合計	お世話によりあなた自身の生活に問題が生じているか				
			問題ない	あまり問題ない	少し問題がある	かなり問題がある	不明
全体		89 100.0%	45 50.6%	28 31.5%	11 12.4%	4 4.5%	1 1.1%
学年	中学 2 年生	49 100.0%	26 53.1%	17 34.7%	3 6.1%	3 6.1%	0 0.0%
	高校 2 年生	40 100.0%	19 47.5%	11 27.5%	8 20.0%	1 2.5%	1 2.5%

※中 2、高 2 の子どものうち、家族の中のお世話が必要な人のお世話を自分がしていると回答した人が回答

表 190 世帯類型とお世話によりあなた自身の生活に問題が生じているかのクロス

		合計	お世話によりあなた自身の生活に問題が生じているか				
			問題ない	あまり問題ない	少し問題がある	かなり問題がある	不明
全体		89 100.0%	45 50.6%	28 31.5%	11 12.4%	4 4.5%	1 1.1%
世帯 類型	ひとり親世帯	19 100.0%	8 42.1%	7 36.8%	3 15.8%	1 5.3%	0 0.0%
	ふたり親世帯	65 100.0%	36 55.4%	19 29.2%	7 10.8%	2 3.1%	1 1.5%
	その他世帯	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	不明	4 100.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%

※中 2、高 2 の子どものうち、家族の中のお世話が必要な人のお世話を自分がしていると回答した人が回答

表 191 所得階層とお世話により自身の生活に問題が生じているかのクロス

		合計	お世話により自身の生活に問題が生じているか				
			問題ない	あまり問題ない	少し問題がある	かなり問題がある	不明
全体		89	45	28	11	4	1
		100.0%	50.6%	31.5%	12.4%	4.5%	1.1%
所得階層	低所得層Ⅰ	12	7	3	2	0	0
		100.0%	58.3%	25.0%	16.7%	0.0%	0.0%
	低所得層Ⅱ	21	10	8	2	1	0
		100.0%	47.6%	38.1%	9.5%	4.8%	0.0%
	中間所得層Ⅰ	13	7	5	0	0	1
		100.0%	53.8%	38.5%	0.0%	0.0%	7.7%
	中間所得層Ⅱ	24	13	6	4	1	0
		100.0%	54.2%	25.0%	16.7%	4.2%	0.0%
	上位所得層	9	2	4	2	1	0
		100.0%	22.2%	44.4%	22.2%	11.1%	0.0%
	不明	10	6	2	1	1	0
		100.0%	60.0%	20.0%	10.0%	10.0%	0.0%

※中2、高2の子どものうち、家族の中のお世話が必要な人のお世話を自分がしていると回答した人が回答

家族の中のお世話が必要な人のお世話を自分がしていると回答した人を対象に、お世話により自身の生活に問題が生じているかという質問をした。

「少し問題がある」「かなり問題がある」と回答した割合は、全体で 16.9%である。また、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べ高く（ひとり親世帯で 21.1%、ふたり親世帯で 13.8%）（表 190）、所得階層ごとにみるとばらつきがあるが、上位所得層が 33.3%と最も高い（表 191）。

ただし、母数が 89 人と少数であることに注意が必要と考えられる。

自由記載欄について

今回のアンケートでは、保護者に対しては制度やサービス、支援策についての意見や要望を記載してもらった。

また、子どもに対しては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響についてと、アンケート自体の感想、学校社会のことについての意見や要望を記載してもらった。

以下、アンケート対象と項目ごとに意見・要望の内容をまとめた。

1 制度やサービス、支援策について、利用してよかったこと、不満に思ったり困ったりしたこと、その他感想や要望、意見（保護者の自由記載欄）

◆ 2 歳児・5 歳児の保護者回答まとめ

- ・0～2 歳までの保育料が無償ではないこと、児童手当が 3 歳から減額になることや、児童手当・医療費補助に所得制限があることへの声が寄せられた。
- ・希望する保育園に入園できないなど、就労する際の預け先が決まらないことについて意見があった。
- ・一時預かりサービスの利用を希望したが空きがない状況だったことやどのサービスが受けられるか分からず、利用を諦めざるを得なかった方がいた。
- ・新型コロナウイルスの影響により行き場をなくし孤独を感じている方や、コロナの影響で勤務時間が短くなったり保育園が休園になったりした時の補償が足りないことに困っていた方がいた。
- ・発達が気になる子どもやその保護者のサポート、支援機関の連携や予約の取りづらさへの声が寄せられた。

◆ 小学 2 年生の保護者回答まとめ

- ・子どもの発達について相談できる場所が分からないことや、予約・来所まで時間がかかることについての意見があった。
- ・児童手当・医療費・就学援助の所得制限や、その判断（年度区切り、同居による生計の計算など）について不満の声があった。
- ・新型コロナウイルスの影響による子どもの遊び場の制限や、児童会館の来館制限による仕事への支障について不満の声があった。

◆ 小学 5 年生・中学 2 年生の保護者回答まとめ

- ・児童手当・就学援助の所得制限や、中学までで援助が終了すること、医療助成が小学校 6 年生で終了することについての不満の意見があった。
- ・利用できる制度・サービス・支援が分からない広報不足や、手続きの煩雑さについての意見があった。
- ・学習支援の利用を希望しているものの、仕事や心理的ハードル等でアクセスできていない方がいた。
- ・不登校生徒の学習支援や居場所の少なさについての意見があった。
- ・発達障害や、グレーゾーンのお子さんについて相談先がわからなかったり、相談してもサポートが得られなかったりしたことへの意見があった。
- ・スクールカウンセラーや相談機関の予約の取りにくさや、窓口が平日しか空いていないことへの不便さを感じ、SNS や LINE などに対面せずに気軽に相談できるサービスを希望する意見があった。
- ・母子家庭・父子家庭への支援の少なさ、生活の苦しさについて意見があった。
- ・新型コロナウイルスの影響による支出の増加や、休校になった場合のサポート不足についての意見があった。

◆ 高校 2 年生の保護者回答まとめ

- ・高等学校等就学支援金が世帯年収によって受けられないことや、私立高校の授業料の負担の重さ、交通費や食費の負担の重さについて意見があった。
- ・高校生・大学生に対する支援が少なく、大学進学のための経済的負担の重さや、経済的理由で子どもに進学を諦めてもらうしかない状況についての意見があった。
- ・相談窓口が分からないことや、自ら申請しないと給付金が受け取れないが教えてもらえなかったという意見があった。
- ・母子家庭で収入が上がると、生活は苦しいのに支援の対象外となることについて不満の声があった。

2 新型コロナウイルスの感染症の感染拡大によって、あなたの生活に何か影響があったか。もしあれば、どんな影響があったか。(子どもの自由記載欄)

◆ 小学 5 年生の回答まとめ

- ・休校時の生活リズムの乱れや、ゲーム時間の増加、運動不足を不安に思う声があった。

- ・休校時やオンライン授業時の学習に大変さを感じている児童がいた。
- ・友達と遊ぶ機会の減少や、給食中の黙食、クラブ活動や習い事の活動時間の減少によって、コミュニケーションが不足していることを不安に思う声があった。
- ・運動会や学習発表会等の行事の延期や規模縮小を残念に思う児童がいた。
- ・マスク着用に苦しさを感じていたり、表情が見えないことで気持ちが伝わらないように感じていたりする声があった。
- ・コロナ感染を恐れて自分の意志で休む児童や、休みたいと思っているのに休めないことを不安に思う児童がいた。
- ・コロナの影響で精神的に不安な気持ちになっている児童がいた。

◆ 中学 2 年生の回答まとめ

- ・外出制限や行事の中止によって、友達をつくったり、仲を深めたりすることに難しさを感じる声があった。
- ・外出制限により運動不足になる生徒や、家族の雰囲気悪化に不安を感じている生徒がいた。
- ・休校や、家族のコロナウイルス感染によって、勉強に不安を抱える声があった。
- ・旅行に行けないことや、部活や学校行事の中止・延期など、楽しみだったことができなくなったことに対してつらさを感じる声が多くみられた。
- ・マスクの苦しさや、表情の読めなさを訴える声がある一方で、人前でマスクを外すことに恥ずかしさや恐怖を感じる生徒もいた。

◆ 高校 2 年生の回答まとめ

- ・修学旅行などの学校行事の延期や中止によって、学生生活の思い出や青春の時間を奪われたことに対する不満や怒りの声がみられた。
- ・外出制限や行事の中止によって、友達をつくったり、仲を深めたりすることに難しさを感じる声があった。
- ・保護者の収入の減少や、在宅による家族関係の悪化についての意見があった。
- ・オンライン授業や休校による学習進度の遅れを不安に思う声や、逆に進度が早すぎてついていけないことを不安に思う声があった。
- ・マスクの苦しさや、表情の読めなさを訴える声がある一方で、人前でマスクを外すことに恥ずかしさや恐怖を感じる生徒もいた。

3 このアンケートの感想、学校や社会のことについての意見や要望（子どもの自由記載欄）

◆ 小学5年生の回答まとめ

- ・将来の医療費や進学費用など、経済的な心配を抱えている児童がいた。
- ・学校の先生に対する不満の声があった。特に、学校の先生が男女差別をしているとの声があった。
- ・いじめに対する学校の早い対応を求める声があった。
- ・アンケートに匿名で自分の意見を書くことで振り返りの機会になり、スッキリしたという声がある一方で、アンケートの長さや難しさについての指摘もあった。

◆ 中学2年生の回答まとめ

- ・いじめ対策や、不登校・別室登校生徒の居場所づくり、学習支援についての要望があった。
- ・高校・大学の経済的支援や、ひとり親家庭、子育て世代への支援についての要望があった。
- ・性別に関する平等を求める意見があった。
- ・コロナウイルスについて、子どもは我慢しているのに対して、危機管理の薄い大人がいることに対する意見があった。
- ・髪型などの校則や、学校の設備、ICT機器の活用方法の改善を求める声がみられた。
- ・アンケートについて好意的な意見がある一方で、このアンケートが本当に子どものためになるのか実施の意味を問う意見もあった。

◆ 高校2年生の回答まとめ

- ・このアンケート以外にも、子どもが学校や市・北海道への要望を書き、改善につなげるアンケートを定期的に行なうことの要望があった。
- ・冷暖房、トイレなど、学校設備の格差を改善してほしいという要望があった。
- ・正当な理由がない校則をなくしてほしいという意見や、先生の差別的発言についての意見がみられた。
- ・コロナ禍において行事が開催できなかったことへの不満の声があった。
- ・大学進学にかかる費用の軽減や、奨学金等の知識をつける場の開催についての要望があった。

支援者ヒアリング 実施結果

1 ヒアリングによる意見の概要

※ 下線部は経済的問題、はく奪にかかわる事項

①支援対象となる家庭の保護者の状況や課題等	◆保護者自身の精神疾患、知的障害、発達障害等を抱えている ・能力的な問題等により、申請手続きができない ・健康面の不調により就労できず、<u>経済的に困窮している</u> ◆保護者自身が何らかの問題や困難を抱えている ・基本的な生活習慣が身についていない ・<u>就労が続かない、職を転々とする</u> ・子どもの教育への関心が低い ・余裕がない、子どもに手が回らない ◆子どもへの接し方、子育ての仕方がわからない ・子育てのモデルがない ・自分の子育てに自信がない ◆孤立、相談する相手がいない ・どこに相談してよいのかわからないなどの理由で周囲に助けを求めない ・相談することへの抵抗感、行政への不信感がある ・親兄弟と関係が悪い、友人関係も希薄で、相談する相手がいない ・問題は家族で抱え込む傾向が強く、ぎりぎりまで相談しない。
②支援対象となる家庭の子どもの状況や課題等	◆子ども自身の発達の遅れ、疾患、学習関係等 ・発達に偏りがあるなど育てにくさがある ・学習面での遅れがある ・<u>自宅に集中して勉強することができる場所がない</u> ◆生活上の問題 ・基本的な生活習慣が身についていない ・生活リズムが乱れている ・家庭生活上で学ぶべき一般常識を教えられていない ◆情緒の不安定さや愛着の問題 ・感情のコントロールが苦手、自分の考えていることが表現できない ・不安が高い、情緒的に幼い、自信がない ◆自己肯定感の低さ、未来への夢や希望の持ちにくさ ・保護者から認められるという経験が少なく、関わる大人から自分を認めてもらいたいという気持ちが強い ・身近にモデルとなる大人がおらず将来に夢と希望を抱きにくい
③世帯が抱える課題等	◆世帯形態 ・ひとり親、多子世帯、保護者の一方が疾病を抱えている等の世帯が多い ◆抱える問題等 ・母子世帯では、母親が働いている割合が高いものの、収入は低く生活に困窮する例が多い ・保護者の生育環境に問題があり、問題解決ができず貧困が連鎖している ・親子が共依存関係になっており、互いに離れること、離すことが難しい ・<u>金銭管理ができず、子どもに必要なお金の確保ができない</u> ・<u>子どもの進学タイミングで金銭に困る世帯がある</u>

④支援にあたっての課題等	◆相談支援体制における課題 ・顕在化していないが困難を抱える世帯を繋げる先がない ◆相談支援機関における適切な人材の確保 ・行政の相談対応を行う職員が有資格者ではない ◆相談支援機関に対するイメージ ・相談することへの心理的ハードルが高い人をキャッチできていない ・支援者が変わると関係が切れてしまう ◆連携体制の強化 ・市民団体や NPO と行政の繋がりが薄い ◆居場所の確保 ・学習支援の数が少なく、利用者の選択肢が限定されている ・小学生向けの学習支援が、ひとり親を対象にしたものしかない ・子ども食堂の数が不足している。 ◆進学や就職にかかる支援 ・大学進学時の奨学金の枠が狭い
⑤今後必要となる支援	◆妊娠・出産期から就学前まで支援 ・保育所での保護者の相談対応を専門に行う人が必要 ・相談に行くことができない人へのアウトリーチ支援を充実させるべき ◆将来の自立に向けた支援 ・給付型の奨学金の増 ・社会的養護下にある子どもの自立への支援 ・ステップアップホームのような、ひとり暮らしを経験できるような施設があるとよい ◆子どもの居場所の広がり ・自分の家族とは違う大人との交流、家庭ではできない体験機会、居場所 ・誰でも利用できる居場所、学習支援の場 ◆気づき・つなぐ支援体制と見守り・支える暖かい地域環境を整える ・窓口への同行などの寄り添い型の支援 ・話す相手がいない人に対してただ話を聞いてくれるだけの人がいるとよい
⑥新型コロナウイルス感染症拡大の影響	・外出できない期間が長期間に及び、保護者も子どもストレスが高まった ・子どもの生活リズムが崩れ、登校への意欲が低下した ・親子で過ごす時間が長くなったことにより、親子間での緊張感が高まった ・相談内容の傾向に大きな変化はなかった

2 ヒアリングによる意見の詳細まとめ

(1) 支援対象となる家庭の保護者の状況や課題について

複数の支援者から、保護者自身の生育歴が複雑であり、一般的な家庭生活を経験して育っていないことから、子どもへの関わり方がわからない方や、目の前の出来事に追われており、将来を見通した動きをとることができない方を支援することが多いといった話が聞かれた。また、保護者が精神疾患等を抱えており、生活に支障をきたしている家庭も多い。

- ◆保護者自身が精神疾患、知的障害、発達障害、アルコール等の依存性の障害、傷病等を抱えている
 - ・精神疾患を持っている母が、産後うつになり、施設に預けるケースが増えている。
 - ・自身の障害受容ができず、子どもに責任を課し、虐待行為に及ぶ例もある。
 - ・能力的な問題等により、書類を書くことが出来ない、様々な申請手続きができない。
 - ・DV 被害の経験があり、精神的に不調になっている。
 - ・健康面の不調により就労できず、経済的に困窮している。
 - ・子どもだけではなく保護者自身も発達の問題を抱えている世帯がある。
- ◆保護者自身が何らかの問題や困難を抱えている
 - ・被虐待経験がある、貧困家庭に育った等、生育歴が複雑。
 - ・身体的暴力だけでなく、経済的な DV 被害を受けている。
 - ・基本的な生活習慣が身についていない。
 - ・就労が続かない。職を転々とする。
 - ・保護者自身の経験から、子どもの登校・進学などの教育への関心が低い。
 - ・子育てに追われており、余裕がない。
 - ・保護者自身、家庭自体が困っており、子どもに手が回らない。
 - ・積み重ねてきた努力が報われるという経験をしていない。
 - ・刹那的で長いスパンで物事を考えられない。
 - ・偏りのある育児観を持っている。
- ◆子どもへの接し方がわからない、子育ての仕方がわからない
 - ・母自身の養育環境が悪く、子育てのモデルがいらないため、子育ての仕方がわからない。
 - ・食材から食事を作って食べるという経験をしてきていないため、調理ができない。レトルトの離乳食を買うので生活費が足りなくなる。
 - ・母自身が子どものころに親から褒められた経験がなく、子どもを褒めることができない。
 - ・母子世帯の母には、子育てに自信がない方が多い。
- ◆孤立、相談する相手がいない
 - ・どこに相談してよいのかわからず、自ら SOS を出すことができない。また、相談することでよい変化や結果が得られた経験のない方は自ら SOS を出さない。
 - ・対人関係を築きにくい。
 - ・自分の立場に不安を感じていたり、周囲の偏見の目に晒されていると感じている。
 - ・行政への不信感が強い。

- ・親きょうだいとの関係が悪かったり、友人関係も希薄であり、子育てをする上で相談する相手がいない。
- ・家族の問題は家族で抱え込もうとする傾向が強く、生活が破綻するぎりぎりまで相談しない。

(2) 支援対象となる家庭の子どもの状況や課題について

前回調査と同様に、教育現場、社会福祉の現場等の支援者から、支援を必要とする家庭の子どもの中には発達障害であったり、あるいは、発達障害様の行動特徴を呈する場合も多いといった話が聞かれた。

支援者が関わる子どもたちは、他者から自身を認められるという経験に乏しく、自信のなさ、不安の高さ、情緒の不安定さなど、主に環境に起因する情緒的な影響が見られる場合も多いとのことだった。また、身近にモデルとなる大人がおらず、将来に夢や希望を抱くことができにくい傾向が見られるとの意見も多くあった。

◆発達遅れ、疾患等を抱えている

- ・発達に偏りがあるなど育てにくさがある。
- ・発達に偏りに起因して、不登校になることもある。
- ・身体的な不調を訴える。
- ・健診未受診や予防接種を受けていない子もいる。

◆学力が低い、学習意欲が乏しい、学習環境が整っていない

- ・基本的な生活習慣を含め、義務教育期間中に身に着けるべきことが身につけていない。
- ・不登校が長期間にわたって継続しており、学習面が遅れている。
- ・自宅に集中して勉強することができる場所がない。

◆生活上の問題がある

- ・髪が伸びている、衣服が汚い、むし歯で歯がないなど、ネグレクトの傾向が見られる。
- ・基本的な生活習慣が身につけていない、生活リズムが乱れている。
- ・家庭生活の中で学ぶべき、一般常識を教えられてきていない。
- ・親やきょうだいの面倒を見ているヤングケアラーの子どももいる。

◆情緒の不安定さや愛着の問題を抱えている

- ・感情のコントロールが苦手、自分の考えていることが表現できない。
- ・どのように感情を表出してよいか分からない。他者と適切な距離をとれない。
- ・自分がどのように振舞えば大人からかわいがってもらえるのかを考え、相手によって態度を変える子どもがいる。
- ・不安が高い、情緒的に幼い、自信がない。
- ・発達障害があり、人の気持ちを汲むことができない、共感性が低い。

- ・自分のことを認めてもらうという経験をあまりしていないので、人との関わりを閉ざしてしまっている。
- ・満たされていない、幸福感が薄い、自信がないなどの印象を受ける。
- ・コミュニケーションに問題を抱えていることも多い。

◆自己肯定感が低く、未来に夢や希望を持つことができない

- ・保護者から認めてもらえた経験が少なく、関わる大人から自分を認めてもらいたいという気持ちが強い。
- ・自分のことを認めてもらうという経験をあまりしていないので、人との関わりを閉ざしてしまっている。
- ・疾患等を抱える保護者との関係性の中でしか自分の存在価値を見出せなくなっており、家から離れることができない。
- ・保護者以外にモデルとなる大人がいない。
- ・生活保護世帯では、親が働いていない場合でもお金が毎月定期的に入ってくるため、貧困家庭から抜け出したい、という気持ちが育ちにくい。
- ・貧困の連鎖を断ち切ったモデルケースを知る機会がなく、将来にチャレンジしてみたいという気持ちになれない。
- ・家庭からの支援が得られない。

(3) よく見られる世帯形態、世帯が抱える問題等

ひとり親、多子世帯、父母の一方に疾患があるなど、収入が安定しておらず、経済的な困窮に至っている世帯が多い。支援対象となる世帯は、計画性や問題解決能力が低く、子どもの進学など必要なお金を確保できないこともあるとの話が多く聞かれた。

◆世帯形態

- ・母子家庭、父子家庭。
- ・生活保護受給世帯。
- ・生活保護受給には至っていないが、経済的に困窮している世帯。
- ・多子でパートナーが次々と変わる世帯。
- ・父母は揃っているが、一方に疾患がある。
- ・若年で妊娠・出産している。
- ・特定妊婦。
- ・ステップファミリー。

◆抱える問題等

- ・母子世帯においては、母親が働いている割合が高いものの、収入は低く生活に困窮する例が多い。
- ・何世代にもわたって経済的困窮にあり、社会的扶養を受けることに特別な感情がなく、当たり前と考えている。
- ・保護者自身の生育環境に問題があり、子どもの問題解決ができず貧困が連鎖している。
- ・親子が共依存関係になっており、子は親から離れることができないし、親も子どもを離さない。
- ・職を転々とし、収入が安定しない。
- ・金銭管理ができず、公共料金等の必要な支払いができなくなったり、子どもに必要なお金を確保できない。子どもの進学タイミングで金銭的に困る世帯がある。

(4) 支援における課題

相談支援体制については、相談につながりにくい理由として、支援者が変わると関係が切れてしまうことや、相談者にマッチする支援ができていないこと、行政への不信感などが指摘されている。人材の確保については、前回調査から引き続き、職員の資質の向上の問題を指摘する意見が多く挙げられた。また、地域の居場所や学習支援の場について、利用できる対象者を広げたり、数を増やす必要があるとの意見も多くあった。

◆相談支援体制における課題

- ・行政の支援制度は、申請から開始まで時間がかかる。
- ・札幌市にはたくさんの相談支援の事業があるが、どこに相談すべきかわからない。
- ・母子保健、福祉など、支援が分野で分けられている。
- ・不適切な養育環境で育った母は、子育ての仕方がわからないが、体験的に教えてくれる場が少ない。
- ・ヤングケアラーや貧困世帯のように、虐待通告までいたらないなど、顕在化していなかったが困難を抱える世帯を繋げる先がない。

◆相談支援機関における適切な人材の確保

- ・専門職を活かす雇用形態になっていない。
- ・相談対応する職員が有資格者ではない。
- ・保育園での保護者の相談対応を専門に行う人がおらず、保育士が対応せざるを得ない状況になっている。
- ・人事異動等で対応する職員が変わり、支援が途切れてしまう。
- ・学校は、子どもを支援する機関ではあるものの相談支援の専門機関ではないため、対応に苦慮することがある。また、どこの機関につながればよいのかもわからないことがある。

◆相談支援機関に対するイメージ

- ・相談に来られない人は、相談することへの心理的ハードルが高い。そのような方々をキャッチすることができていない。
- ・シングルマザーや若年層の母が子育てに問題を抱えていることが多いが、本人たちも支援を嫌がることもあり、支援に繋げることが難しい。
- ・相談者は、人に繋がるものなので、支援者が変わると関係が切れてしまうこともある。
- ・特定妊婦は、被虐待経験がある方が多く、これまでの経験から児童相談所に拒否感を持っている方が多い。
- ・若年女性の中には大人を信用することができない方もおり、相談に来るように勧めてもなかなか繋がらない。

◆連携体制の強化

- ・幼少期の相談歴（どこに相談したか）や生育歴等を関係機関で共有できるシステムがない。
- ・市民団体やNPOと行政の繋がりが薄い。
- ・18歳以降の子ども・若者についても児相と連携ができるとよい。
- ・民間団体同士の信頼関係はとても重要で、連携が難しいときは、行政に仲介に入ってもらいたい。

◆居場所の確保

- ・学習支援の場の数が少なく、利用者の選択肢が限られている。
- ・小学生向けの学習支援が、ひとり親を対象にしたものしかない。
- ・子ども食堂の数が不足している。
- ・夜間に対応できる居場所が少ない。
- ・乳幼児の預かりサービス、宿泊できるサービスが少ない。
- ・レスパイト（休息・息抜き）目的で母子が気軽に利用できる宿泊施設がない。
- ・児童福祉の分野では対応しにくい年齢（18～19歳）の子どもに対応できる拠点がない。

◆進学や就職に係る支援

- ・大学進学時の奨学金は増えてはきているものの、枠が狭い。
- ・不登校への対策が弱い。生活保護世帯の場合、不登校のまま、働かず、生活保護を継続するケースも多い。
- ・生活保護世帯へのまなべえ事業の周知が十分ではない。

◆社会的養護を必要とする子どもへの支援

- ・自立時の経済的支援。社会的養護自立支援事業だけでは足りない。
- ・ファミリーホームの数を増やすべきだが、補助がない。
- ・措置解除後に相談できる場所が少ない。特に児童養護施設を退所した子どもたちには帰る場所がない。

(5) 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、保護者、子ども共にストレスが高まり、生活リズムの乱れや親子関係が悪化してしまったという相談はあったが、相談内容の傾向に大きな変化があったという支援機関は少なかった。

- ・外出できない期間が長期間に及び、保護者も子どもも大変な時期を過ごしていた。
- ・子どもがストレスを抱え、イライラしたり、自傷行為が増えるケースもあった。
- ・休校中に子どもの生活リズムが崩れ、登校への意欲が低下した子どもも多い。
- ・漠然とした不安・悩みを訴える子どもが増えた。
- ・親子で過ごす時間が長くなったことにより、緊張感が高まったというケースもある。
- ・0～2歳児の子どもがいる家庭は特に、外出できず母がストレスを感じるという相談があった。
- ・外出自粛により支援機関と保護者との繋がりが薄くなる場合があった。
- ・新型コロナウイルス感染症を理由に面談や訪問を断られ、状況の確認ができなくなった家庭もあった。

(6) 今後必要となる支援や施策

予防的な視点で、妊娠・出産期から支援を開始し、就学時、進学時などの節目において、支援が途切れないよう関係機関間で情報を共有していくことが必要である。また、貧困の連鎖を断ち切るためには、子どもと保護者の両方へのアプローチが必要であり、相談者の困り感をキャッチし、必要なときに必要な支援を提供していくことが重要との意見が多く聞かれた。

◆妊娠・出産期からの切れ目のない支援：予防的な支援の強化

- ・産後ケア事業の利用をしやすくすべき。母子で気軽に休める場所、手を差し伸べてくれるサポートがあるとよい。
- ・保育所に通わせている子どもがいる母はみんな年に2回程度心理士と面談するよう働きかけるなど、早期に困り感をキャッチして支援に繋げるアプローチをすべき。
- ・学校では家庭環境調査から予防的に関わるので、入学時から児童をスクリーニングして、支援をコーディネートしていけるとよい。
- ・相談に行くことができない人へのアウトリーチ支援を充実させるべき。
- ・過去の相談歴を相談支援機関間で共有できるとよい。
- ・保育所での保護者の相談対応を専門に行う人が必要。
- ・母子保健、福祉の分野でと分けるのではなく、全体的にみる仕組みを作るべきである。制度の隙間に落ちることがないように引継ぎされ、見守りが継続されることが必要である。

◆将来の自立に向けた支援

- ・給付型の奨学金を増やしてほしい。
- ・児童養護施設、ファミリーホーム、母子自立支援施設等の退所後のアフターケア。
- ・児童福祉施設入所児童は、18歳～20歳で退所することになるが、年齢で切るのではなく、その子がその子のペースで自立できるような仕組みを作してほしい。

- ・ステップアップホームのような、ひとり暮らしを経験できるアパートのような施設があるとよい。
- ・小学生から利用できる学習支援があるとよい。

◆子どもの居場所の広がり

- ・自分の家族とは違う大人と触れ合い、家庭ではできない体験ができる機会、居場所があるとよい。
- ・誰でも利用できる居場所、学習支援があるとよい。
- ・夜間対応をしてもらえる機関や居場所があるとよい。
- ・子ども食堂や子どもの居場所の周知が必要。

◆気づき・つなぐ支援体制と見守り・支える暖かい地域環境を整える

- ・制度やサービスがわからない、申請の仕方がわからない人への説明会や窓口への同行などの寄り添い型の支援。
- ・困りごとを伝えると適切な機関や支援サービスを紹介してもらえるようなワンストップ窓口があるとよい。
- ・話す相手が誰もいない人も相当数いるので、ただ話を聞いてくれるだけの人がいるとよい。人々との繋がりが弱くなっている。大変な境遇にある保護者を同じ境遇の人と繋げてあげると、自分だけではない、と気持ちが楽になるようだ。
- ・申請から利用まで時間がかかったり、費用等の面で気軽に利用することができないサービスが多い。本当に困っている人が困っている時に使える制度、サービスが必要。
- ・地域の子ども・子育てを支援する団体に対する行政サービスの周知がより必要。

◆保護者への支援

- ・子どもの貧困は親の貧困であり、親の就労支援等が必要。
- ・子育てをしながら安心して働くことができる環境が必要。

座談会 実施結果

座談会参加者の状況と意見

【第1回】

参加者：10代後半～20代前半の児童養護施設入所経験者

（全員が18歳まで児童養護施設入所経験あり。）

＜参加者の状況＞

- ・施設退所後、就職したがほどなく退職し、現在は生活保護受給中。
- ・施設退所後、専門学校へ進学したばかり。アルバイトや学校生活等初めてのことが多すぎて不安が大きい。
- ・施設退所後、専門学校へ進学。専門学校卒業が迫ってきて、就職できるか不安。
- ・施設退所後、大学へ進学。

＜金銭管理を含めたアフターケアについて＞

- ・高校生のときにアルバイトで貯めたお金、施設入所期間の児童手当と貸与・給付型奨学金で学費と生活費は工面できるが、免許取得、就職時の引っ越し等に係る金額が不足するため、通学しながらのアルバイトが必要。
- ・施設職員に進学に係る費用について説明してもらったことで、早い段階で、今後貯めておく必要がある額を知ることができ助かった。
- ・施設出身者は金銭管理の感覚を身につけるのが難しい。自分は今でも一部を施設職員に管理してもらっている。

＜今後必要と思う支援＞

- ・自立して生きていくためにも、孤立しないことが重要。必要なときに相談できる相手がいなければならず、社会的資源としてもそのような相談機関や相談者が必要。
- ・人生に迷った人や失敗した人が来ることができる、手助けコーナーのような場所があるとよい。
- ・発達特性や性格問題に寄り添って支援するプログラムを行ってくれる場所があるとよい。
- ・小学生から高校生までが、安心して勉強やスポーツができ、相談もできてモデルとなるような大人がいる居場所が必要。
- ・高校の義務教育化。大学・専門学校の学費ももう少し下げてほしい。お金がないという理由で、やりたいことが妨げられない社会になってほしい。

【第2回】

参加者：20代前半～30代前半の生活保護受給世帯、ひとり親世帯出身者（不登校、ひきこもり、ヤングケアラーの経験もあり。）

＜参加者の状況＞

- ・小学校入学前に両親が離婚したため、小学生のときには学校を休んで幼稚園児の弟の面倒をみることがあった。その影響で学力が身につけていない分野がある。高校のころから不登校になったが、その後、若者支援施設の利用を開始し、支援施設職員の勧めもあって通信制高校に転入し、卒業することができた。
- ・高校生のときに自身が体調を崩し中退。両親の離婚後は母親と暮らしたが、母親も体調を崩し生活保護を受給した。母親は自分に優しくだったが、親に迷惑をかけられない、心配させたくないという心境で親に頼ることができなかった。
- ・小学校入学後すぐに親が自己破産したが、家族の状況が周りとは違うことを理解し始めたのは中学生から。奨学金を借りてまで大学に通うのがいやで、高校卒業後就職したものの仕事は続かず、22歳頃から祖母の介護をすることになった。
- ・小学校高学年から家庭の状況が悪く毎日怒鳴り声が響く状態で、中学校で不登校に。高校には進学しなかったが、兄弟の勧めで若者支援施設に通い始め、そこでできた友人との交流や職員の支援をきっかけに前向きになり、現在は仕事にも就くことができた。

＜今後必要と思う支援＞

- ・自立生活には居宅を構えることや家賃や光熱費に一番お金がかかるので、居宅生活を金銭的にサポートしてくれる制度があるとよい。
- ・若者支援施設は居場所や相談先として非常に心強い。高卒認定を取得する支援も行ってくれ、資格を取ることができた。今後の人生の選択肢を与えてくれた。
- ・居場所、相談先として機能して、ボランティアでもいいので今後の選択肢を与えてくれる場所が必要。
- ・人と出会う場所・繋がる場所がほしいけれど、最初の一步を踏み出すのは勇気がある。
- ・不登校、ひきこもり、家庭の問題などをLINEなどで気軽に相談できる仕組みがあるとよい。ある電話相談に電話してみたが、ずっと話中で繋がらなかった。
- ・通っていた高校が若者支援施設に繋いでくれた。友人は地方のサポステから紹介してもらった。支援機関同士が繋がって、多くの支援に繋いでもらえると心強い。